

戸田市 スマートウェルネスシティ 推進プラン（案）

第4次戸田市健康増進計画 第3次戸田市食育推進計画

歯科口腔保健推進計画 自殺対策計画 がん対策推進計画



令和6年3月

戸田市 スマートウェルネスシティ推進プラン 目次

第1章 スマートウェルネスシティ推進プラン	3
1 戸田市スマートウェルネスシティ推進プランの概要と背景	4
1) スマートウェルネスシティの理念	4
2) 計画の位置付け	6
3) 計画の期間	8
4) 策定体制	8
5) 国内の健康関連施策の動向	9
6) 現状分析	10
2 基本理念と方向性	20
1) 基本理念	20
2) 6つの柱	20
3) 施策の方向性	21
4) 施策の推進	22
3 6つの柱に位置付く施策	24
1) まちなかウォークابلとバイシクルシティの推進	25
2) 市民が自ら健康に取り組む環境整備	30
3) 市民協働による健康リテラシーの向上	35
4) 次世代に向けた女性の健幸と子育てに優しいまちづくり	40
5) いくつになっても生きがいを持ち外出できる環境整備	43
6) 多世代交流を促進する健康なまちづくり	47
4 推進体制と評価	51
1) 庁内における推進体制	51
2) 市民の取り組み	52
3) 行政の取り組み	53
4) 目指すまちづくり	54
5) 計画の評価	55
第2章 各計画の詳細	56
1 健康づくりの推進【第4次健康増進計画】	57
1) 計画策定の趣旨	57
2) 国及び県の基本的な方向	58
3) 戸田市のこれまでの取り組み	60
4) 前計画の評価	62
5) 現状分析の概要	63
6) 施策の展開【第4次健康増進計画】	72
7) 目標値と評価	80
2 食育の推進【第3次戸田市食育推進計画】	81
1) 計画の趣旨	81
2) 国及び埼玉県の基本的な方向	83

3) 戸田市のこれまでの取り組み.....	84
4) 前計画の評価	85
5) 現状分析の概要.....	86
6) 施策の展開【第3次食育推進計画】	100
7) 目標値と評価	106
3 歯科口腔保健の推進【歯科口腔保健推進計画】	107
1) 国及び県の基本的な方向	108
2) 戸田市のこれまでの取り組み.....	109
3) 前計画の評価	110
4) 現状分析の概要.....	111
5) 施策の展開【歯科口腔保健推進計画】	116
6) 目標値と評価	118
4 自殺対策の推進【自殺対策計画】	119
1) 国及び県の基本的な方向	119
2) 戸田市のこれまでの取り組み.....	120
3) 前計画の評価	121
4) 現状分析の概要.....	122
5) 施策の展開【自殺対策計画】	128
6) 目標値と評価	130
5 がん対策の推進【がん対策推進計画】	131
1) 国及び県の基本的な方向	131
2) 戸田市のこれまでの取り組み.....	132
3) 現状分析の概要.....	133
4) 施策の展開【がん対策推進計画】	137
5) 目標値と評価	139

第 1 章 スマートウェルネスシティ

推進プラン

1 戸田市スマートウエルネスシティ推進プランの概要と

背景

戸田市は、市民がそのまちに住むことで健やかで幸せになれる「健幸なまちづくり＝スマートウエルネスシティの推進」を目指しています。

戸田市スマートウエルネスシティ推進プラン（以下「SWC 推進プラン」という。）は、スマートウエルネスシティの実現に向けて、健康に関する様々な課題に対する効果的な施策を実施し、市民の健幸づくりを推進するため策定するものです。

SWC 推進プランは、都市整備分野、健康・福祉分野などの関連する計画等と整合・連携を図り、各関係部局が所管する施策・事業を健康に資する取り組みとして実施していくための指針となります。

計画の推進により、市民がまちなかを自然に「歩きたくなる」・無意識に「歩かされてしまう」ことで偶然の出会いを誘発し、多様な価値観を持つ人々が出会うことで、寛容性豊かな市民意識を醸成し、結果的に心身共に健幸になれるまちづくりを目指します。

（健幸：身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活を送れること）

1) スマートウエルネスシティの理念

戸田市は、スマートウエルネスシティを推進するため、平成 31 年 1 月 15 日よりスマートウエルネスシティ首長研究会に加盟しています（令和 5 年 10 月現在 全国 43 都道府県 126 市区町村が加盟）。その理念は、以下のとおりです。

スマートウエルネスシティ首長研究会・発起人会共同宣言

「ウエルネス（＝健幸：個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことのできること）」をこれからの「まちづくり政策」の中核に捉え、健康に関心のある層だけが参加するこれまでの政策から脱却し、市民誰もが参加し、生活習慣病予防及び寝たきり予防を可能とするまちづくりを目指す。そのために、科学的根拠に基づき市民の健康状態の改善が実証された以下の健康なまちづくり政策を、自治体間の連携によって推進していこうとするものである。

- 1) 健康に対する望ましい生活を啓蒙する教育の充実
- 2) 健康への貢献も視点に入れたまちの美的景観及び歩道や自転車道、及び公園整備の推進
- 3) 健康への貢献も視点に入れた都市交通網及び商店街の整備
- 4) 夜でも歩ける治安の維持・強化
- 5) 健康づくりの視点からも地産地消ができる農業等の推進
- 6) 地域での健康づくりネットワークを支援する、先端的健康サービス産業の育成

これらにより、世界で未だ確立されていない「少子高齢・人口減社会」の克服を可能とするまちづくり「スマートウエルネスシティ」の具体策を創造・構築することを目的とする。

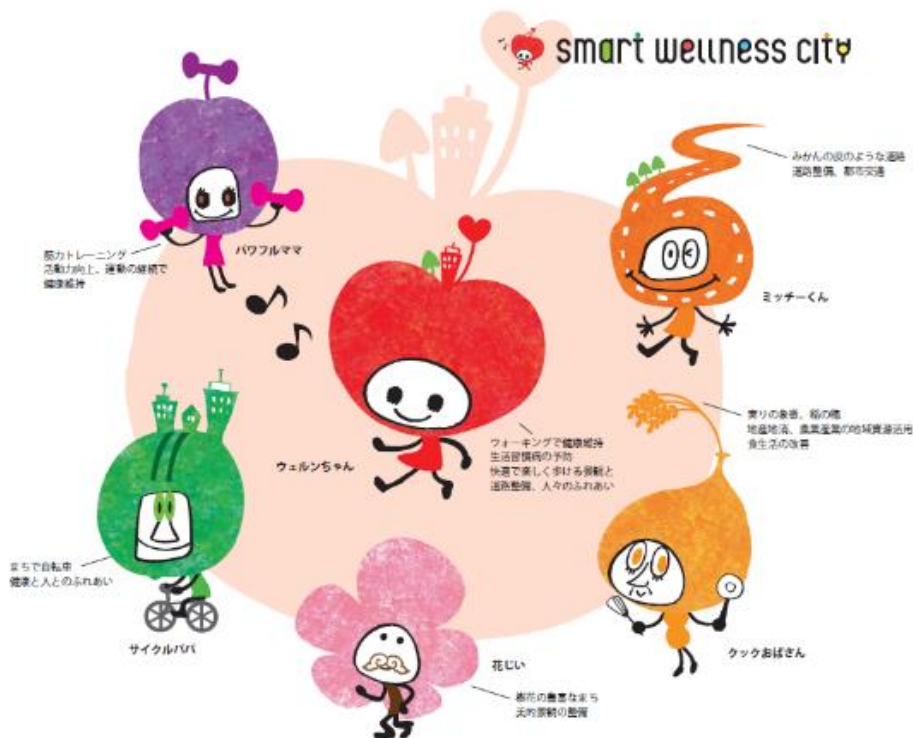
出典「平成 21 年 11 月 23 日 スマートウエルネスシティ 首長研究会・発起人会共同宣言」

図● スマートウェルネスを推進するまちのイメージ



スマートウェルネスを推進するまちでは、電車やバス等の公共交通が整備され、歩行者と自動車・自転車は互いに安全に通行できるように空間設計されており、緑があふれ、飲食店等の商業施設も充実しています。そのまちで生活する市民は、まちなかで集い、子どもからシニアまで多世代と交流し、自然にまちを歩くことで、生きがいを感じ、健やかで豊かな生活を送ることができます。

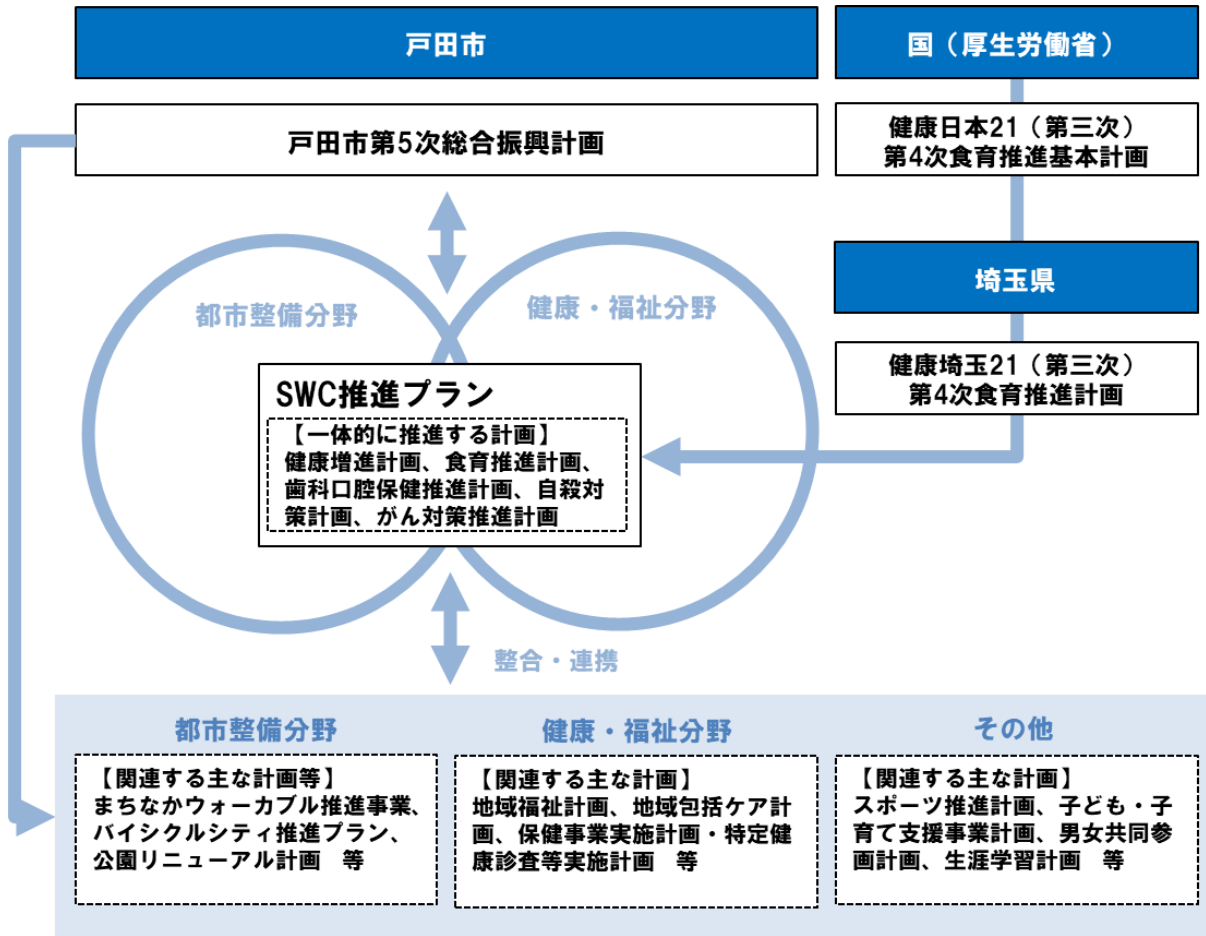
図● スマートウェルネスシティのイメージキャラクター



2) 計画の位置付け

SWC 推進プランは、「戸田市第 5 次総合振興計画」を上位計画としており、国及び埼玉県の基本方向性を踏まえて策定された 5 つの計画 (①健康増進計画、②食育推進計画、③歯科口腔保健推進計画、④自殺対策計画、⑤がん対策推進計画) と、都市整備分野と健康・福祉分野におけるスマートウェルネスシティの推進に関連する計画との整合・連携を図るものとして、位置付けられています。

図表●：SWC 推進プランの位置付け



表● SWC 推進プランに関連する主な計画の基本理念

計画名	基本理念
SWC 推進プラン	まちなかを自然に歩きたくなることで、多世代の集いと交流が生まれ、生きがいを感じながら健幸に暮らすことのできるまちづくり

●一体的に推進する計画

計画名	基本理念
健康増進計画	全ての市民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現
食育推進計画	市民の健康な食生活の実現と、環境や食文化を意識した持続可能な社会の実現
歯科口腔保健推進計画	健康で質の高い生活を営む基盤となる歯科口腔保健の実現
自殺対策計画	「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現
がん対策推進計画	誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての市民とがん克服を目指す

●関連する主な計画等(都市整備分野)

計画名	基本理念
まちなかウォークアブル推進事業	多様な人々が集まり、交流できるまちなかの賑わいの場の創出
バイシクルシティ推進プラン	市民や来訪者が安全・安心で快適に自転車利用できるまちづくりの推進
公園リニューアル計画	楽しい！気持ちいい！とっても大好き！ オールとだで築く新たな公園づくり

●関連する主な計画(健康・福祉分野)

計画名	基本理念
地域福祉計画	やわらかに響きあう～認めあい、話しあい、支えあい、ホッとする戸田(とだ)～
地域包括ケア計画	共に生き、支え合い、安心して暮らせるまちの実現
国民健康保険・保健事業実施計画(データヘルス計画)・特定健康診査等実施計画	PDCA サイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業の推進

●関連する主な計画(その他)

計画名	基本理念
スポーツ推進計画	スポーツを楽しむ・ささえる・未来につなげる 戸田
子ども・子育て支援事業計画	子どもが輝くまち とだ ～子どもとおとなでつくる確かな次代～
とだあんさんぶるプラン ～男女共同参画計画(改訂版)～	みんなが認めあい・支えあい・輝くまち とだ
生涯学習推進計画	描こう!これからのわたしの人生・まちの未来 ～人生100年時代を共創する戸田へ～

3) 計画の期間

SWC 推進プラン及び健康増進計画・食育推進計画・歯科口腔保健推進計画・自殺対策計画・がん対策推進計画の期間は、令和 6(2024)年度から令和 11(2029)年度までの 6 年間とします。

なお、取り組みの進捗状況を把握するため、市民アンケート調査を令和 10(2028)年度に行い、調査結果などに基づく評価を令和 11(2029)年度に実施します。

4) 策定体制

(ア) 戸田市保健対策推進協議会

戸田市の総合的な保健対策を推進する上で必要な事項を協議するために設置されている「戸田市保健対策推進協議会」を本計画の策定委員会として位置付けます。委員は市民、保健福祉関係者、学識経験者等から成り、市長の諮問に応じて、戸田市健康なまちづくり推進庁内会議における協議を経て作成された計画案を審議し、市長に答申します。

(イ) 戸田市健康なまちづくり推進庁内会議

計画内容は、健康なまちづくりに関係のある所属で構成された「戸田市健康なまちづくり推進庁内会議」で調整・検討を行います。

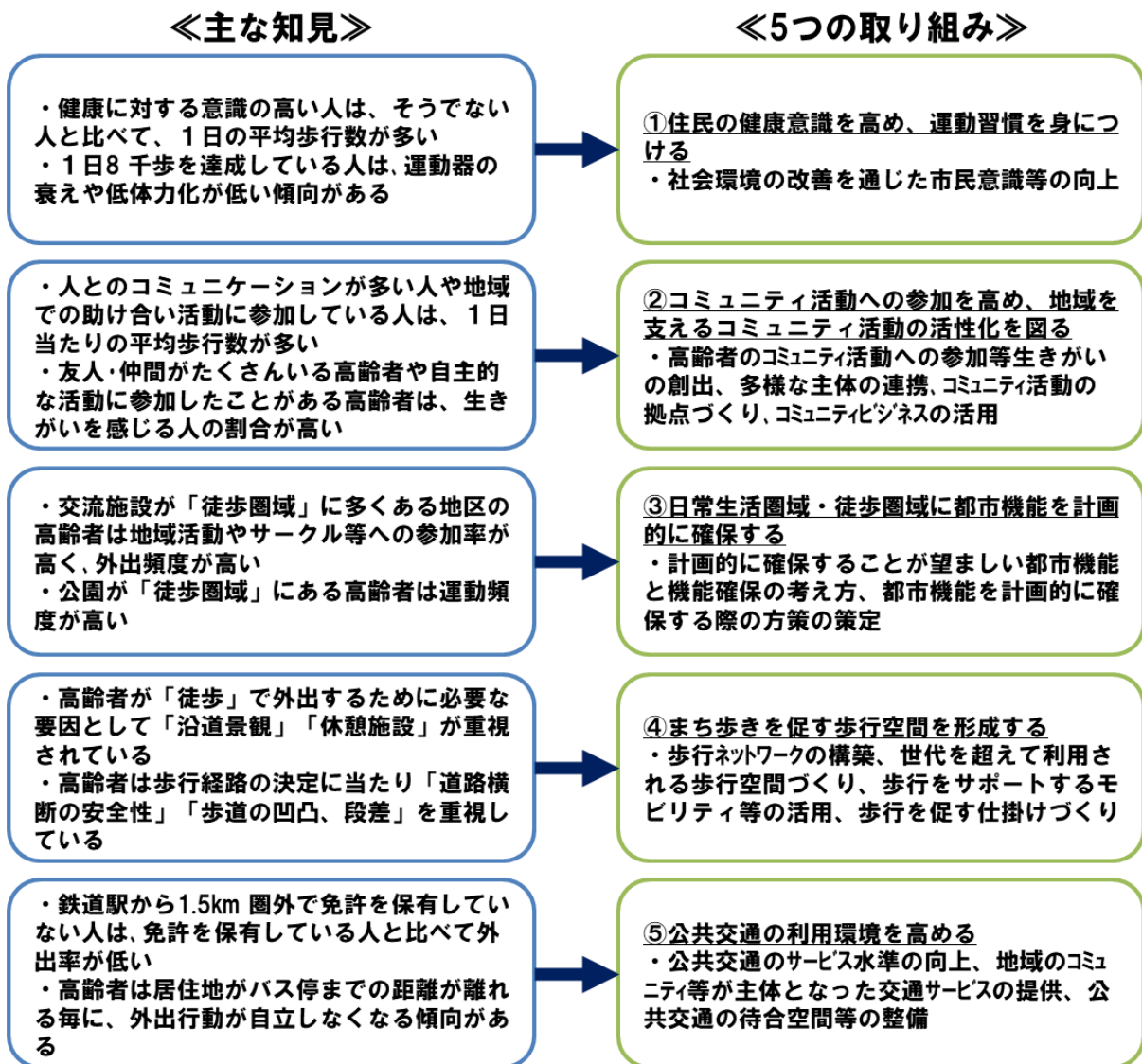
5) 国内の健康関連施策の動向

国の施策

(ア)「健康・医療・福祉のまちづくりガイドライン(国土交通省)では、健康なまちづくりを推進するために、知見に基づく5つの取り組みを推進することが効果的とされています。戸田市で健康なまちづくりを推進する上でも、国の施策等を参考にしながら取り組みを検討していきます。

図表● 健康なまちづくりを推進するための5つの取り組み

出典「平成26年8月 健康・医療・福祉のまちづくり推進ガイドライン(国土交通省)」



(イ) 健康日本21(第三次)-自然に健康になれる環境づくり-(厚生労働省)

健康日本21(第三次)では、「自然に健康になれる環境づくり」を基本的な方向に位置付けています。これは健康寿命を延伸するためには、自分から健康づくりに積極的に取り組む人だけでなく、健康に関心の薄い人を含む、幅広い市民に対してアプローチを行うことが重要であることが示されたものです。

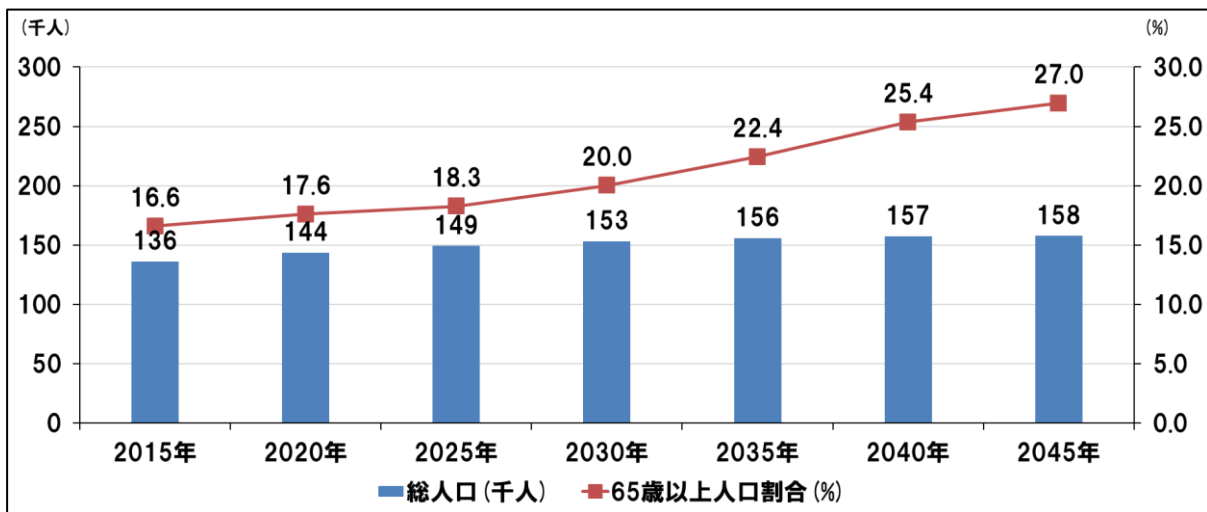
6) 現状分析

SWC 推進プランは、人口動態や健康寿命などに関するデータの分析結果を基に策定を行っています。主な現状分析の結果は以下のとおりです。※詳細な結果は補足資料(P.●~P.●)に掲載しています。

(ア) 人口動態

戸田市は、県内で最も若いまちですが、高齢化率は18.3%(2025年)から27.0%(2045年)に増加することが見込まれています。

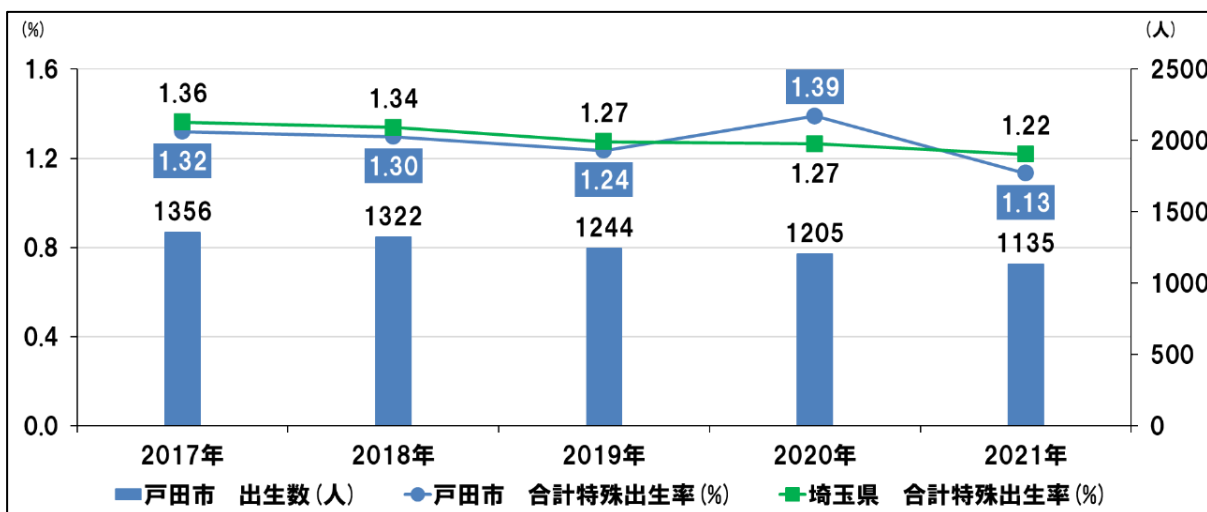
図表● 人口と高齢化率の将来推計



(出典)「日本の市区町村別将来推計人口(2018推計)(国立社会保障・人口問題研究所)」

合計特殊出生率は1.13%で、2021年時点で県平均(1.22%)を0.09%ほど下回っています。

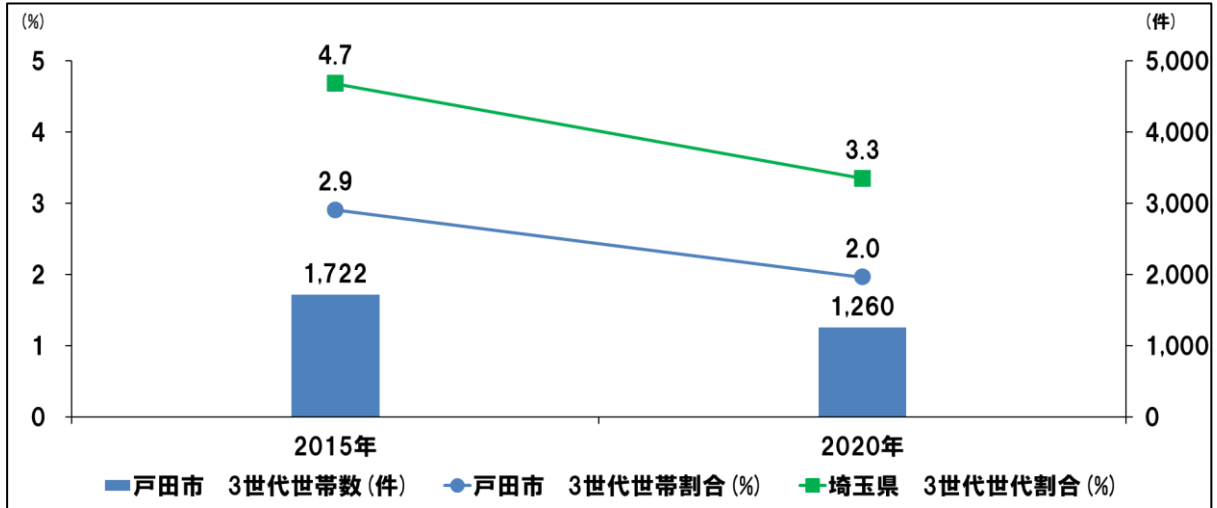
図表● 合計特殊出生率と出生数の推移



(出典)「令和2年3月 第二期戸田市子ども・子育て支援事業計画 ※埼玉県の人口動態概況(埼玉県)」

世帯構成をみると、3世代世帯の割合は2.0%で、県全体でみた割合の3.3%よりも1.3%低く、世帯数も減少しています。

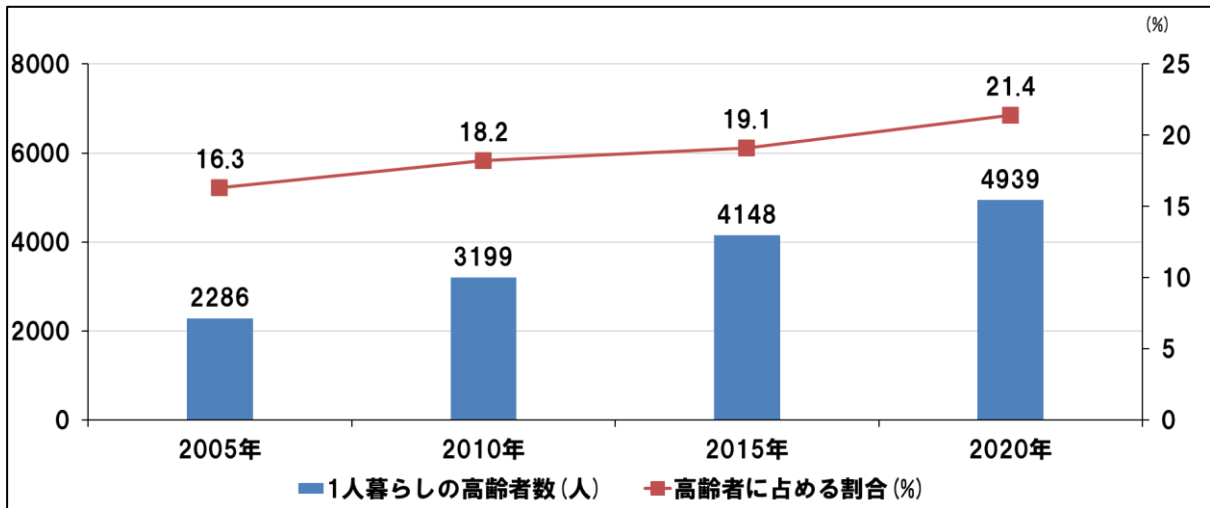
図表● 3世代世帯の割合と世帯数の推移



(出典)「平成27年及び令和2年 国勢調査(総務省)」

1人暮らしの高齢者割合は、2,286人(2005年)から4,939人(2020年)と約2倍に増加しており、今後も増加する見込みです。

図表● 1人暮らしの高齢者数と割合の推移

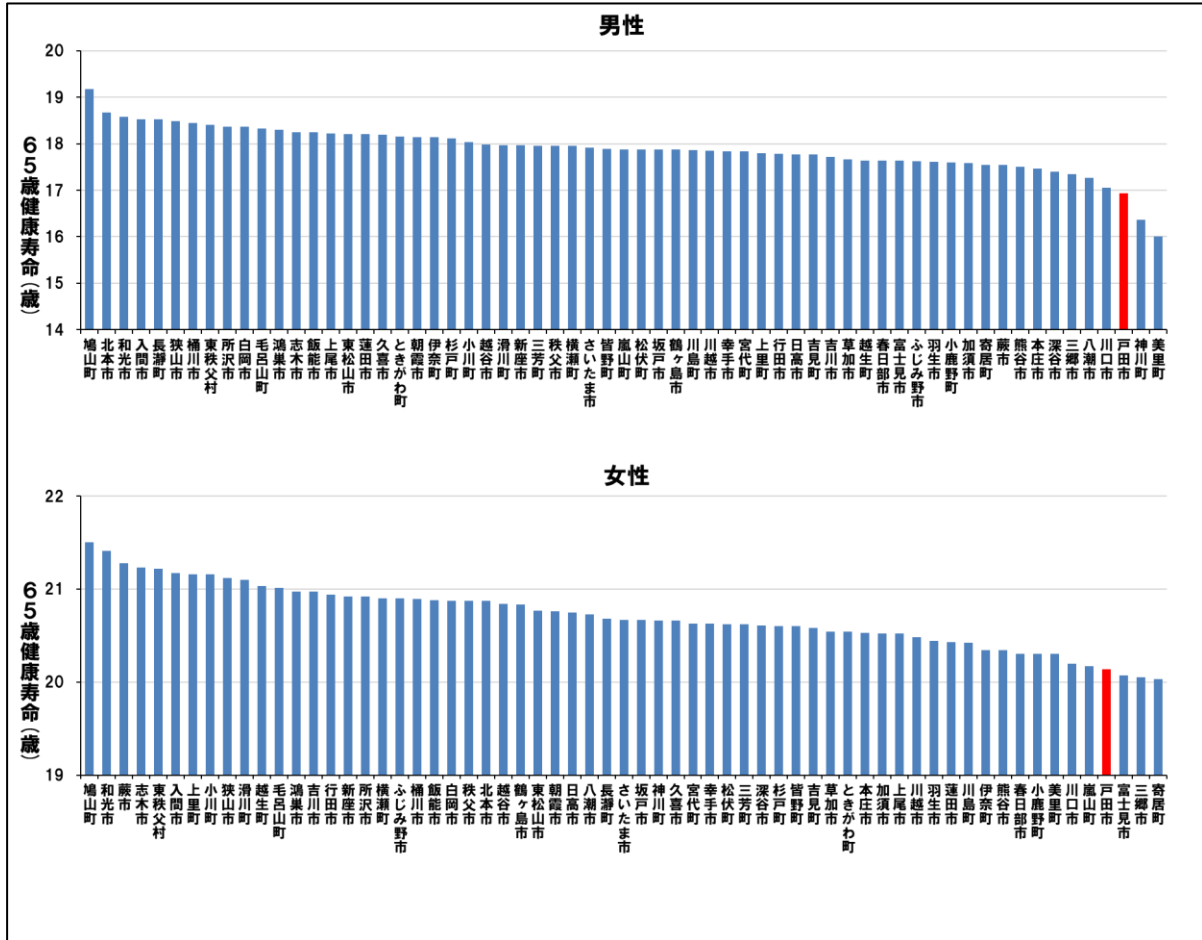


(出典)「2022年度版 戸田市の健康指数(埼玉県) ※国勢調査(総務省)」

(イ) 健康寿命

健康寿命とは、要介護状態などにならず日常生活を送ることができる期間を表します。男性は県で3番目に短く、女性は4番目に短くなっています。

図表● 戸田市と埼玉縣市町村の健康寿命



出典「統計からみた埼玉縣市町村のすがた 2023 ※2020年 県衛生研究所資料(埼玉県)」

【コラム】 健康づくり無関心層の実態

	生活習慣病の予防に必要な運動量不足 (67.5%)		運動充足 (32.5%)
	運動実施意思なし (71.0%)	運動実施意志あり (29.0%)	
健康的な生活を送るための情報収集・試行	していない	している	している

出典「平成 22 年度 総務省地域 ICT 利活用広域連携事業」

運動未実施の市民(全体の7割)のうち、運動実施の意思のない、いわゆる無関心層は7割を占めるとされています。無関心層の健康増進に向けた対策としては、無関心層のままでも、そのまちに住むだけで自然と歩きたくなり、健康になれるまちづくりを推進することや、地域や職域における口コミで健康情報を届けることにより行動変容を促す等の対策が必要と考えられています。

(ウ) 死因

死因の1位は悪性新生物（がん）で、2位心疾患、3位脳血管疾患の順となっています。これらの疾患のほとんどは、生活習慣の改善により予防ができる疾病とされています。

図表● ライフステージ別死因順位(2017-2021年)

	幼年期 (0-4歳)	少年期 (5-14歳)	青年期 (15-24歳)	壮年期 (25-44歳)	中年期 (45-64歳)	高齢期 (65歳以上)	総数
第1位	先天奇形、変形及び染色体異常 38.5%	悪性新生物 33.3%	自殺 63.6%	悪性新生物 31.6%	悪性新生物 41.5%	悪性新生物 29.1%	悪性新生物 30.5%
第2位	周産期に発生した病態 15.4%	自殺 16.7%	悪性新生物 9.1%	自殺 17.9%	心疾患 (高血圧性を除く) 11.2%	心疾患 (高血圧性を除く) 12.9%	心疾患 (高血圧性を除く) 12.7%
第3位 (高血圧性を除く)	心疾患 7.7%		貧血 9.1%	心疾患 (高血圧性を除く) 15.8%	脳血管疾患 7.9%	肺炎 8.0%	脳血管疾患 7.3%
第4位	急性気管支炎 7.7%		大動脈瘤及び解離 9.1%	脳血管疾患 4.2%	自殺 5.1%	脳血管疾患 7.4%	肺炎 7.2%
第5位			不慮の事故 9.1%	不慮の事故 3.2%	肝疾患 4.0%	老衰 7.2%	老衰 6.2%
第6位				肝疾患 2.1%	肺炎 3.1%	不慮の事故 1.9%	不慮の事故 2.0%
第7位				敗血症 1.1%	不慮の事故 2.0%	腎不全 1.8%	腎不全 1.7%
第8位				ウイルス性肝炎 1.1%	糖尿病 1.5%	大動脈瘤及び解離 1.6%	大動脈瘤及び解離 1.6%
	その他 30.8%	その他 50%		その他 23.2%	その他 23.7%	その他 30.1%	その他 30.9%

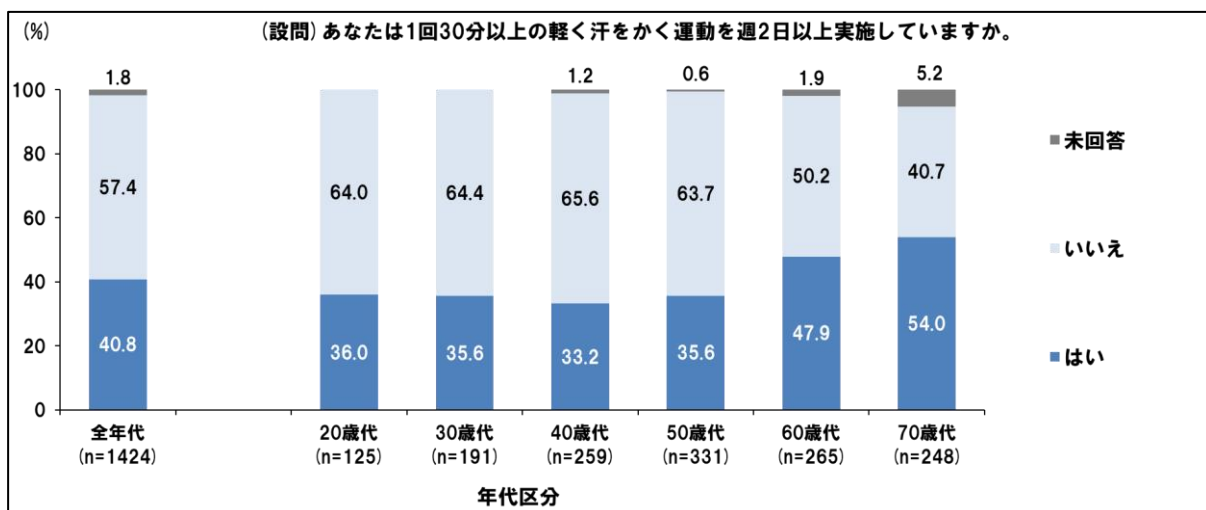
出典「2022年度版 戸田市の健康指数(埼玉県)」

また、自殺を考えたことのある人の割合は、市民アンケートの結果によると市民の20%を占めており、身近な相談相手のいない人で、その割合が多くなっています。

(エ) 生活習慣

60歳未満で運動習慣のある人は約4割で、6割は運動習慣が無い状況です。運動不足は生活習慣病による死亡や、認知症や要介護状態になることに影響しています。

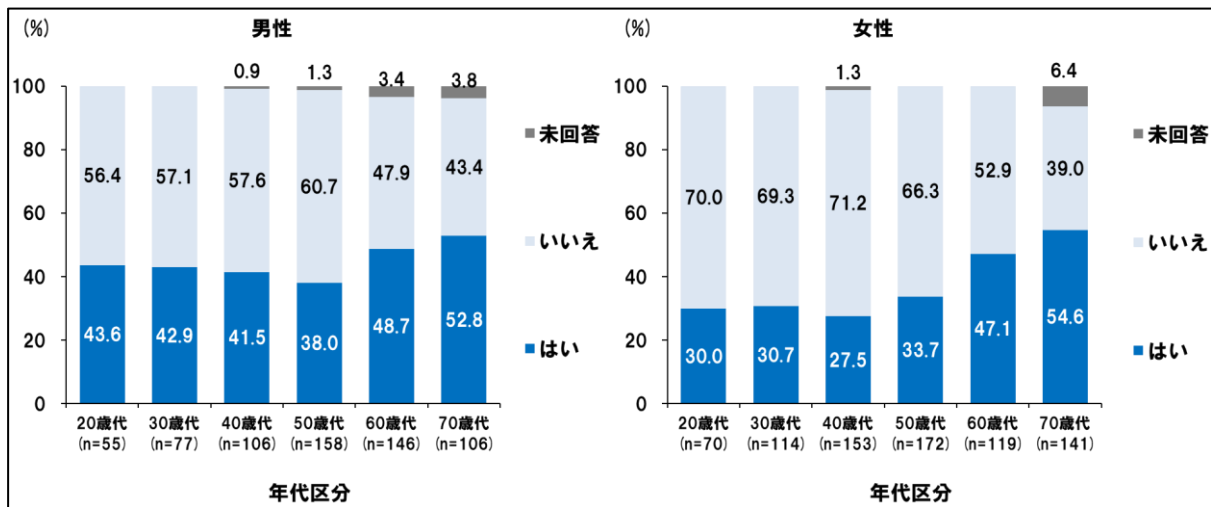
図表● 運動習慣者の割合(年代別)



出典「令和4年度 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(戸田市)」

性・年代別の運動習慣では、20～40歳代の女性で運動習慣者の割合が少なくなっており、50歳代においても33.7%とやや少ない状況です。若年女性～子育て中の女性の運動習慣の低下は、本人やその子どもの将来の健康に関わります。20～40歳代はまだ健康課題を実感しにくい時期ではありますが、生涯にわたって健康に過ごすためには、若いうちから運動習慣を定着する取り組みが必要と考えられます。健康日本21(第三次)においても、ライフコースアプローチとして、「若年女性のやせの減少」が、目標の一つとして掲げられています。若年女性の過度なダイエットなどを起因とするやせによる骨粗鬆症を予防するためには、栄養バランスの良い食事のほか、筋力低下を予防することも大切であり、そのための運動習慣定着が重要であるとされています。

図表● 運動習慣者の割合(性・年代別)

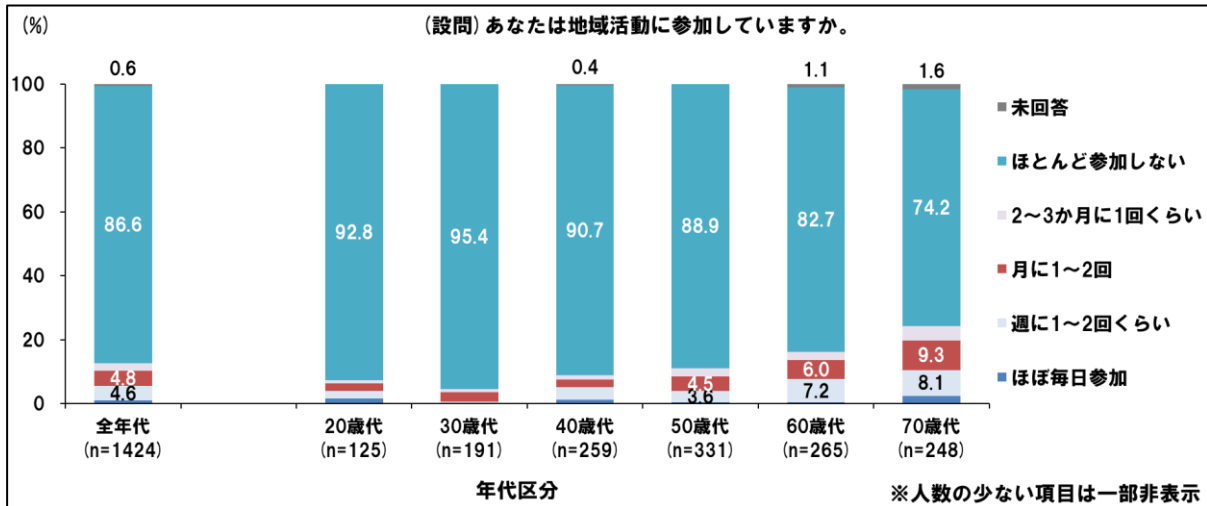


出典「令和4年度 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(戸田市)」

(オ) 社会参加

地域活動に参加している人の割合は、50歳未満で10%未満、60歳以上でも30%未満という状況です。健康日本21(第三次)では、ライフコースアプローチとして、「社会活動を行っている高齢者の増加」を目標の一つに掲げており、社会参加や就労が健康を増進し、死亡リスクや要介護状態になるリスクの低下につながることを示しています。

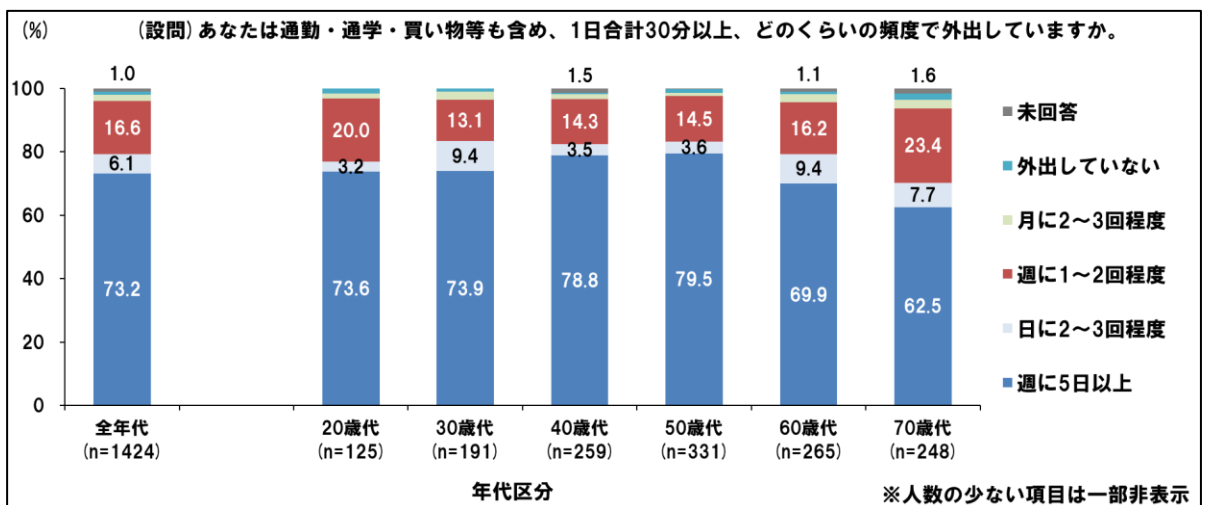
図表● 地域活動の参加状況(年代別)



出典「令和4年度 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(戸田市)」

外出頻度が週5日以上の人割合は、全年代で73.2%、60歳代で69.9%、70歳代では62.5%と、40~50歳代をピークに、外出頻度は徐々に減少する傾向となっています。外出頻度の減少は、身体機能や認知機能の低下につながる恐れがあります。また外出頻度の少ない人は多い人と比較して、うつ傾向の人の割合が多くなっています。

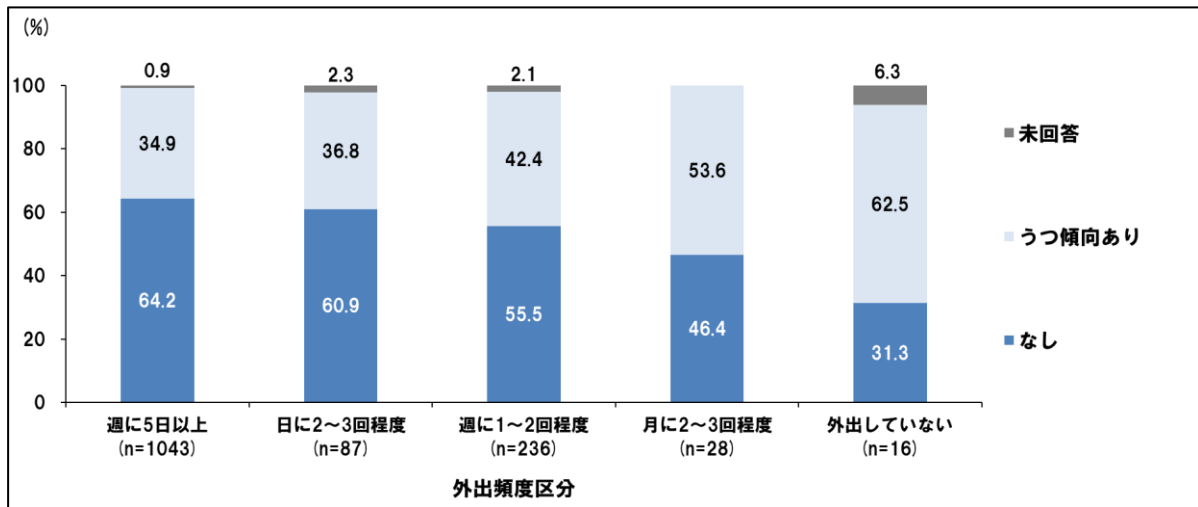
図表● 外出頻度(年代別)



出典「令和4年度 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(戸田市)」

図表● 外出頻度とうつ傾向※の割合

※うつ傾向 WHO-5 精神的健康状態表の得点より 13 点未満を「うつ傾向」と定義

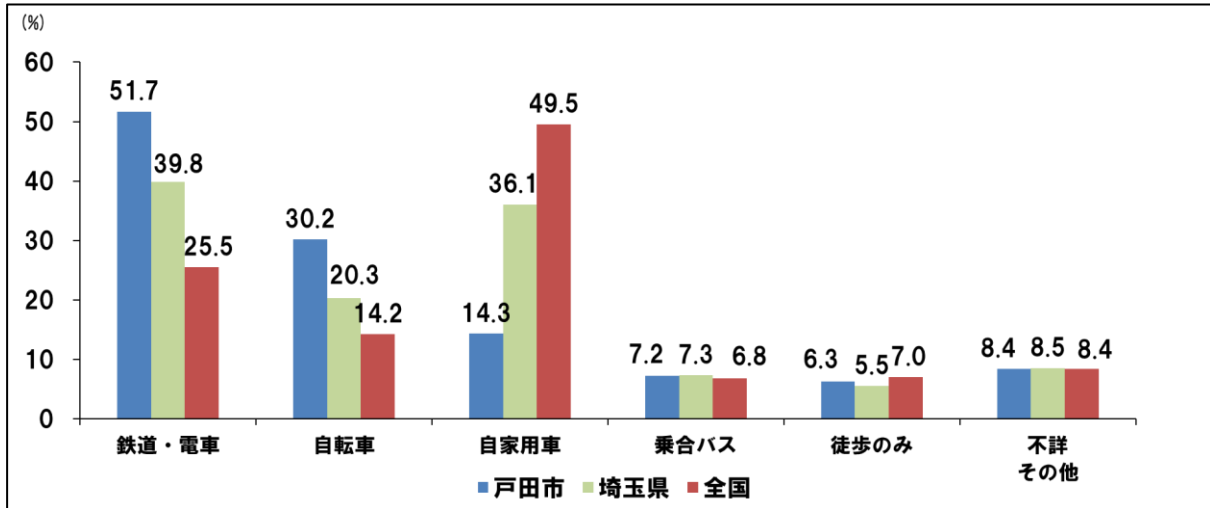


出典「令和4年度 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(戸田市)」

(カ) 移動手段

通勤通学の利用交通手段は電車が51.7%、自転車30.2%、自家用車14.3%です。戸田市は県や全国と比較して、電車や自転車を利用する人の割合が多く、日常の移動による身体活動は行いやすい状況です。

図表● 通勤・通学の利用交通手段 ※複数回答

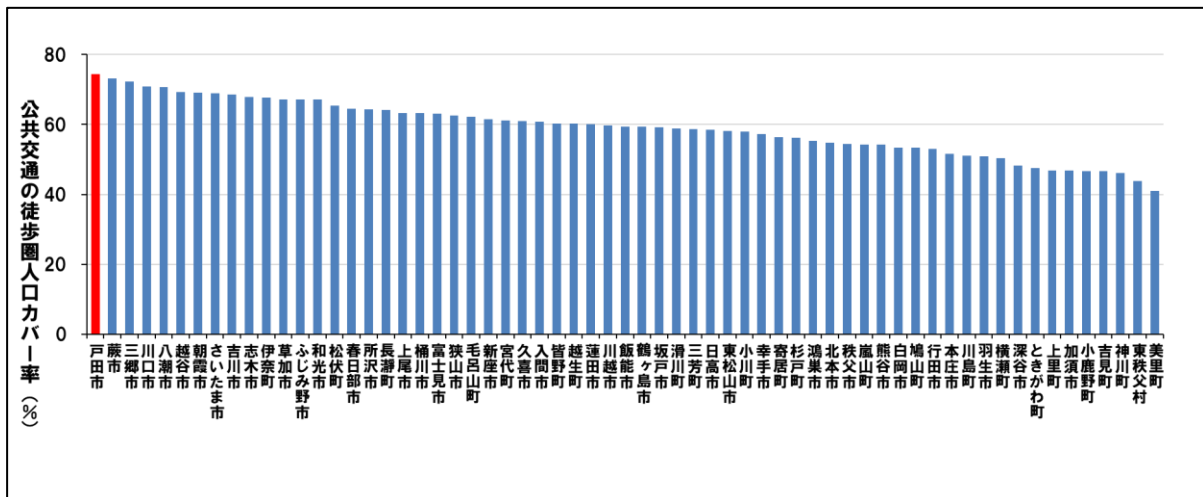


出典「令和2年度 国勢調査(総務省)」

(キ) 都市環境

公共交通の徒歩圏人口カバー率は県内1位で、公共交通にアクセスしやすい交通網が整備されています。

図表● 公共交通の徒歩圏人口カバー率



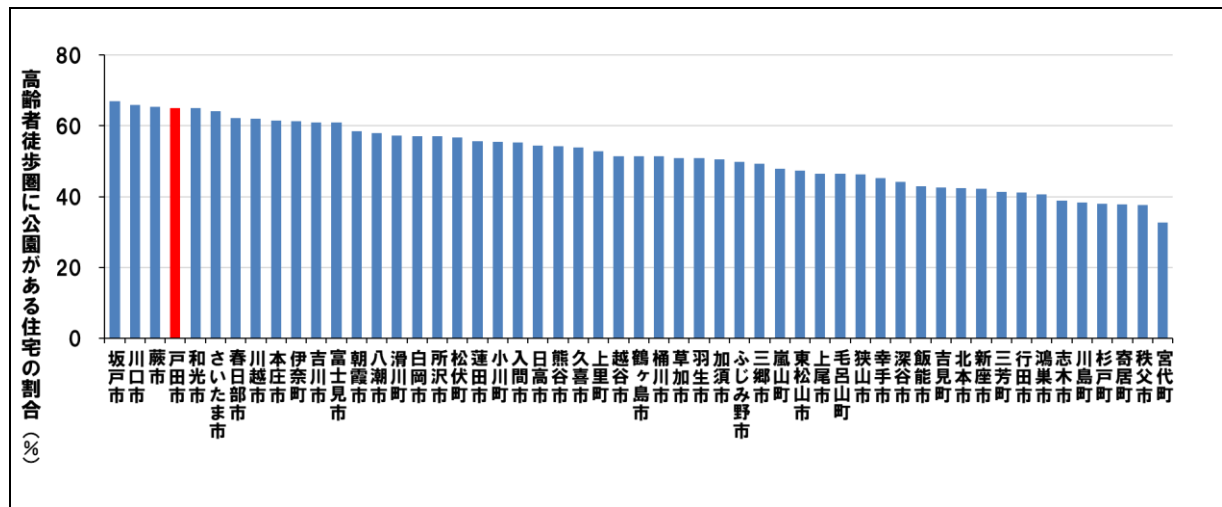
出典「平成30年 都市モニタリングシート全体表(国土交通省)」

※公共交通の徒歩圏人口カバー率 鉄道駅から800m圏、又は、バス停留所から300m圏内の人口÷市町村人口

高齢者徒歩圏に公園がある住宅の割合は県内4位で、市民の身近に公園が存在しています。戸田市のこれらの都市環境は、歩きたくなるまちづくりを推進しやすい環境となっています。一方で、「戸田市は自然と歩きたくなるまちか」の問いにおいて、「とてもそう思う」は11.8%、「ややそう思う」は41.6%となっています。そして、「とてもそう思う」と答えた人はそうでない人と比較して、こころの健康状態も良い傾向がみられています。そのため、戸田市の歩きやすい都市環境を活かしながら、市民が歩きたくなるまちと感じられる、取り組みを推進していくことが必要です。

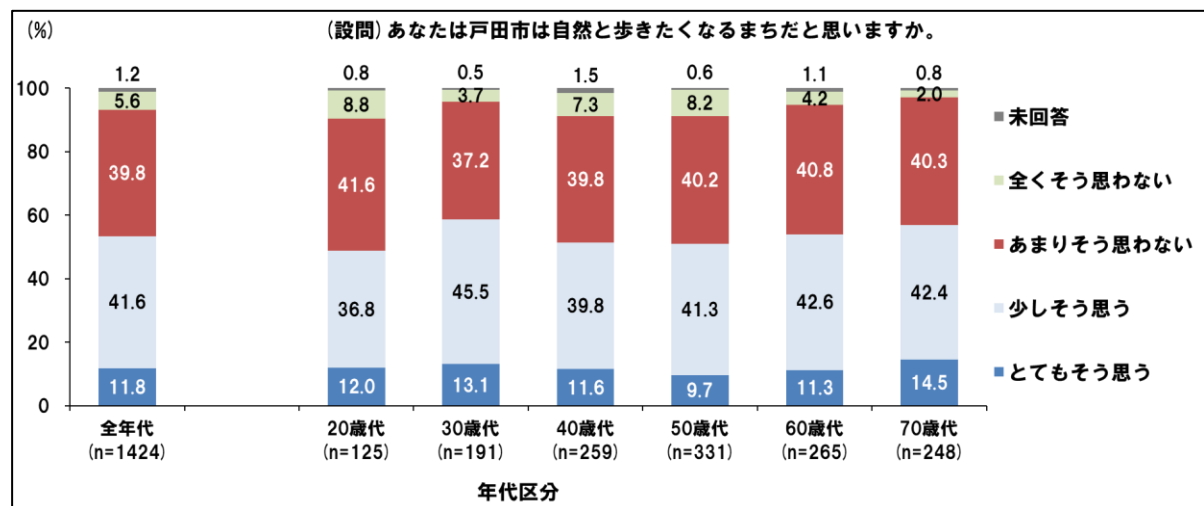
※高齢者徒歩圏 ※最寄りの公園までの距離 500m 未満の世帯数÷総世帯数

図表● 高齢者徒歩圏に公園がある住宅の割合



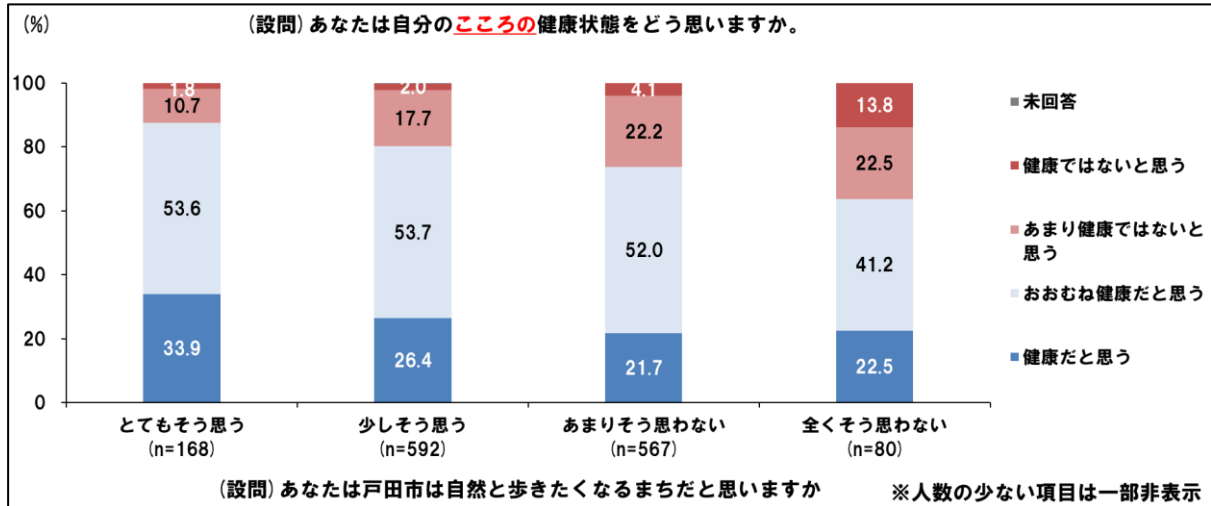
出典「平成 30 年 住宅・土地統計調査(総務省統計局)」

図表● 戸田市を自然と歩きたくなるまちだと思う割合



出典「令和 4 年度 戸田市健康づくりに関する市民アンケート(戸田市)」

図表● 歩きたくなるまちの意識とこころの健康状態

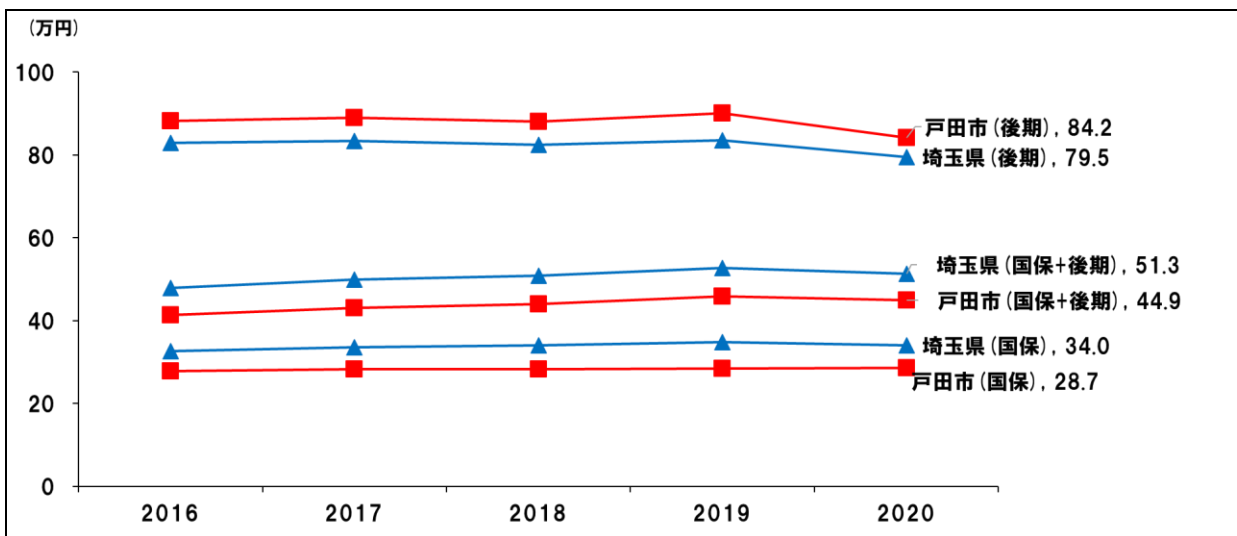


出典「令和4年度 戸田市健康づくりに関する市民アンケート(戸田市)」

(ク) 医療介護

国民健康保険の1人当たり医療費は県で3番目に低く、後期高齢者の1人当たり医療費は県で12番目に高い状況で、保険者により医療費の傾向が異なる状況です。

図表● 戸田市と埼玉県の1人当たり医療費の推移(保険者別)



出典「2016-2020 医療費の地域差分析(厚生労働省)」

要介護認定率は17.4%で、同規模自治体(18.4%)、国(19.4%)よりも低い状況ですが、県(17.0%)よりやや高い状況となっています。

図表● 要介護認定率

項目	戸田市	県	同規模	国
第1号要介護認定率	17.4	17.0	18.4	19.4

出典「令和4年度 KDB データ地域の全体像の把握(戸田市)」

2 基本理念と方向性

1) 基本理念

まちなかを自然に歩きたくなることで、多世代の集いと交流が生まれ、
生きがいを感じながら健幸に暮らすことのできるまちづくり

2) 6つの柱

SWC 推進プランは、以下に掲げる、エビデンスに基づく6つの柱を中心に推進していきます。

- I. まちなかウォークブルとバイシクルシティの推進
- II. 市民が自ら健康に取り組む環境整備
- III. 市民協働による健康リテラシー※の向上
- IV. 次世代に向けた女性の健幸と子育てに優しいまちづくり
- V. いくつになっても生きがいを持ち外出できる環境整備
- VI. 多世代交流を促進する健康なまちづくり

※健康リテラシー（ヘルスリテラシー） 健康に関する情報を取得し、それを活用する知識や意欲及び能力のことをいいます。健康リテラシーを高めることは健康増進につながり、生涯を通じた生活の質の維持・向上が見込めます。

出典「2012 Health literacy and public health (Sorensen K, et al.)」より一部改変

3) 施策の方向性

SWC 推進プランでは、スマートウェルネスシティの考え方に基づき、まちなかや公園、駅前、公共施設等を人の集まりやすい空間にし、地域における人と人とのつながりや交流を健康に関連付けて促進します。

戸田市で暮らす市民の日常生活における様々な行動を健康に結びつける施策を展開し、健康づくりに関心の低い無関心層も含めた市民が自然と健康になれるまちづくりを進めます。

【コラム】歩くことはなぜ必要か

身体活動・運動の量が多い人は、少ない人と比較して、糖尿病、循環器病、がん、ロコモティブシンドローム、うつ病、認知症等の発症リスクが低いことが報告されています。

出典「令和 5 年 健康日本 21 (第三次) 推進のための説明資料(厚生労働省)」

また「健康・医療・福祉のまちづくり」の取り組み効果の一つとして、歩く効果を通じた年間の医療費の抑制効果として「歩数 1 歩当たり 0.061 円/歩」が示されています。

【取り組み効果の事例】

(年間の医療費抑制効果) = 歩行数の増加した住民数 × 1 日当たりの歩数増加量 × 0.061 円/歩 × 365 日 ※筑波大学 久野研究室による試算

出典「平成 26 年 8 月 健康・医療・福祉のまちづくり推進ガイドライン(国土交通省)」

4) 施策の推進

健康づくりは、健康に直接かかわる分野での仕組みづくりや情報提供といったソフト面の取り組みだけでは、施策・事業の実施効果が限定されてしまいます。

SWC推進プランでは、健康づくりの視点から、市の人口動態や健康寿命などに関するデータの分析結果をもとに、さまざまな分野の施策・事業を実施し、「空間（ハード）」と「仕組み（ソフト）」の両面を整備するとともに、市民や地域の自主的な活動を促すことで、健康なまちづくりを効率的・一体的に進めていきます。



そして、「空間(ハード)の整備」と「仕組み(ソフト)の整備」それぞれの施策を融合して推進することで、スマートウェルネスシティの実現を目指します。



【関連する取り組み】市民活動団体や民間企業との協働・連携

市民活動団体や民間企業との協働・連携は、SWC 推進プランにおける6つの柱に位置付く施策を健康づくりに結び付けて進めていく取り組みと関連しています。

戸田市では、ボランティア・市民活動支援センターにおいて、各市民団体への活動促進を支援しています。「戸田市共創のまちづくり補助金制度」では、地域課題の解決へ向けた事業への支援も行っています。

また、複雑化する行政課題や地域問題等を迅速かつ柔軟に解決するため、公民連携提案窓口「とだらボ」を設置しています。「とだらボ」では、多様な分野において民間企業等と行政がそれぞれの持つ資源や特色、ノウハウを活かした公民連携に取り組むため、アイデアや事業提案を募集し、様々な公民連携事業を行っています。

ボランティア団体や市民活動団体、民間企業といった地域資源と協働・連携した取り組みが、健康なまちづくり・スマートウェルネスシティの実現につながります。

3 6つの柱に位置付く施策

SWC 推進プランは、市の人口動態や健康寿命などに関するデータの分析結果をもとに、市の特徴等を踏まえた施策・事業に取り組むことで、スマートウェルネスシティの実現を目指します。

柱	市の特徴 等	健康×施策・事業の取り組み
まちなかウォークアブルとバイシクルシティの推進	公共交通にアクセスしやすいまち 日常で自転車利用をする人が多いまち	健康×まちなかウォークアブルの推進 健康×バイシクルシティの推進
市民が自ら健康に取り組む環境整備	運動習慣の無い人の割合が約6割 身近に公園があるまち	健康×インセンティブ 健康×公園利活用
市民協働による健康リテラシーの向上	健康づくりに関心の低い層が約7割 健康寿命が県平均よりも短い 主な死因は生活習慣病の割合が多い	健康×口コミ 健康×イベント 健康×健康データの利活用
次世代に向けた女性の健幸と子育てに優しいまちづくり	20～40歳代の女性の運動習慣が少ない 3世代世帯の割合が減少している	健康×若年層女性・子育て世代 健康×つながり
いくつになっても生きがいを持ち外出できる環境整備	1人暮らしのシニアが増加している 豊富な生涯学習のメニューがある 70歳代になると外出頻度が低下する	健康×通いの場 健康×生涯学習 健康×社会参加
多世代交流を促進する健康なまちづくり	子どもの運動習慣定着の取り組みを進めている 3世代世帯の割合が減少している	健康×運動・スポーツ 健康×多世代の交流

1) まちなかウォーカブルとバイシクルシティの推進

戸田市の特徴と目指す姿、取り組み

市の
特徴



公共交通にアクセス
しやすいまち

日常で自転車を利用す
る人の割合が多いまち

P●(キ) 都市環境より

P●(カ) 移動手段より

目指
す姿

まちなかに、ストレスなく行くことのできる空間、歩きたくなる空間をつくり、あらたな賑わいの場を創出し、歩行や運動の習慣化と外出機会の増加を促すことで、市民の健康寿命延伸を目指す

取り
組み

健康×まちなか
ウォーカブルの推進

健康×バイシクル
シティの推進

➤ 健康×まちなかウォークブルの推進

駅周辺の街路や緑地、公園等の公共空間を、居心地がよく、歩きたくなる、人中心のウォークブルな空間に転換することで、子どもから高齢者まで多世代の人々が集まり、交流出来る新たな賑わいの場を創出し、健康維持や増進に寄与する取り組みを進めます。

(A) 公園のような道路

- ・道路が公園アメニティ空間としてポテンシャルを発揮
- ・散策などを楽しむ移動や滞在が増加



(B) ストリートイベント等活動空間を備えた道路

- ・駅前よりに多様なイベントが開催できるオープンスペースの確保
- ・ゆとりある良質な空間(緑等)、災害時にも活用可能



(C) コミュニケーション、店舗サービス機能を持つ道路

- ・沿道店舗が路側を利用してサービスを提供(オープンテラスなど)
- ・ベンチ等のストリートファニチャーで気軽に休憩できる空間



まちなかウォークブルのイメージ

まちなかウォークブル推進事業では、市内3駅周辺(北戸田駅、戸田駅、戸田公園駅)において、イベントやオープンテラス等の賑わい空間の形成、沿道施設との連携により、多くの市民が行き交い、散策を楽しみ、滞在できる空間の整備により、子どもから高齢者までの多くの市民が行き交い、散策を楽しみ、多世代が交流できるウォークブルなまちづくりを進めていきます。

まちなかウォークブルの推進により、市民の歩行量と外出頻度の増加を促し、新たな賑わいや交流を創出し、心身の健康増進を図ります。

また、健康に関するイベント等(例:ウォーキング、スポーツ、体操)をまちなかウォークブルと連携して行うことなどで、各事業とウォークブル事業との相乗効果により、効果的・効率的に施策を推進します。

(市内3駅に展開するまちなかウォークブルのイメージ)



(人が賑わう公共空間のイメージ)



関連する主な計画

歩きやすい環境及びまちなかの健康イベント等のイメージ

◆公園リニューアル計画

◆健康増進計画

◆生涯学習推進計画



※写真左：庁舎周辺の歩道 右：上戸田地域交流センターのラジオ体操

主な事業・関連する取り組み

- ・ 駅周辺などの公共空間の賑わいを創出する、まちなかウォークブル推進事業【都市計画課】
- ・ 歩行者利便増進道路の指定等【道路管理課】
- ・ ワークショップに参加された市民等の意見が反映された公園の整備・改修【みどり公園課】
- ・ 公園の利活用を図る公園運営【みどり公園課】
- ・ 各種講座・教室、イベント等【文化スポーツ課・福祉保健センター・生涯学習課・各公共施設】
- ・ 土に親しむ広場【経済戦略室】
- ・ ラジオ体操【各公共施設】

➤ 健康×バイシクルシティの推進

戸田市は、国や県と比較して、通勤や通学等で自転車を利用する人の割合が多いまちです。自転車を利用することで、心血管疾患やがんによる死亡、糖尿病や肥満の発症のリスクが少なくなることが海外の研究でも示されており、戸田市でも日常における自転車利用を増やすことで、自然に健康になれるまちづくりを目指します。

この取り組みの一つとして、市では
 サイクルポートを市内62箇所（令和5年11月現在）に整備し、市民と戸田市を訪れた訪問者の自転車利用を促進しています。

シェアサイクル推進や利用しやすい自転車環境のイメージ



また、市民が安全安心に自転車を利用するためには、自転車を利用する人のマナーや意識の向上が必要不可欠と考えられるため、関連する事業や地域において、安全利用の普及啓発を進めていきます。

地域で安全な自転車利用を進める普及啓発のイメージ



また、SWC推進プランとの連携により、都市環境、健康長寿、安全安心、地域振興等のテーマから、自転車を利用しやすい環境づくりを行います。

車から自転車に移動手段を変更する行動変容により自転車利用を促進し、市民の健康づくりにつながる取り組みを進めます。

関連する主な計画

- ◆バイシクルシティ推進プラン
- ◆健康増進計画

主な事業・関連する取り組み

- ・シェアサイクルの推進【都市交通課】
- ・子ども自転車運転免許教室、スケアード・ストレイトの実施【都市交通課】
- ・交通安全教室、自転車利用に関する講座等【都市交通課】
- ・安全な自転車利用に関する普及啓発【健康長寿課・保育幼稚園課・都市交通課・教育政策室】
- ・各種健康教室【福祉保健センター】

2) 市民が自ら健康に取り組む環境整備

戸田市の特徴と目指す姿、取り組み

市の
特徴



運動習慣の無い人の
割合が約 6 割

P●(エ) 生活習慣より

身近に公園があるまち

P●(キ) 都市環境より

目指
す姿

市民が自ら健康に取り組む意識を高められる環境の整備を進め、健康づくりに取り組む人が多いまちを目指す

取り
組み

健康×
インセンティブ

健康×
公園利活用

➤ 健康×インセンティブ

戸田市では、健康寿命の延伸に繋げることを目的に、スマートフォンのアプリや歩数計を使ってウォーキングを続けることで、楽しみながら健康づくりを進める「とだウエルネスマイレージ事業」において、事業への参加を促進し、健康増進のための行動変容を促すため、抽選で賞品が当たるインセンティブの付与を行っております。

健康づくりに関する各種講座・教室、イベントなどに、参加者へのインセンティブを付与することで、健康に無関心な市民が健康に興味を持ってもらうきっかけとし、生活習慣の改善や各種健（検）診の受診などの行動変容につながる取り組みとなることを目指して、健康づくりを推進します。

(健康に無関心な市民の行動変容を促すインセンティブのイメージ)

令和5年12月中の平均歩数が〈7,000歩以上〉の参加者は…
「とだウエルネスマイレージ抽選会」に
エントリー可能!

豪華賞品(商品券など)が抽選で当たる!

令和4年度は参加者の約4人に1人が当選しました!
(応募方法)令和6年1月12日(金)までに歩数データを送信してください。
抽選会は令和6年2月に実施予定です。

戸田市の参加条件：令和5年度に18歳以上になる市民
※戸田市民のみ参加可能。参加希望者は、原コバトン健康マイレージ事務局にお問い合わせください
※自動的にエントリーされます

↓アプリのダウンロードはこちらから↓

アプリをダウンロードして参加申し込み

Android iPhone

楽しく健康に歩く

アプリで歩数を送信

景の抽選や「とだウエルネスマイレージ抽選会」で賞品が当たる!?

昨年の抽選会賞品には商品券、体操着、お茶、海苔、ドリップコーヒーなどを用意しました

また、健康意識の向上により、健康づくりに自主的にアプローチするようになるなど、行動を変容した市民が、家族や知人へ健康の大切さを伝える健幸アンバサダーの役割を果たす、といった波及効果も期待できます。

関連する主な計画

◆健康増進計画・食育推進計画・歯科口腔保健推進計画・自殺対策計画・がん対策推進計画

主な事業・関連する取り組み

- ・ウォーキングで健康づくりを進める、とだウエルネスマイレージ事業【福祉保健センター】
- ・市民の健康リテラシーを高める、健幸アンバサダー事業【福祉保健センター】

- ・各種健(検)診【保険年金課・福祉保健センター】
- ・各種講座・教室、イベント等【文化スポーツ課・健康長寿課・福祉保健センター・生涯学習課・各公共施設】

➤ 健康×公園利活用

戸田市は高齢者の徒歩圏（500m以内）に公園がある住宅の割合が県で4番目に多いまちです。市では、公園の賑わいを生み出し「オールとだで築く新たな公園づくり」を目指して、公園を使いこなす方策として利用プログラムを導入します。公園利活用と健康に関するイベント（例：ヨガイベントや健康体操等）を組み合わせ、相乗効果を生み出します。

（公園の賑わいのイメージ）



多様化するニーズや社会情勢に対応し、公園の利活用が活性化することで、利用者の生きがいや、地域の様々な主体とつながるコミュニティ形成といった魅力が深まり、賑わい創出へとつながっていくため、様々な団体や企業等とパートナーシップを築き、地域とともに取り組む公園づくりを目指します。

（公園利活用を進める団体・企業等とのパートナーシップ） ※写真は差替予定



手ぶら BBQ (戸田市)



クラフトカーニバル (戸田市)



パークゴルフ (戸田市)



防災訓練 (戸田市)



バタつかまえよう (西東京市いこいの森公園 NPO birch)



キッズ走り方教室 (NPO birch)

関連する主な計画

◆公園リニューアル計画

主な事業・関連する取り組み

- ・ワークショップに参加された市民等の意見が反映された公園の整備・改修【みどり公園課】
- ・公園の利活用を図る公園運営【みどり公園課】
- ・各種講座・教室、イベント等【文化スポーツ課・福祉保健センター・各公共施設】
- ・ラジオ体操【各公共施設】

3) 市民協働による健康リテラシーの向上

戸田市の特徴と目指す姿、取り組み

市の 特徴

健康づくりに関心の
低い層が約7割

P●国のデータより



健康寿命が県平均
よりも短い

P●(イ) 健康寿命より

主な死因は生活習慣
病の割合が多い

P●(ウ) 死因より

目指 す姿

市民の健康リテラシーの向上に向けた取り組みを進め、
自主的な健康へのアプローチを促すことにより生活習慣
病の予防等を通じて健康寿命の延伸を目指す

取り 組み

健康×口コミ

健康×イベント

健康×健康データ

健康×口コミによる健康情報の伝達

健康づくりに関心の低い人々（無関心層）に情報を届けるためには、身近な家族や知人・友人等からの口コミが効果的だとされています。地域福祉に関わる人をインフルエンサーとして、正しく分かりやすい情報を提供することで、健康を含む様々な情報が、無関心層にも拡がりやすくなる効果が期待できます。

（口コミを行うインフルエンサーが伝える健康情報の例※健幸アンバサダー）

私たちは「健幸アンバサダー」として、健康に関する正しい知識や運動の仕方を地域に伝え地域の健康づくりに貢献しています。

Smart Wellnes Ambassador 健幸アンバサダー通信

～健幸とまちづくりの関係～

たった3分の距離でも車を使っていませんか？
車生活と糖尿病の意外な関係

いつ、どこへ行くときに「車」を使っていますか？
景観と身体活動量の意外な関係

こんな研究データ、ご存知ですか？

“景色がきれい” “道が歩きやすい” などの好条件で、歩行量が増加
遊歩道や並木道が近くにあるほど 5年も長生き

運動や買い物時、毎日どんな道を歩いていますか？

市民の健康リテラシーを高めるため、無関心層に定期的に健康情報を届けることで、自らの健康について考え、取り組む機会を提供します。また、取り組みを通じた健康度の改善等の効果を、地域へ波及させていくための機会を創出し、ソーシャルキャピタルの醸成を促し、自ら健康づくりを広げるための支援取り組みを進めていきます。

また、地域活動を行う個人や既存の団体とも連携しながら、健幸アンバサダーなどインフルエンサーを活用する仕組みを広げていき、各種健（検）診の大切さなどを伝えることにより受診率の向上等を目指します。

関連する主な計画

◆健康増進計画・食育推進計画・歯科口腔保健推進計画・自殺対策計画・がん対策推進計画

主な事業・関連する取り組み

- ・市民の健康リテラシーを高める健幸アンバサダー事業【福祉保健センター】
- ・各種健(検)診【保険年金課・福祉保健センター】

➤ 健康×イベント

健康・福祉分野のイベントを、まちなかや公園、駅前、公共施設等、人の集まりやすい空間で開催することで、健康に関心な市民の参加を促し、健康づくりに関する情報をより多くの市民に届ける取り組みを進めます。

(健康・福祉分野のイベントのイメージ)



地域の関連団体と連携した「健康福祉の杜まつり」などのイベントを行い、市民が市の取り組みや各団体の活動に関する理解を高める機会を創出すると共に、関連団体においては、その健康福祉事業等における地域との関わりを促進し、健康づくりの大切さを市民に周知・啓発する取り組みを進めていきます。

関連する主な計画

◆健康増進計画・食育推進計画・歯科口腔保健推進計画・自殺対策計画・がん対策推進計画

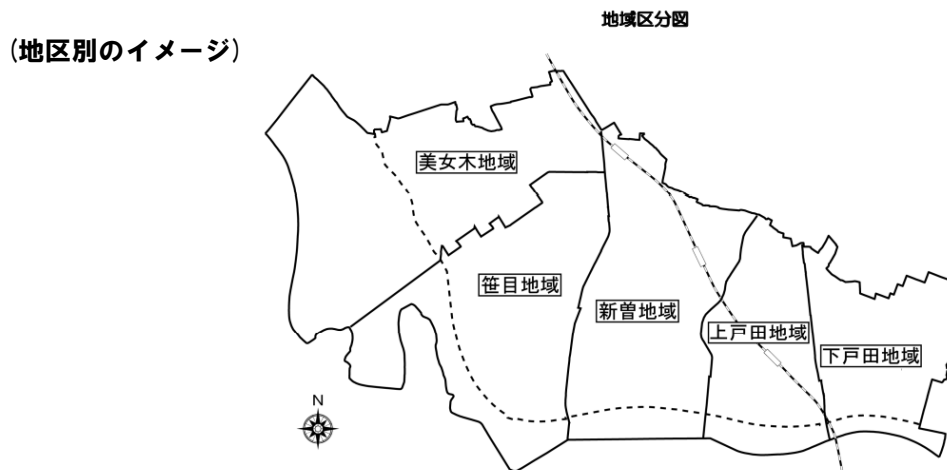
主な事業・関連する取り組み

- ・各種健康教室・イベント等での普及・啓発【福祉保健センター】
- ・各種乳幼児健診での普及・啓発【福祉保健センター】

➤ 健康×健康データの利活用

地域で開催するさまざまな講座やイベント等において、健康・医療に関する情報を活用した健康教育を実施し、市民の健康増進を推進します。

例えば、町会での出前講座の機会などを活用し、地域の健康課題の状況について情報提供し、それらが起こる原因や対策について伝えることで、健康・医療について身近に捉えてもらう機会を創出します。



健康・医療情報を活用した施策の実施により、健康課題に対する原因の把握や、生活習慣病の予防、早期発見が期待されます。PDCA サイクルに沿って施策を分析・評価し、より効果的・効率的な手法の検討を行い、市民の健康増進を推進します。

関連する主な計画

- ◆国民健康保険・保健事業実施計画（データヘルス計画）・特定健康診査等実施計画
- ◆健康増進計画・食育推進計画・歯科口腔保健推進計画・自殺対策計画・がん対策推進計画

主な事業・関連する取り組み

- ・特定健康診査・特定保健指導【保険年金課】
- ・戸田市後期高齢者健康診査事業【保険年金課】
- ・各種健(検)診【福祉保健センター】
- ・保健対策推進協議会、戸田市健康なまちづくり推進庁内会議の開催【福祉保健センター】

4) 次世代に向けた女性の健幸と子育てに優しいまちづくり

戸田市の特徴と目指す姿、取り組み

市の 特徴



20～40 歳代の女性
の運動習慣が少ない

P●(エ)生活習慣より

3 世代世帯の割合が
減少している

P●(ア)人口動態より

目指 す姿

若年層女性・子育て世代をターゲットとした健康づくり
の取り組みを検討し、次世代の健康づくりを進めるまち
を目指す

取り 組み

健康×若年層女性・
子育て世代

健康×つながり

➤ 健康×若年女性・子育て世代

健康日本 21 では、子育て中の女性の健康度の向上が、その子どもの健康度にも影響すると述べています。若年層女性や子育て世代のライフスタイル等をふまえ、運動・スポーツに取り組みづらい世代の人々が、気軽に運動・スポーツに取り組める環境（例：オンラインで運動・スポーツに参加できる仕組み等）を整備し、運動習慣者の増加を目指します。

（女性のライフスタイルに応じた運動習慣定着に向けた取り組みのイメージ）



上記の取り組みを推進するために、子育て女性を対象とした健康づくりの教室やスポーツ教室、生涯学習やイベント等を継続的に企画・開催し、それらの対象者へ、健康・食育・歯科の情報提供も進めていきます。

関連する主な計画

◆健康増進計画・食育推進計画・歯科口腔保健推進計画

◆子ども・子育て支援事業計画

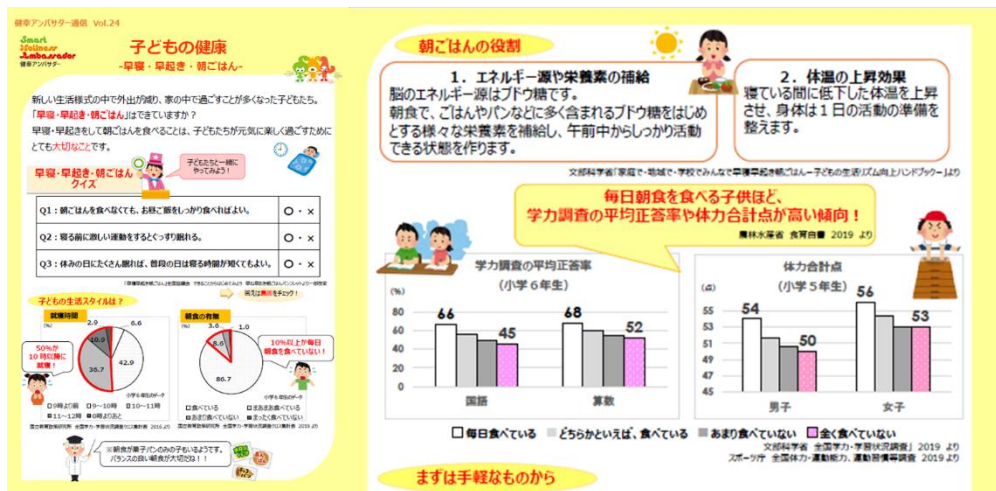
主な事業・関連する取り組み

- ・各種健康教室【福祉保健センター】
- ・各種スポーツ教室【文化スポーツ課】
- ・親子ヨガ・リトミック【各公共施設】
- ・子育て講演会【こども家庭支援室】

健康×つながり

戸田市では3世代世帯の割合が県平均よりも少なく、近年では更に減少していることから、子育て世代が、親世代から子どもの健康や子育てに関する情報を得られる機会は、少なくなっていると考えられます。そのため、妊産婦や子育て世代同士のつながりの場を作り、口コミで子どもの健康や子育てに関する情報を届ける取り組みを行います。

(子どもの健康や子育てに関する情報※イメージ)



この取り組みは、「3) 市民協働による健康リテラシーの向上」における「健康×口コミによる健康情報の伝達」と一体的に行うことで、より効率的な施策の展開が期待できます。

関連する主な計画

- ◆健康増進計画・食育推進計画・歯科口腔保健推進計画・自殺対策計画・がん対策推進計画
- ◆地域福祉計画
- ◆子ども・子育て支援事業計画

主な事業・関連する取り組み

- ・市民の健康リテラシーを高める、健幸アンバサダー事業【福祉保健センター】
- ・各種健（検）診、通知発送時等における情報提供【福祉保健センター・関係各課】
- ・保育参観・懇談会などにおける保護者への情報提供【保育幼稚園課】
- ・子育て講座や親子講座、イベント等の企画・実施【関係各課・各公共施設】

5) いくつになっても生きがいを持ち外出できる環境整備

戸田市の特徴と目指す姿、取り組み

市の
特徴

1人暮らしのシニア
が増加している



P●(ア)人口動態より

豊富な生涯学習の
メニューがある

P●健康×生涯学習より

70歳代になると
外出頻度が低下する

P●(オ)社会参加より

目指
す姿

外出頻度が少なくなるシニア世代（特に70歳代以降）が
外出したくなる環境の整備を進め、シニアが生き生きと
活躍するまちを目指す

取り
組み

健康×通いの場

健康×生涯学習

健康×社会参加

➤ 健康×通いの場

市では、介護予防の取り組みの一環として、TODA 元気体操を市内 37 会場（令和 5 年 11 月現在）で実施しています。現在の会場に加え、福祉センターなど新たな場所での活動の創出を支援し、幅広い年齢や様々な心身の状況等にある高齢者が身近に参加できる「通いの場」での介護予防活動を目指します。また、こうした人の集まる機会を有効に活用した、運動や栄養、口腔、シルバースポーツや生涯学習等に関する情報提供により、新たな交流を促進するなど、関係機関が連携し、スマートウェルネスシティの推進に取り組んでいきます。

(TODA 元気体操)



また、高齢者の健康課題に関するデータを活用し、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施を進めます。

関連する主な計画

◆地域包括ケア計画

◆健康増進計画

◆国民健康保険 保健事業実施計画（データヘルス計画）・特定健康診査等実施計画

主な事業・関連する取り組み

- ・TODA 元気体操、介護予防リーダー、地域資源マップ【健康長寿課】
- ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施【保険年金課】
- ・健康（健（検）診・食育・歯科口腔等）に関する情報提供【福祉保健センター】
- ・スポーツや生涯学習に関する情報提供【文化スポーツ課・生涯学習課】

➤ 健康×生涯学習

まちづくり出前講座や市民大学などの生涯学習講座には、健康に関する講座や体を動かす教室など、健康リテラシーを向上させる講座をはじめとした、多様な講座が登録されており、市民の生活をより豊かにする情報を得ることができます。

また、講座の受講は、講座に参加した様々な人との出会いや、新たな交流が期待されることから、健康リテラシーの向上といった学びだけでなく、市民の新たな外出機会を創出します。

(戸田市の生涯学習※イメージ)



まちづくり出前講座では、多様なニーズを持つ市民が興味をもって参加できるよう、常に豊富なメニューが用意されています。市民大学では、シニアの活躍を応援・推進するため、シニア向けのコースが設けられています。

生涯学習講座により、健康リテラシーの向上、市民の学びと外出の機会の創出を図り、市民の心身の健康づくりに取り組みます。

関連する主な計画

◆健康増進計画

◆生涯学習推進計画

主な事業・関連する取り組み

- ・各種講座の実施及び生涯学習関連事業の情報提供【生涯学習課】
- ・各種講座・教室、イベント等【みどり公園課・文化スポーツ課・福祉保健センター】

➤ 健康×社会参加

戸田市では、子育て、まちづくり、学習支援等、多岐にわたる分野で、市民がボランティアや市民活動を行っています。また、最近では全国的にシニアの就労（再雇用等）も進んできています。適度な就労やボランティア・市民活動の継続は、健康増進につながるとともに、社会参加や外出を促進します。また、社会参加を通じた地域とのつながりは、シニアの生きがいづくりや多世代交流の促進などの効果が期待できます。

(シニアの社会参加※イメージ)



就労やボランティアなどでの社会参加の促進により、健康の維持・増進に向けて取り組みます。

関連する主な計画

◆地域包括ケア計画

◆健康増進計画

主な事業・関連する取り組み

- ・ボランティア・市民活動支援センター【協働推進課】
- ・シルバー人材センター【健康長寿課】
- ・市内の環境美化に関わるボランティア活動【環境課】
- ・公園の利活用を図る公園運営【みどり公園課】
- ・各種健康教室・イベント等【福祉保健センター】
- ・市民の健康リテラシーを高める、健幸アンバサダー事業【福祉保健センター】

6) 多世代交流を促進する健康なまちづくり

戸田市の特徴と目指す姿、取り組み

市の
特徴



子どもの運動習慣定着の
取り組みを進めている

P● 健康×運動・スポーツより

3 世代世帯の割合が
減少している

P●(ア)人口動態より

目指
す姿

子どもからシニアまで多世代の交流を通じて、健康づくりの普及促進を目指す

取り
組み

健康×
運動・スポーツ

健康×多世代の交流

➤ 健康×運動・スポーツ

戸田市では、心身の健康保持増進や、豊かで活力ある健康長寿社会の実現のために、子どもから高齢者まで、運動・スポーツを楽しみながら継続することの大切さを普及啓発し、生活習慣病予防や介護予防に通じる、運動・スポーツによる健康づくりを推進します。

また、運動・スポーツの教室やイベントの周知に各関係機関と連携して取り組むことで、運動・スポーツへの関心が低い人にも、新たに運動・スポーツを始めやすい環境づくりを進めます。

特に子ども達が、高いスポーツ技術を有するプロアスリート等による交流を通じて、健康の維持・増進にかかわりの深い運動・スポーツの楽しさや大切さを感じながら学ぶことにより、運動・スポーツへの意識の高揚と、習慣化を図ります。

(キッズ健幸アンバサダーからの健康づくりに関する情報発信のイメージ)



キッズ健幸アンバサダー養成講座では、運動・スポーツの楽しさを実感した子どもをインフルエンサーとして、保護者や地域のシニアへの健康づくりに関する情報発信による、健康なからだ作り、運動・スポーツへの意識の向上を図る取り組みを行います。この取り組みを通じて、子どもから高齢者までの広い世代に対して、運動・スポーツを通じた健康リテラシーの向上を目指していきます。

関連する主な計画

◆健康増進計画

◆スポーツ推進計画

主な事業・関連する取り組み

- ・キッズ健幸アンバサダー【福祉保健センター・教育政策室】
- ・各種講座・教室、イベント等【文化スポーツ課・福祉保健センター・生涯学習課・各公共施設】
- ・スポーツ推進委員【文化スポーツ課】
- ・TODA 元気体操【健康長寿課】

➤ 健康×多世代の交流

子どもや高齢者が共に参加し、交流が育まれるイベント等を、まちなか、公園、駅前、公共施設等で開催します。子ども、子育て世代からシニア等多世代の交流を促進し、人と人との出会いを通じて、心身の健康状態が改善され、自然と歩きたくなるまちづくりへつなげていきます。

(多世代が集うまちなか、公園、駅前利活用のイメージ)



関連する主な計画

- ・健康増進計画
- ・公園リニューアル計画
- ・地域福祉計画
- ・とだあんさんぶるプラン～男女共同参画計画（改訂版）～

主な事業・関連する取り組み

- ・多世代交流館【協働推進課】
- ・イベント等【各公共施設】
- ・公園の利活用を図る公園運営【みどり公園課】
- ・健康福祉の杜まつり【福祉保健センター】
- ・駅周辺などの公共空間の賑わいを創出する、まちなかウォークブル推進事業【都市計画課】

4 推進体制と評価

健康なまちづくりを推進するためには市内及び地域における推進体制の整備が不可欠です。戸田市では、国や他自治体の事例に基づき、以下の通り推進体制の整備を進めていきます。

1) 市内における推進体制

戸田市健康なまちづくり推進市内会議に関わる各課の推進体制について整備を進めます。

(1) 互いの計画等を把握して施策を進めていきます。
連携先の課の計画や事業を把握する機会を設け、それらを把握した上で、必要な協力を互いに打診していきます。
(2) データに基づき施策の検討及び評価を進めていきます。
各課がデータを用いて、正しい現状分析を行いながら施策を検討します。また評価した結果は地域や市民に共有を進めます。
(3) 上位計画、関連する計画と整合を図り、計画を推進します。
上位計画や関連する計画を含め、市内の多くの計画と整合をとった上で、それらの計画を推進します。
(4) 健康なまちづくりの取り組みを周知し認知度を向上します。
健康なまちづくりの取り組みを、さまざまな機会で、地域や市民に積極的に周知して認知度を向上します。
(5) 最新の知見や情報を取得し施策を検討します。
最新の知見・情報を取得し、効果的な連携施策の展開、施策の評価を行います。

2) 市民の取り組み

SWC 推進プランの基本理念と 6 つの柱を推進するための、市民一人一人の取り組みについて、各ライフステージを考慮した上で、施策に対する主な対象者の取り組みを記載しています。

6 つの柱	市民の取り組み	子ども・ 青年世代	働き・ 子育て 世代	シニア 世代
		0-18 歳頃	19~64 歳頃	65 歳 以上
1) まちなかウォーク ابلとバイクシ ティの推進	まちなかで人と集い交流を育む	●	●	●
	安全で安心・快適な自転車利用を行う	●	●	●
2) 市民が自ら健康に 取り組む環境整備	健康づくりの取り組みへ参加する		●	●
	(健康づくりに関連する) 公園利用プ ログラムに参加する	●	●	●
3) 市民協働による健 康リテラシーの向上	健康づくり等の効果を人に伝える		●	●
	健康福祉に取り組む団体の活動を知る	●	●	●
	健康・医療に関する地域の情報を知る		●	●
4) 次世代に向けた女 性の健幸と子育てに 優しいまちづくり	子どもの成長を育む自分自身の健康づ くりにも取り組む	●	●	
	地域で次世代の健康を支える		●	●
	子どもと子育て世代を見守る		●	●
5) いくつになっても 生きがいを持ち外出 できる環境整備	通いの場で集い生きがいを育む			●
	生涯学習を通じて学び外出する		●	●
	就労やボランティアを通じ地域とつな がる		●	●
6) 多世代交流を促進 する健康なまちづく り	運動・スポーツの楽しさを体感する	●		
	運動・スポーツの楽しさを人に伝える	●		
	多世代の交流に参加する	●	●	●

3) 行政の取り組み

6つの柱	行政の取り組み	SWC推進プランと各計画において 関りの強い項目					
		まち づく り	健康 増進	食育 推進	歯科 口腔	自殺 対策	がん 対策
1) まちなかウォークラブルとバイシクルシティの推進	まちなかの交流促進	●	●				
	自転車利用の促進	●	●				
2) 市民が自ら健康に取り組む環境整備	健康づくりの取り組みへの支援		●				
	(健康づくりに関連する)公園利用プログラムの充実と参加しやすい環境づくり	●	●				
3) 市民協働による健康リテラシーの向上	健康づくり等の効果を人に伝える市民への支援		●	●	●	●	●
	健康福祉に取り組む団体の活動への支援		●	●	●	●	●
	健康・医療に関する地域の情報の活用		●	●	●	●	●
4) 次世代に向けた女性の健幸と子育てに優しいまちづくり	子どもの成長を育む自分自身の健康づくりへの支援		●	●	●	●	●
	地域資源との連携	●					
	子どもと子育て世代を見守る市民への支援		●	●	●	●	●
5) いくつになっても生きがいを持ち外出できる環境整備	通いの場の整備	●	●	●	●		
	生涯学習の支援	●	●	●	●		
	就労やボランティアの支援	●				●	
6) 多世代交流を促進する健康なまちづくり	運動・スポーツの楽しさ等を体感する子どもへの支援		●				
	運動・スポーツの楽しさを伝える子どもへの支援		●				
	多世代の交流促進の支援	●				●	

4) 目指すまちづくり

SWC推進プランでは、6つの柱を軸に各関連計画における施策、事業を実施することで、基本理念の「まちなかを自然に歩きたくなることで、多世代の集いと交流が生まれ、生きがいを感じながら健幸に暮らすことのできるまちづくり」を推進します。

目標1 まちなかを自然に歩きたくなるまち

健康増進のための行動変容（歩く、外出する）を促すしかけとまちなかの整備それぞれを融合して推進することで、自然に歩きたくなるまちの実現を目指します。

【取り組みの軸となる柱】

○柱Ⅰ「まちなかウォークアブルとバイシクルシティの推進」

○柱Ⅱ「市民が自ら健康に取り組む環境整備」

指標	当初値	目標値
戸田市を歩きたくなるまちと思う人の割合	53.4 %	65.0 %
週5日以上外出する人の割合	73.2 %	80.0 %
関連指標① 週2回・1日30分以上身体を動かしている人の割合【健康増進計画】	79.2 %	➔ 85.0 %
関連指標② 歩くことを心がけている人の割合【健康増進計画】	65.1 %	➔ 75.0 %
関連指標③ とだウェルネスマイレージ事業参加者の割合	—	10.0 %
関連指標④ 通勤通学時の自転車利用者の割合【バイシクルシティ推進プラン】	38.6 %	➔ 41.0 %

目標2 生きがいを感じながら健幸に暮らすことのできるまち

健康リテラシーの向上を図る取り組み、交流促進による楽しみ・生きがいを創出することで生きがいを感じながら健幸にくらすことのできるまちの実現を目指します。

【取り組みの軸となる柱】

○柱Ⅲ「市民協働による健康リテラシーの向上」

○柱Ⅳ「次世代に向けた女性の健康と子育てにやさしいまちづくり」

○柱Ⅴ「いくつになっても生きがいを持ち外出できる環境整備」

○柱Ⅵ「多世代交流を促進する健康なまちづくり」

指標	当初値	目標値
健康だと感じている人の割合	77.1 %	85.0 %
楽しみ・いきがいがあると感じている人の割合	—	85.0 %
関連指標① こころが健康だと感じている人の割合【自殺対策計画】	77.1 %	➔ 80.0 %
関連指標② バランスのよい食事を摂っている人の割合【食育推進計画】	54.6 %	➔ 70.0 %

5) 計画の評価

SWC 推進プランの推進にあたっては、様々な関係機関や団体が、取り組みの方向性や進捗状況を共有していくことが重要です。取り組みの進捗状況を把握するため、市民アンケート調査を令和 10(2028)年度に、調査結果などに基づく評価を令和 11(2029)年度に行い、関係各課からなる「戸田市健康なまちづくり推進庁内会議」による進捗確認、「戸田市保健対策推進協議会」による評価を実施します。

図表● 計画の評価時期

計画名		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度
SWC 推進プラン		計 画 の 開 始				市 民 ア ン ケ ー ト 調 査	計 画 の 評 価
一 体 的 に 推 進 す る 計 画	健康増進計画						
	食育推進計画						
	歯科口腔保健推進計画						
	自殺対策計画						
	がん対策推進計画						

第2章 各計画の詳細

1 健康づくりの推進【第4次健康増進計画】

1) 計画策定の趣旨

戸田市では、国や県の方針を踏まえ、第3次戸田市健康増進計画及び戸田市食育推進計画に基づき市民の健康づくりに取り組んで参りました。しかし、両計画が令和5(2023)年度をもって終了することや、国や県が新たな取り組み方針を打ち出したことから、最新の国や県の計画を踏まえ、SWC推進プランをまちづくり分野と健康分野を連携する計画として、加えて、第4次健康増進計画及び第3次食育推進計画、歯科口腔保健推進計画、自殺対策計画、がん対策推進計画を策定することとしました。

SWC推進プランでは、スマートウェルネスシティの考え方に基づき、まちなかや公園、駅前、公共施設等を人の集まりやすい空間にし、日常生活における様々な行動を健康に結びつけることで、健康づくりに関心の低い無関心層も含めた市民が自然と健康になれるまちづくりを進めます。

第4次健康増進計画及び第3次食育推進計画、歯科口腔保健推進計画、自殺対策計画、がん対策推進計画においては、これまでの取り組みを継承しながら、SWC推進プランと整合・連携することで、より多くの市民が自然と健康になれる施策の検討を進めていきます。

このSWC推進プランの考え方は、健康日本21(第三次)においても「自然と健康になれるまちづくり」として、方針の一つとして掲げられており、近年の社会情勢に対応し、整合性の取れた内容となっています。加えて、健康づくりや食育等に関する、戸田市ならではの課題や特徴を明確にししながら、国や県の方針に先んじて、さらなる取り組みを具体化していくものとします。

国の計画における近年の動向としては「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」というビジョン実現のため、健康日本21(第三次)を令和6(2024)年度からスタートすることとなっています。また第4次食育推進計画を令和3(2021)年3月に策定し、歯・口腔の健康づくりプランは令和6(2024)年度からスタート、令和5(2023)年6月に自殺対策計画策定・見直しの手引きを策定、令和5(2023)年3月にがん対策推進基本計画を策定しています。

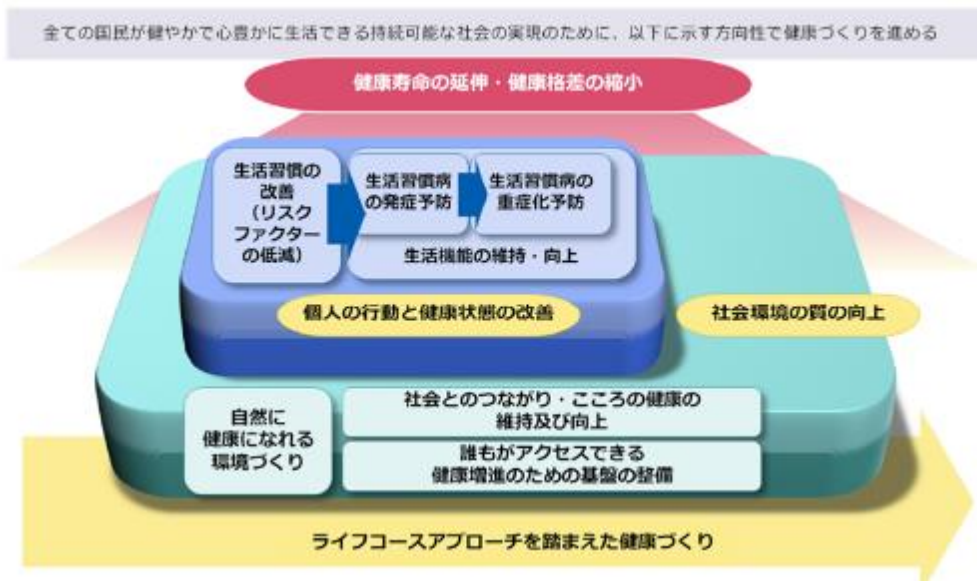
県の計画における近年の動向としては「誰もが健康で生き生きと暮らすことができる健康長寿社会の実現」を目指し、第4次健康長寿計画を令和6年(2024)年度からスタートすることとなっています。また、第5次食育推進計画、歯科口腔保健推進計画も同様に、令和6年(2024)年度からスタートすることとなっています。

2) 国及び県の基本的な方向

(ア) 国の基本的な方向(健康日本 21-第三次-)

国は、「健康日本 21(第三次)推進のための説明資料」において、基本的な方向として「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」というビジョン実現のため、基本的な方向を①健康寿命の延伸・健康格差の縮小、②個人の行動と健康状態の改善、③社会環境の質の向上、④ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりの4つとしています。

図表● 健康日本 21(第三次)の概念図



(イ) 県の基本的な方向(健康長寿計画)

県は「健康長寿計画 第8次計画策定調書」において、以下の通り基本理念と基本方針を示しています。

【基本理念】

誰もが、健康で、生き生きと暮らすことができる「健康長寿社会」の実現を目指します。

【基本方針】

8つの基本方針を掲げ、基本理念の実現を目指します。

- ア 健康寿命の延伸と健康格差の縮小
 - イ 生活習慣の改善
 - ウ 生活習慣病(NCDs)の発症予防・重症化の予防
 - エ 生活機能の維持・向上
 - オ 社会とのつながり・心の健康の維持及び向上
 - カ 自然に健康になれる環境づくり
 - キ 誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備
 - ク ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり
- 出典「健康長寿計画 第8次計画策定調書(埼玉県)」

<<参考>>ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりとは

人の健康状態は、これまでの人生における生活習慣や社会環境等から影響を受けており、またその健康状態は次世代の健康に影響を及ぼす可能性もあるとされています。健康日本 21 では、ライフコースアプローチとして、胎児期から高齢期に至るまでの人の生涯を経時的に捉えた健康づくりを一つの指針として位置付け、これを推進することが明記されています。

3) 戸田市のこれまでの取り組み

分野	指標	指標に対するこれまでの取り組み
健康意識	健康だと感じている人の割合	・市民の健康意識を高めるため、健康福祉の杜まつり等のイベントを実施しました。
	BMI が 25 以上の人の割合	・健康情報ステーションにおいて、毎月テーマを決め健康についての啓発を行いました。 ・生活習慣病予防のため各種教室、出前講座、依頼健康教育を実施しました。
	健康診査の受診率	・健康無関心層の健康意識を高めるため、公民連携業者と連携し健康測定会を実施する等、各種教室を開催しました。
	胃がん検診の受診率	・生活習慣の改善が必要な人に対して、健康教室や個別相談を行いました。 ・健康診査やがん検診の受診を勧奨しました。
運動	通勤・通学・買い物等も含め、1日合計30分以上週2回以上身体を動かしている人の割合	・運動と健康寿命に関する情報提供し、運動の必要性について啓発しました。 ・運動教室を実施し、運動習慣のない人でも日常生活で実施できる運動方法について情報提供しました。
	歩くことを心がけている人の割合	・マイレージ事業においてインセンティブを抽選で付与することで健康無関心層の利用促進を行い、多くの市民が歩く機会を増やすように取り組みました。
飲酒	ほぼ毎日飲酒する人の割合	・過度な飲酒による健康被害や適量飲酒などの正しい知識について、地域や学校、企業等と連携して啓発しました。 ・アルコール依存症などのアルコールによる健康問題に対して、埼玉県、医療機関、埼玉県断酒新生会などの関係機関と連携して相談支援を行いました。
	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合	・各種教室や、出前講座、依頼健康教育において飲酒と生活習慣病の関連性について情報提供し、予防方法について啓発しました。
	妊娠中に飲酒する人の割合	・妊娠届出時に飲酒状況(同居者含む)を確認し、胎児への影響も含め指導を行いました。 ・乳児健診(4か月児)にて妊娠中の飲酒状況を確認し、必要に応じて指導を行いました。
喫煙	喫煙者の割合	・各種教室や個別相談において、喫煙が健康に与える影響について説明し、禁煙を促しました。
	受動喫煙が毎日ある人の割合	・受動喫煙防止イベントを実施し、喫煙が周囲の人へ与える影

喫煙	COPD という言葉も内容も知っている人の割合	<p>響について啓発しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界禁煙デー」に合わせて COPD や受動喫煙に関する啓発を行いました。
	妊娠中に喫煙する人の割合	<ul style="list-style-type: none"> ・禁煙したい人に対して禁煙外来を周知しました。 ・戸田市受動喫煙防止対策ガイドラインを周知し、関係機関と連携して、受動喫煙しない環境づくりを進めてきました。 ・市内飲食店全面禁煙施設に対する現地調査を行い、戸田市認定禁煙実施店を増やしました。 ・戸田市認定禁煙実施店について戸田市ホームページ及びいいとだマップへ掲載し、市民に周知しました。 ・妊娠届出時に喫煙状況（同居者含む）を確認し、必要に応じて指導を行いました。 ・乳幼児健診で、両親の喫煙状況を確認し、本人及び児への影響等について指導を行いました。

4) 前計画の評価

前計画で設定した 24 指標のうち、目標値を達成したものは 1 項目、目標値は達成していないが改善したものは 7 項目、目標に達しなかったものは 7 項目でした。

(目標値を達成した項目は◎、目標値は達成していないが改善した項目は○、目標に達しなかったものは×)

分野	指標	対象	単位	参考値 (平成 29 年 度)	目標値 (令和 5 年 度)	結果 (令和 4 年 度)	評価
健康意識	健康だと感じている人の割合※1	全体	%	78.6	85.0	77.1	×
	BMI が 25 以上の人の割合※1	全体	%	21.2	18.0	24.4	×
		男性	%	29.1	26.0	30.3	×
	健康診査の受診率※1	全体	%	76.6	80.0	73.0	×
	胃がん検診の受診率※1	40 歳以上	%	41.6	50.0	33.9	×
運動	通勤・通学・買い物等も含め、1 日合計 30 分以上週 2 回以上身体を動かしている人の割合※1	全体	%	71.7	75.0	79.2	◎
	歩くことを心がけている人の割合※1	全体	%	68.9	75.0	65.1	×
飲酒	ほぼ毎日飲酒する人の割合※1	全体	%	23.6	22.0	26.3	×
		男性	%	37.8	36.0	37.5	○
	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合※1	全体	%	27.9	24.0	26.5	○
	妊娠中に飲酒する人の割合※2	妊婦	%	1.7	0.0	0.6	○
喫煙	喫煙者の割合※1	全体	%	19.6	15.0	15.5	○
	受動喫煙が毎日ある人の割合※1	非喫煙者	%	11.4	8.0	11.0	○
	COPD という言葉も内容も知っている人の割合※1	全体	%	12.1	25.0	13.8	○
	妊娠中に喫煙する人の割合※2	妊婦	%	2.2	0.0	1.9	○

※1 結果：戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和 4 年度）

※2 結果：戸田市 4 か月児健診質問票

5) 現状分析の概要

(ア) 寿命

戸田市の平均寿命は男性で県の平均よりも短く、女性は平均よりもやや長くなっています。平均自立期間も同様で、男性は県、同規模、国よりも短く、女性は長くなっています。

図表● 戸田市と埼玉県の平均寿命

戸田市	男(2015)	女(2015)	男(2020)	女(2020)
平均寿命	80.7	86.5	80.9	87.3
順位(72市区町村中)	36	44	61	31

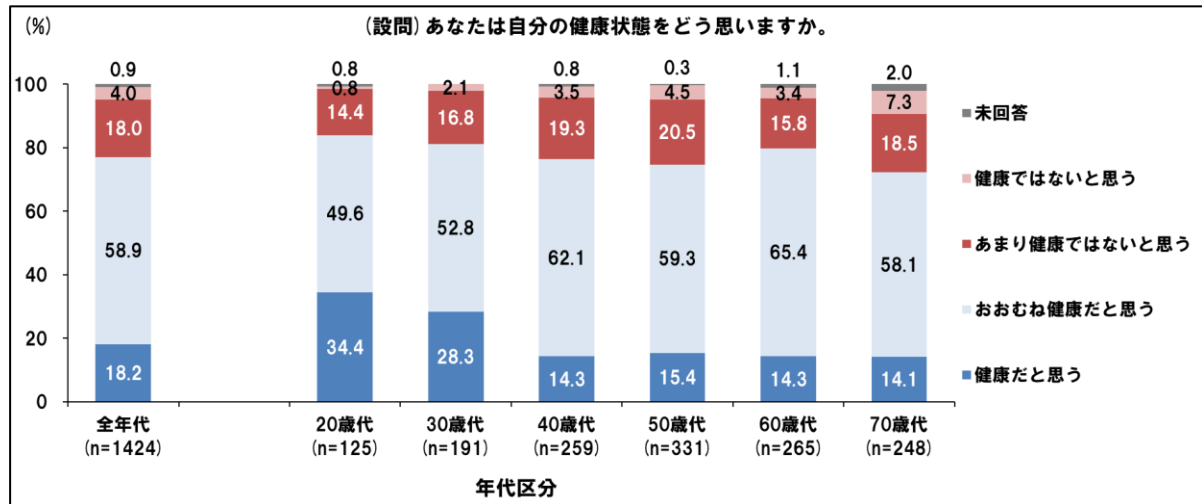
出典「令和2年 市区町村別生命表(厚生労働省)」

65歳健康寿命は埼玉県内において、男性は3番目に短く、女性は4番目に短い状況です。

(イ) 健康意識

年代別の主観的健康度では、40歳代以降で「健康だと思う」と回答する人の割合が少なくなりその後横ばいで推移しています。

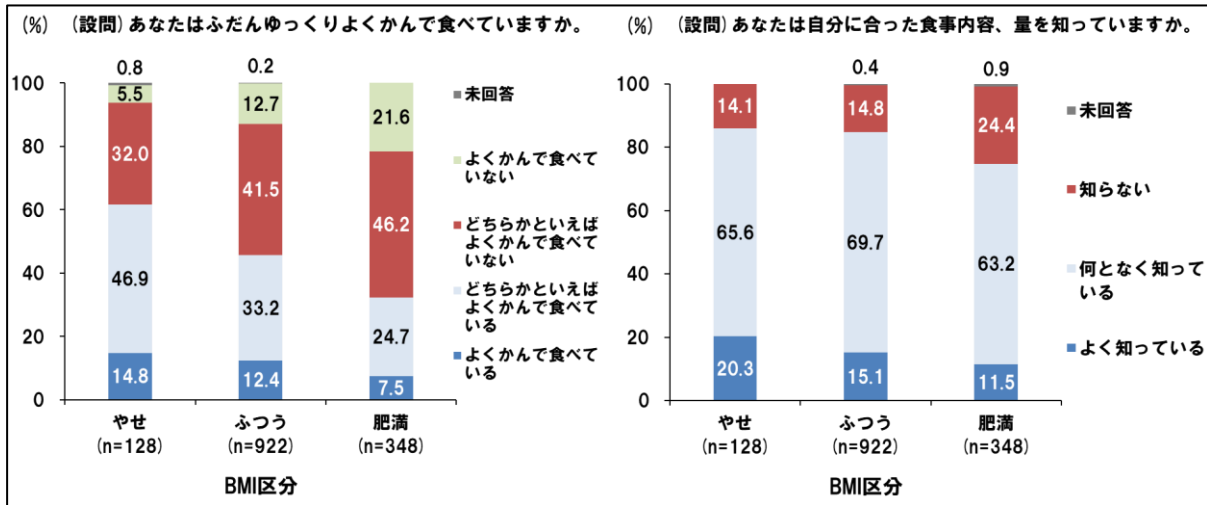
図表● 主観的健康度(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

肥満の人では、食事の際にゆっくりよくかんでおらず、自分に合った食事内容や量を知らない人の割合が多くなっています。

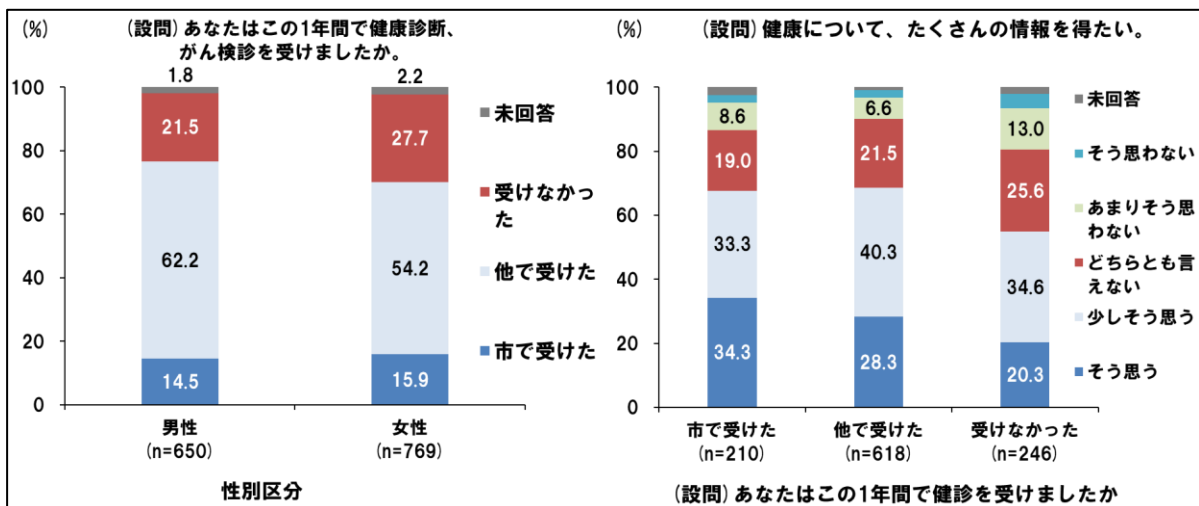
図表● BMI と食習慣の関係



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

男性は女性と比較して健診受診率がやや低くなっています。また、健診を受けていない人は、「健康について、たくさんの情報を得たい」の設問において「そう思う」と回答した人の割合が少なくなっています。また、健診を受診していない人は、健康に関する情報を積極的に得ようとしない傾向がみられます。

図表● 性別・健康情報への関心別（40歳以上）の健診受診の状況

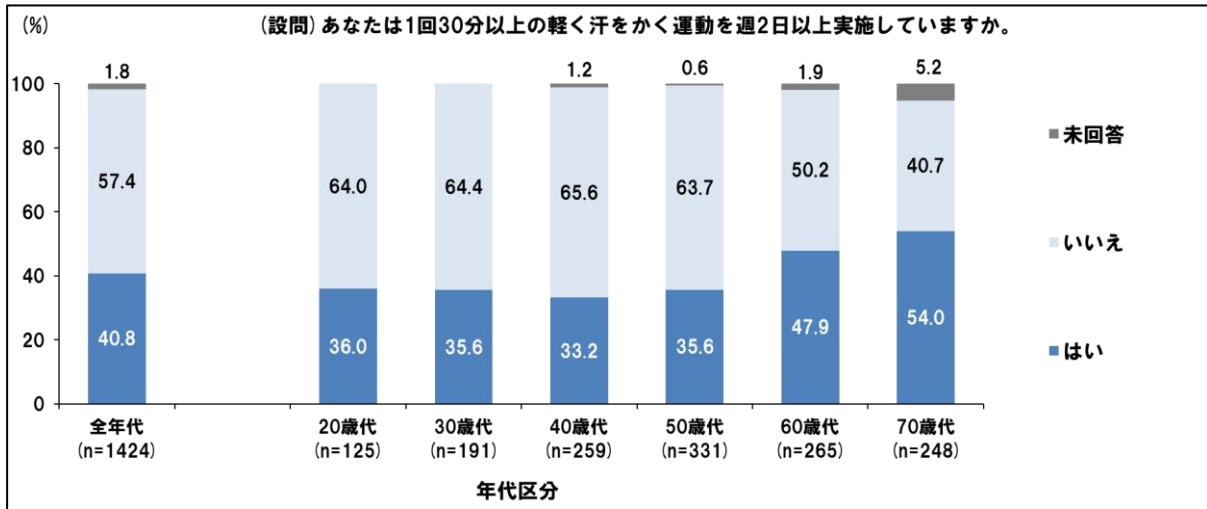


出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

(ウ) 運動

運動習慣は、60歳未満が60歳以上と比較して少ない状況です。

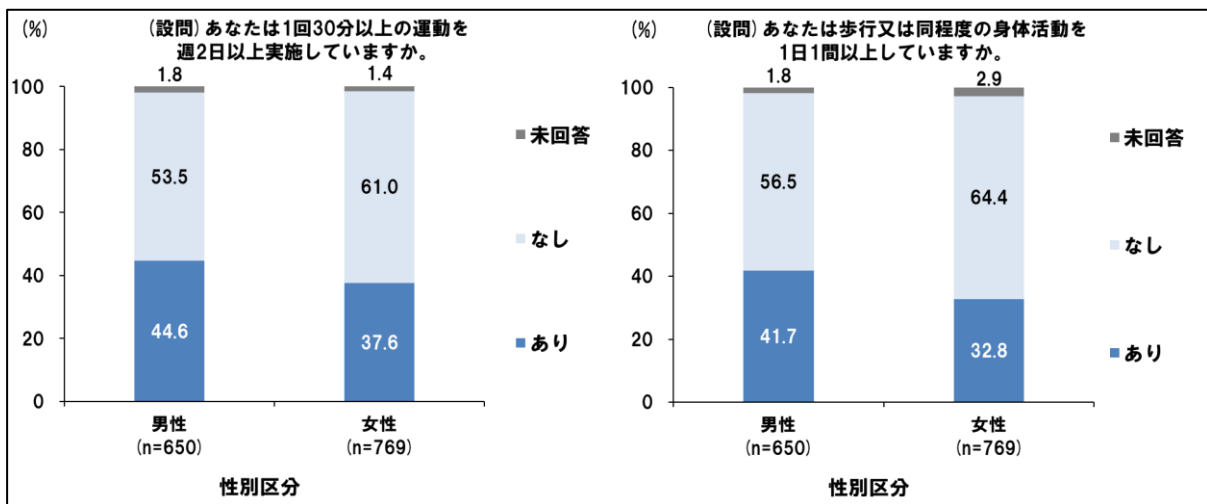
図表● 運動習慣者の割合(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

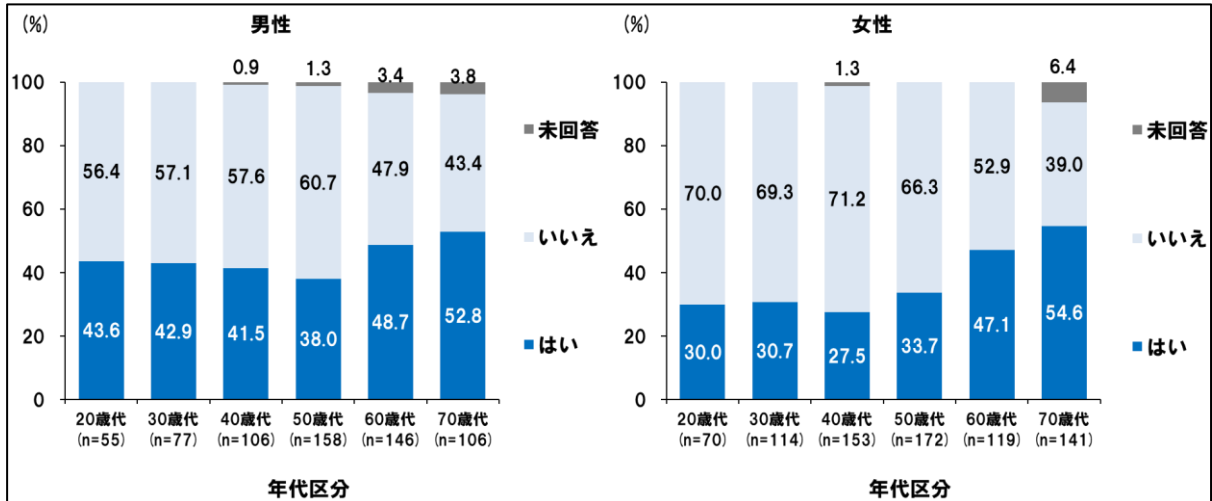
男性と女性の比較では、女性の運動習慣が少ない状況で、特に20~40歳代での運動習慣が少ない状況です。

図表● 運動習慣者と歩行習慣者(性別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

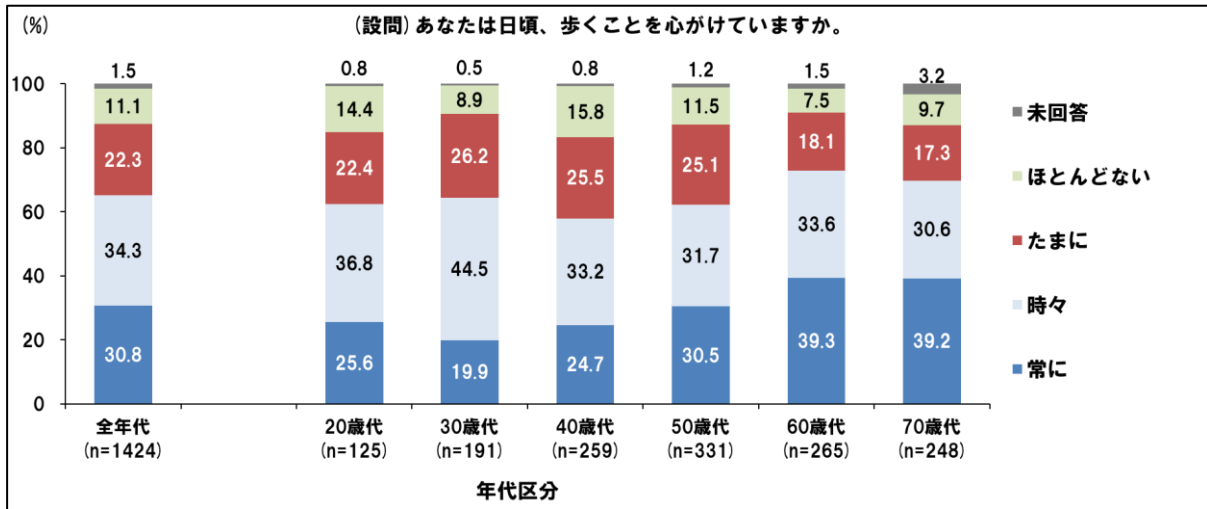
図表● 運動習慣者の割合(性・年代別) ※再掲



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

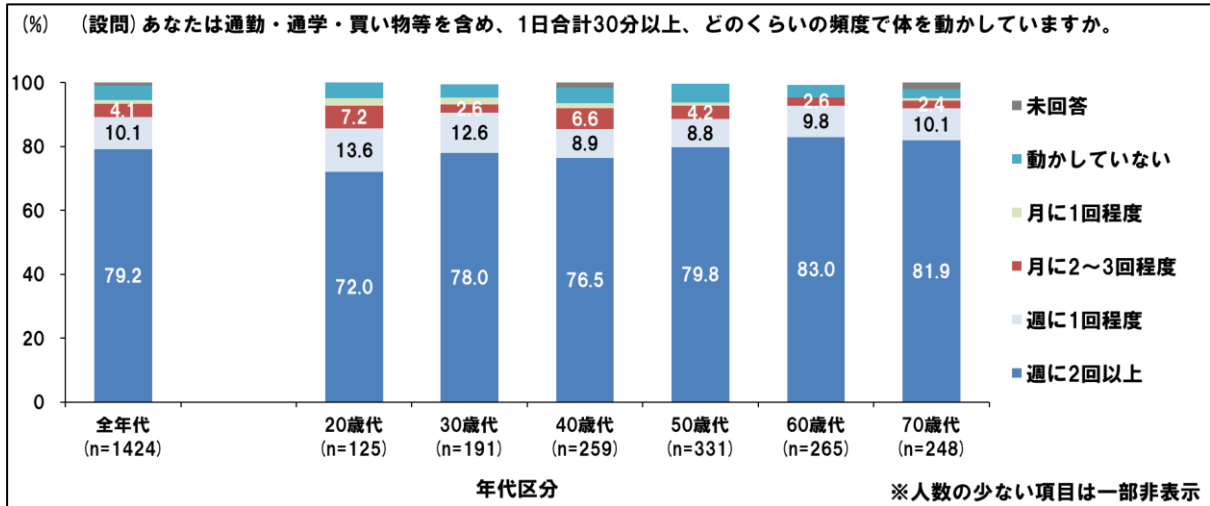
日頃歩くことを「常に」心がけている人の割合は 30.8%です。一方で通勤・通学・買い物等を含めて体を動かしている頻度を含めると 79.2%が週 2 回以上体を動かしています。

図表● 歩行意識別の割合(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

図表● 通勤・通学・買い物等で体を動かしている頻度（年代別）

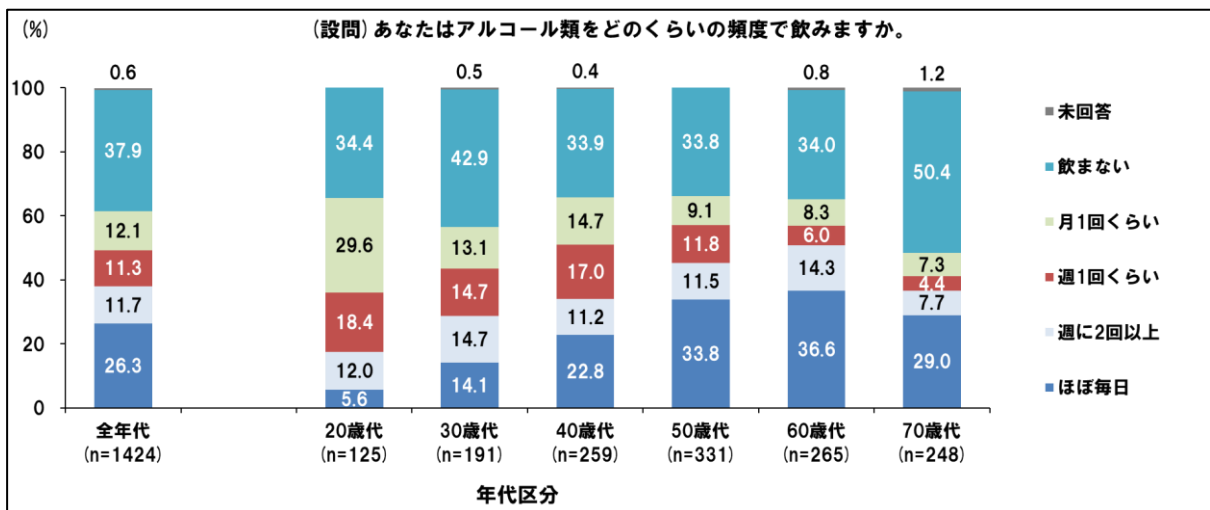


出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

(エ) 飲酒

飲酒頻度は50歳代と60歳代でほぼ毎日飲む人が30%を超えており飲酒量が多くなっています。50歳未満は年齢が若くなるほど、毎日飲む人が減少する傾向がみられています。

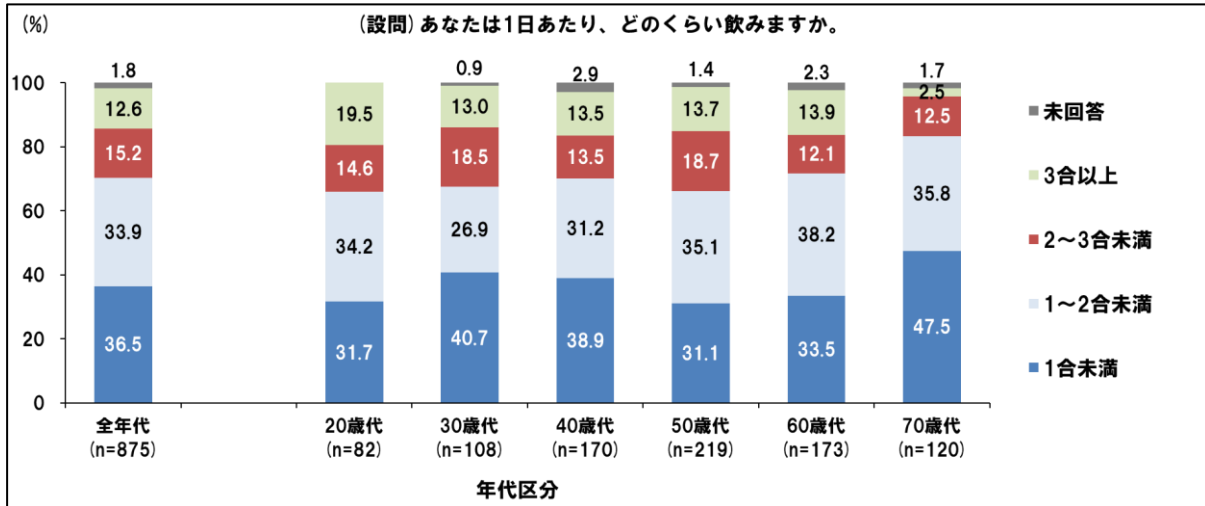
図表● 飲酒頻度別の割合（年代別）



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

飲酒量では3合以上飲む人が、20歳代で19.5%と最も高くなっており、毎日飲む人は少ないですが、飲む場合の飲酒量は多い傾向があります。

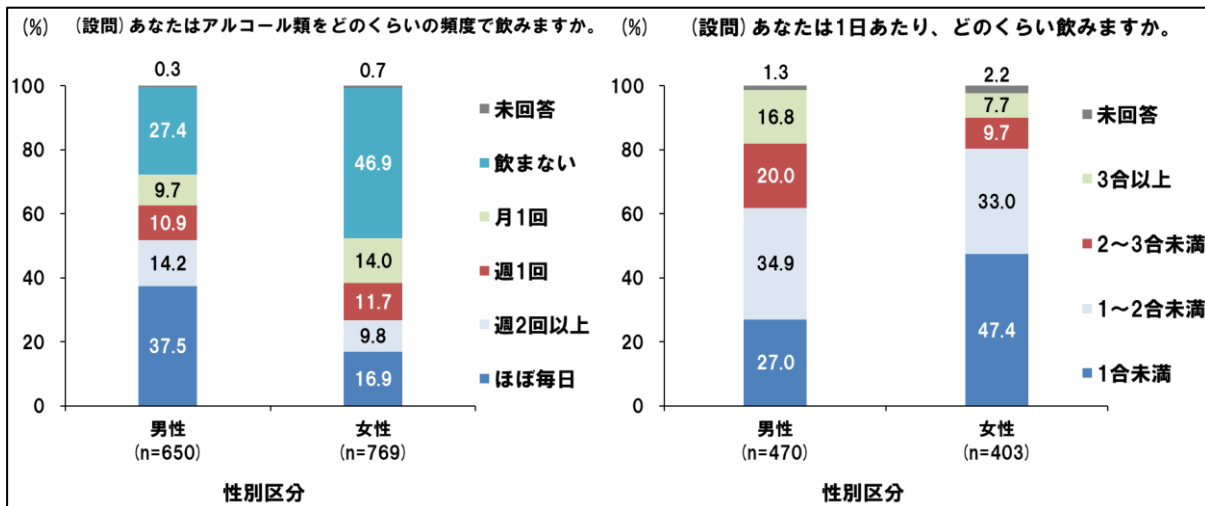
図表● 飲酒量別の割合(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

性別の飲酒頻度と飲酒量では共に男性が女性と比較して、頻度と飲酒量が多くなっています。

図表● 飲酒頻度及び飲酒量の割合(性別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

4か月児健診で確認した母親の妊娠中の飲酒(妊婦の飲酒)は、H29年度は24人(1.7%)で、R4年度では7人(0.6%)でした。

図表● 妊婦の飲酒

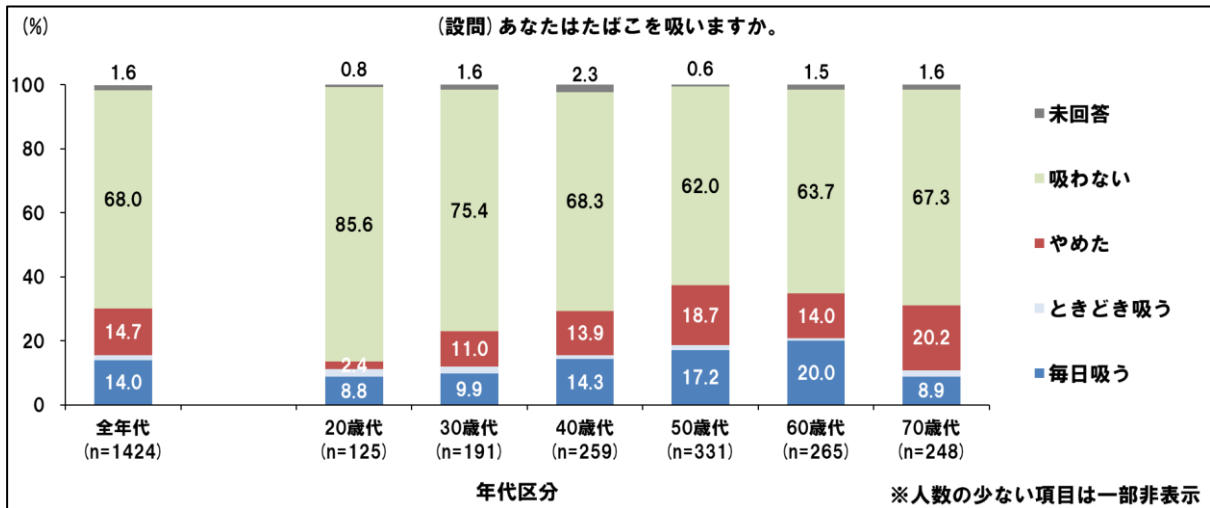
年度	対象(人)	あり(人)	割合
H29	1,430	24	1.7%
R2	1,326	10	0.8%
R4	1,097	7	0.6%

出典 戸田市4か月児健診質問票

(オ) 喫煙

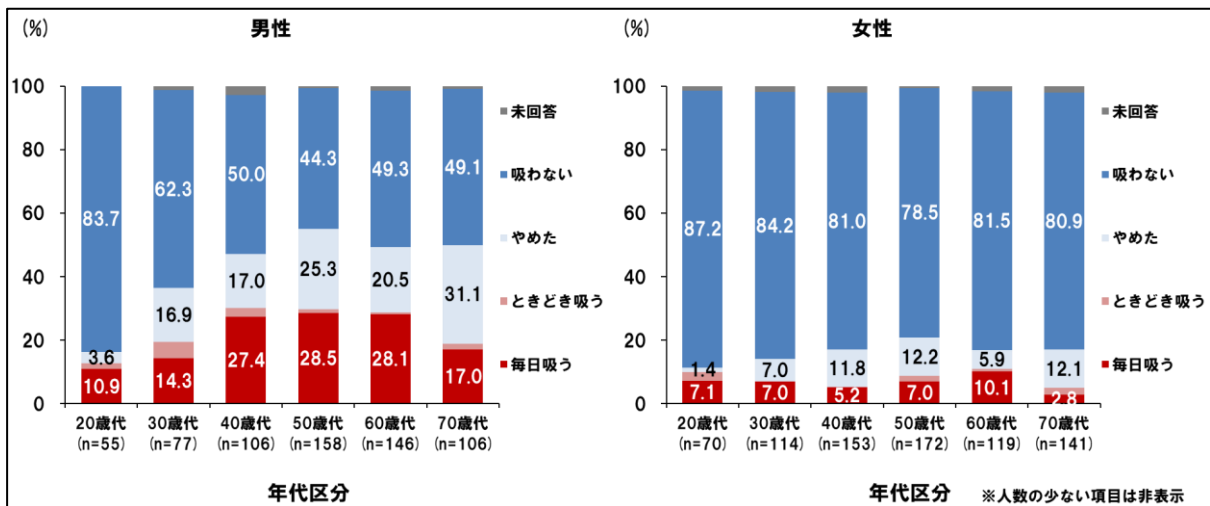
喫煙率は毎日吸う人が60歳代で最も高く、次に50歳代や40歳代が高くなっています。男女別では男性の喫煙率が高く、40歳代から60歳代で毎日吸う人が25%以上となっています。

図表● 喫煙者の割合(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

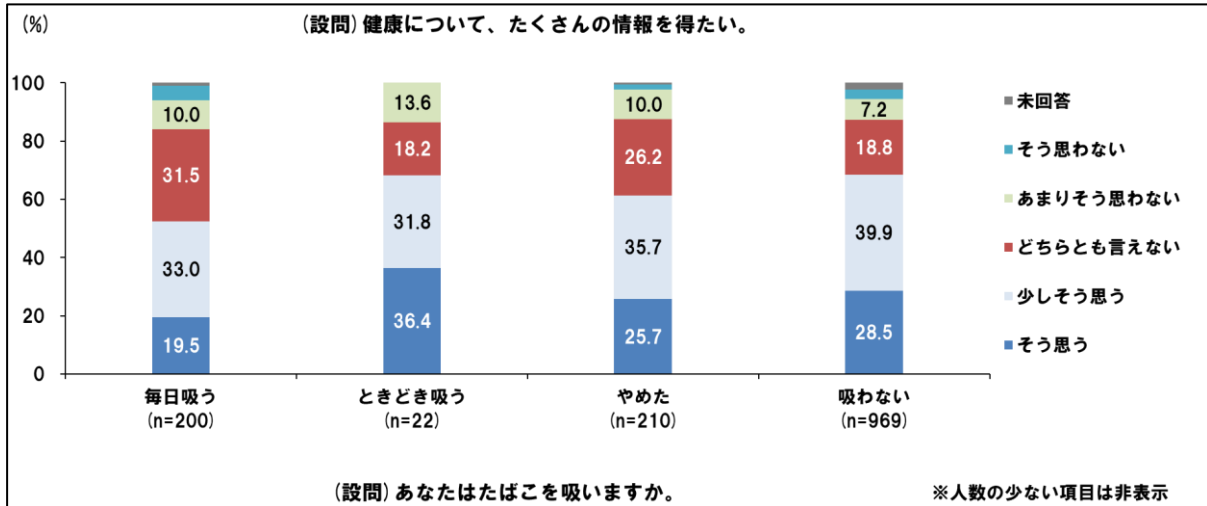
図表● 喫煙者の割合(性・年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

たばこを毎日吸う人は、「健康について、たくさんの情報を得たい」の設問に対して「そう思う」「少しそう思う」と回答する人の割合が少なく、喫煙している人には健康に関する情報が届いていないことが考えられます。

図表● 喫煙の状況と健康情報への関心



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査 (令和 4 年度)

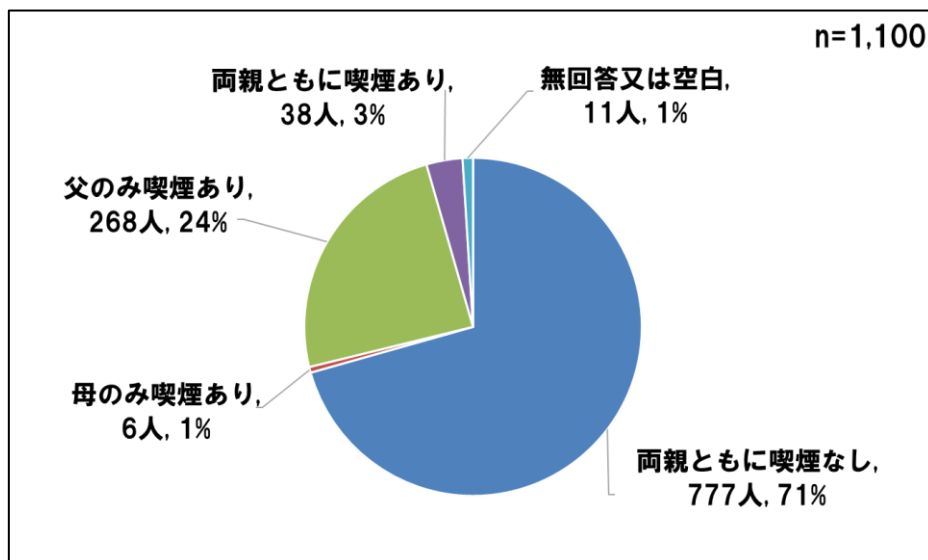
4 か月児健診で確認した母親の妊娠中の喫煙 (妊婦の喫煙) は、H29 年度は 31 人 (2.2%)、R4 年度は 21 人 (1.9%) でした。また、乳幼児の親の喫煙状況は、父親が喫煙している割合が多い状況です。

図表● 妊娠中の喫煙

年度	対象 (人)	あり (人)	割合
H29	1,434	31	2.2%
R2	1,329	19	1.4%
R4	1,098	21	1.9%

出典 戸田市 4 か月児健診質問票

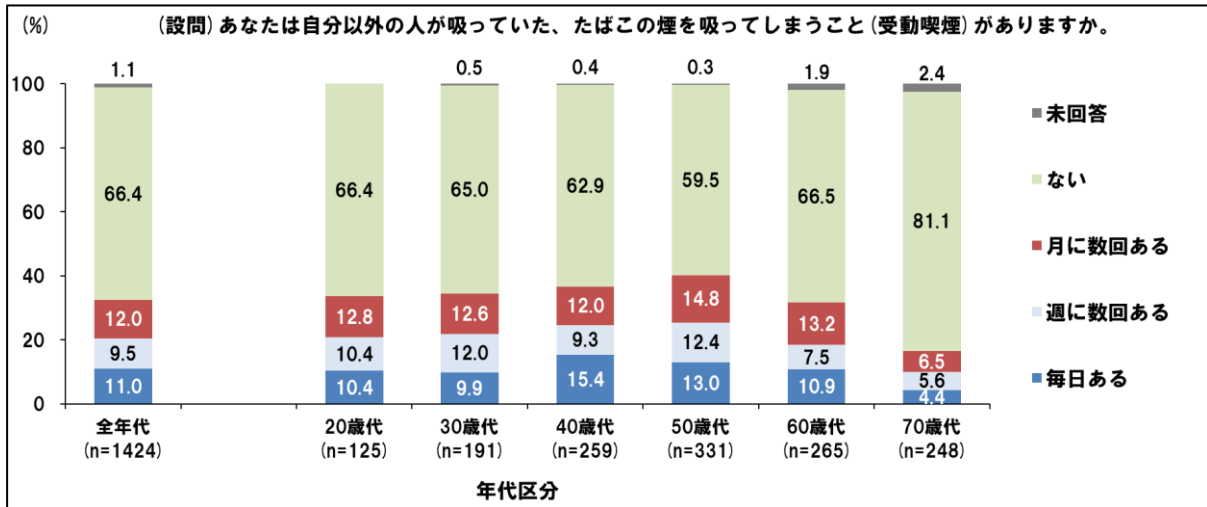
図表● 乳幼児の親の喫煙状況



出典 戸田市 4 か月児健診質問票 (令和 4 年度)

受動喫煙が毎日ある人の割合は 11.0%で、受動喫煙の場所は、家庭、職場でその割合が高くなっています。

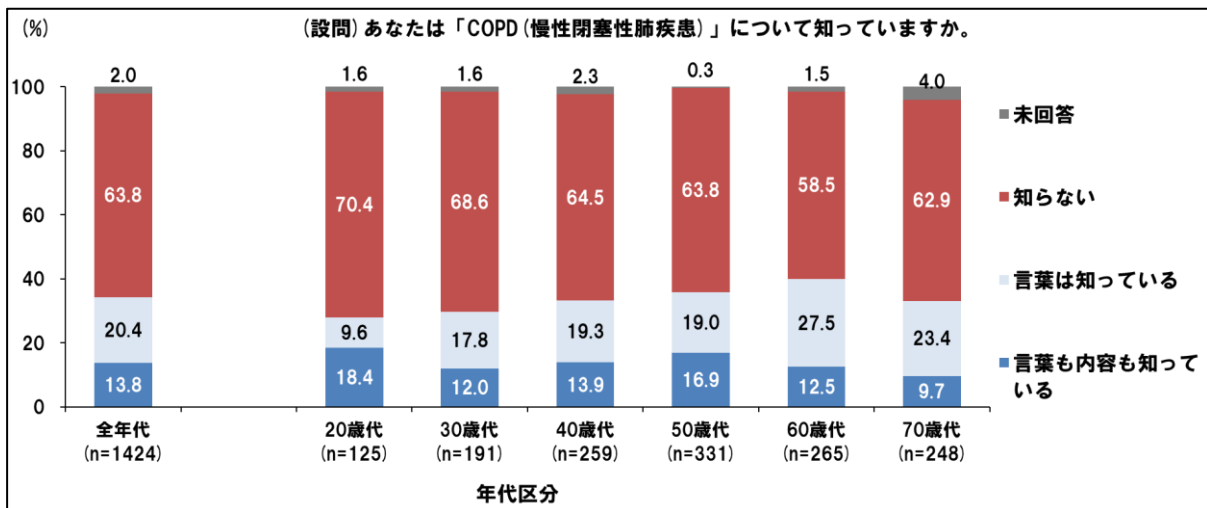
図表● 受動喫煙の割合(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

COPDの認知度は、知らないと回答した人の割合が63.8%で継続して普及促進が必要です。

図表● COPDの認知度の割合



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

6) 施策の展開【第4次健康増進計画】

① 健康意識

課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 年代別の主観的健康度では、40歳代以降で「健康だと思う」と回答する人の割合が少なく、その後は横ばいで推移しています。 ● 肥満の人は、食事の際にゆっくりよくかんでおらず、自分に合った食事内容や量を知らない人の割合が多くなっています。身体健康状態を改善するための対策の一つとして、食事に関する市民への普及啓発の効果的な実施方法を検討する必要があると考えられます。 ● 健診を受けていない人は、「健康について、たくさんの情報を得たい」の設問において「そう思う」と回答した人の割合が少なくなっています。健診を受診していない人は、健康に関する情報を積極的に得ようとしない傾向がみられています。そのため、健康に関する情報を積極的に得ようとしない人に対し、情報を届けるための仕組みが必要と考えられます。
戸田市が目指す姿
<ul style="list-style-type: none"> ● 各ライフステージにおける市民の健康維持・増進の取り組みが進められているまち ● 健康に関する必要な情報が市民に届き、それを活用することにより市民が健康維持・増進を進めるまち ● 市で行われている各施策がつながり、効率的かつ効果的に推進されているまち
取り組み
市民が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 各ライフステージに応じた健康づくりの取り組みへ参加します。 ● 市や関係機関から発信される健康に関する情報を活用し、その効果を周囲の人に伝えます。 ● 疾病の早期予防を目的とした健康診断の受診に取り組みます。
地域(町会や自治会、市民活動団体、企業等)が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● その地域における市民のライフステージに応じた健康づくりの取り組みを支援します。 ● 市や関係機関から発信される健康に関する情報を、地域の市民へ伝えていきます。 ● 地域における市民の健康診断の受診に関する支援を行います。
市が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 各ライフステージにおける市民の健康課題を把握し、適切な対策を実施します。 ● 市民に健康に関する情報を発信し、その情報を受け取り、活用していく市民を支援していきます。 ● 地域に健康に関する情報を発信し、地域から市民へ伝える取り組みを支援していきます。
<p>◆主な取り組み◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健幸アンバサダー事業 ・各種健(検)診、各種健康教室・イベント等での普及・啓発

◆主な実施事業関係所属・関連団体等◆

福祉保健センター・協働推進課(笹目コミュニティセンターコンパル)・生活支援課・保険年金課・こども家庭支援室・市民医療センター診療室・教育政策室

SWC 推進プランにおいて連動する主な取り組み

- 健康×ロコミによる健康情報の伝達
- 健康×イベント
- 健康×健康データの利活用

② 運動

課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 運動習慣は、60歳未満が60歳以上と比較して少なく、ライフコースアプローチをふまえると、子どもの頃の運動・スポーツ体験を通じて、大人になってからの運動・スポーツの取り組みの継続を支援していくことが対策の一つとして考えられます。 ● 男性と女性の比較では、女性の運動習慣が少ない状況で、特に20～40歳代での運動習慣が少ない状況です。健康日本21(第三次)では、「若年女性のやせの減少」が目標の一つとして掲げられており、若年女性・妊娠や子育て中の女性において、運動・スポーツに取り組める環境整備が必要と考えられます。 ● 日頃歩くことを「常に」心がけている人の割合は30.8%で、歩行習慣は生活習慣病や介護予防につながるため、歩行習慣に関する普及啓発を行うと共に、そのような啓発活動が届いていない市民が、歩くことを意識していなくても、自然に歩いてしまうまちづくりを推進することが必要と考えられます。
戸田市が目指す姿
<ul style="list-style-type: none"> ● 市民が運動・スポーツに親しみ、運動習慣の定着を通じた健康づくりが進められるまち ● 運動・スポーツに取り組みづらい環境にある市民でも、運動・スポーツに参加しやすい環境が整備されたまち ● 子どもが運動・スポーツの楽しさに触れ、定期的な運動・スポーツに取り組むとともに、子どもから大人へ、運動・スポーツの楽しさが伝えられるまち ● 歩くことを意識していなくても、自然にあるいてしまうまち ● 自転車等の日常の移動手段に、運動・スポーツの要素を取入れることで、気軽に運動・スポーツに取り組めるまち
取り組み
市民が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 運動・スポーツに親しみ、運動習慣を保持し健康を維持・増進します。 ● 市や関係機関から提供される環境を活用し、運動・スポーツに取り組みます。 ● まちなかを楽しみ、人との出会いを通じて、歩行習慣を維持・増進します。 ● 日常の移動で自転車等の身体を動かす移動手段を選び、日常の移動における運動・スポーツの習慣化に取り組みます。
地域(町会や自治会、市民活動団体、企業等)が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域における市民が運動・スポーツに取り組むことを支援します。 ● 運動・スポーツに対する市民各々のニーズに合わせて取り組める環境を整備します。 ● 地域の環境を整備することで、市民が自然と歩いてしまうまちづくりを進めます。
市が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 市民が運動・スポーツに取り組む環境を整備します。 ● 運動・スポーツに取り組む環境を整備する地域に対して支援を行います。 ● 運動・スポーツに取り組みづらい環境にある市民を把握し、そのような市民でも参加可能

な運動・スポーツの機会を提供します。

- 子どもに運動・スポーツの楽しさを体感する機会を提供するとともに、子どもから大人へ健康に関する情報を伝える取り組みを進めます。
- 市が進めるまちづくりの取り組みを通じて、歩きたくなるまちづくりを進めます。
- 徒歩と公共交通や自転車等で、移動しやすい、交通インフラ、歩道や自転車道の環境整備を進めます。

◆主な取り組み◆

- ・とだウェルネスマイレージ事業
- ・キッズ健幸アンバサダー
- ・各種講座・教室、イベント等

◆主な実施事業関係所属・関連団体等◆

福祉保健センター・協働推進課(笹目コミュニティセンターコンパル・さくらパル)・文化スポーツ課(スポーツセンター)・経済戦略室・みどり公園課・福祉総務課(上戸田地域交流センターあいパル)・生活支援課・健康長寿課・保険年金課・保育幼稚園課・教育政策室・生涯学習課(公民館)

SWC 推進プランにおいて連動する主な取り組み

- 健康×インセンティブ
- 健康×若年層女性・子育て世代
- 健康×運動・スポーツ

③ 飲酒

課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 飲酒頻度は 50 歳代と 60 歳代でほぼ毎日飲む人が 30%を超えており、飲酒量が多くなっています。50 歳未満は年齢が若くなるほど、毎日飲む人が減少する傾向がみられます。 ● 飲酒量では 3 合以上飲む人が、20 歳代で 19.5%と最も高くなっており、毎日飲む人は少ない傾向ですが、飲む場合の飲酒量は多い傾向があります。20 歳未満の飲酒は脳や身体の発達に悪影響を与えることから、飲酒の防止と、20 歳以降に飲酒を始めてからも適量の飲酒に関する普及啓発が必要です。 ● 性別の飲酒頻度と飲酒量ではどちらも男性が女性と比較して、頻度と飲酒量が多くなっています。 ● 妊婦の飲酒は、H29 年度は 24 人 (1.7%) で、R4 年度では 7 人 (0.6%) でした。妊娠中の飲酒は胎児に影響を及ぼし、発達や発育障害を引き起こすことがわかっています。
戸田市が目指す姿
<ul style="list-style-type: none"> ● 市民が適度の飲酒量を理解し、過剰な飲酒による生活習慣病を予防するまち ● 飲酒に関する正しい知識を身につけ、妊娠中に飲酒をする人がいないまち
取り組み
市民が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 適度の飲酒量を理解し、過剰摂取による生活習慣病を予防します。 ● 次世代の健康に大きく影響する、20 歳未満や妊娠期の飲酒を控えます。 ● 自身の周囲の人に対して適切な飲酒に関わる情報を伝えます。
地域 (町会や自治会、市民活動団体、企業等) が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域における市民の適切な飲酒を推進します。 ● 地域の 20 歳未満や妊娠期の市民に対して飲酒の防止を進めます。
市が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 過剰な飲酒を行う市民を把握し、適切な飲酒に関する勧奨を行います。 ● 20 歳未満や妊娠期における飲酒防止の取り組みを進めます。 ● 適切な飲酒に関する情報を周囲の人に伝える市民を支援します。
<p>◆主な取り組み◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健幸アンバサダー事業 ・ 各種健(検)診、各種健康教室・イベント等での普及・啓発
<p>◆主な実施事業関係所属・関連団体等◆</p> <p>福祉保健センター・生活支援課・保険年金課</p>

SWC 推進プランにおいて連動する主な取り組み

- 健康×ロコミによる健康情報の伝達
- 健康×イベント
- 健康×健康データの利活用
- 健康×つながり

④ 喫煙

課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 喫煙率は毎日吸う人が 60 歳代で最も高く、次に 50 歳代や 40 歳代が高くなっています。男女別では男性の喫煙率が高く、40 歳代から 60 歳代で毎日吸う人が 25%以上となっています。 ● たばこを毎日吸う人で肺がん検診を受けていない人は約 7 割で、リスクのある人が必要な検診を受診していない状況です。このような人は健康に関する情報を得ようとしない層と考えられることから、個々に対策を進めると共に、新たな情報提供の手法を検討する必要があります。 ● 妊婦の喫煙率は、平成 29 年度は 31 人(2.2%)、令和 4 年度は 21 人(1.9%)でした。妊娠中の喫煙は、早産や低出生体重、発育遅延など、胎児に影響が及びます。また、乳幼児の親の喫煙状況は、父親が喫煙している割合が多い状況です。 ● 受動喫煙が毎日ある人の割合は 11.0%で、受動喫煙の場所は、家庭、職場でその割合が高くなっています。 ● COPD の認知度は、知らないと回答した人の割合が 63.8%で継続して普及促進が必要です。
戸田市が目指す姿
<ul style="list-style-type: none"> ● 喫煙の予防に向けた啓発と禁煙による喫煙率の減少を進めるまち ● 肺がん等の重篤な疾病リスクを有する人の検診受診に向けた啓発を進めるまち ● 妊婦の喫煙や家庭や職場等における受動喫煙を防止するまち
取り組み
市民が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 受動喫煙の影響について理解し、周囲の人達に受動喫煙させないようにします。 ● 検診を受診し、肺がん等の早期発見に努めます。また、喫煙している人へ検診受診を勧め、併せて COPD に関する周知も行います。
地域(町会・自治会、市民活動団体、企業等)が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の施設等で受動喫煙の防止に向けて、周辺環境の禁煙を進めます。 ● がん検診の受診を地域の市民に勧めます。
市が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 喫煙や受動喫煙が健康に及ぼす影響や、受動喫煙防止策の必要性について広く周知・啓発を行います。 ● がん検診の受診環境を整備し、未受診者への受診勧奨を進めます。 ● 妊婦の喫煙に関して、妊婦自身及び胎児への悪影響の周知や、乳幼児の受動喫煙防止に関する啓発を行います。
<p>◆主な取り組み◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健幸アンバサダー事業

- ・各種健(検)診、各種健康教室・イベント等での普及・啓発
- ・子育て講座や親子講座、イベント等の企画・実施
- ・歩行喫煙防止キャンペーン

◆主な実施事業関係所属・関連団体等◆

福祉保健センター・環境課・生活支援課・保険年金課・市民医療センター診療室・教育政策室

SWC 推進プランにおいて連動する主な取り組み

- 健康×口コミによる健康情報の伝達
- 健康×イベント
- 健康×つながり

7) 目標値と評価

国や県の基本的な方向、これまでの取り組み、前計画の評価と現状分析をふまえて、以下の通り目標値を設定しています。

分野	指標	単位	対象	現状値	目標値
寿命	健康寿命	歳	男性	17.17	17.92
			女性	20.27	20.92
健康意識	BMI が 2.5 以上の人の割合	%	全体	24.4	18.0
	健康診査の受診率	%	男性	30.3	26.0
運動	通勤・通学・買い物等を含め、1日合計 30 分以上週 2 回以上身体を動かしている人の割合	%	全体	73.0	80.0
	歩くことを心がけている人の割合	%	全体	79.2	85.0
飲酒	ほぼ毎日飲酒する人の割合	%	全体	26.3	22.0
	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合	%	男性	37.5	36.0
	妊娠中に飲酒する人の割合※	%	全体	26.5	24.0
喫煙	妊娠中に飲酒する人の割合※	%	妊婦	0.6	0.0
	喫煙者の割合	%	全体	15.5	15.0
	受動喫煙が毎日ある人の割合	%	非喫煙者	11.0	8.0
	COPD という言葉も内容も知っている人の割合	%	全体	13.8	25.0
	妊娠中に喫煙する人の割合※	%	妊婦	1.9	0.0

現状値 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和 4 年度）

※出典 戸田市 4 か月児健診質問票（令和 4 年度）

2 食育の推進【第3次戸田市食育推進計画】

1) 計画の趣旨

戸田市は「食は生きる力を育む」を基本に、市民、行政、地域、企業とともに食育を推進しています。

健康な身体と豊かな心を育むことはもちろん、毎日の生活に欠かすことのできない「食」は、まさに生きることそのものです。自分の食について考え学習することや、食を適切に選択する力をつけること、より良い食生活にしていこうとすることは、生きる力を育てることにつながります。また、食を通して、家族、地域などの世代を超えたコミュニケーションを図ることは、食の楽しさを実感し、生きる喜びにもつながります。

食育は、子どもから大人まであらゆる世代において、健康で心豊かに、いきいきと暮らすために必要なものです。また、高齢化が進行する中で、健康寿命の延伸や生活習慣病予防のためには、栄養バランスに配慮した食生活は欠かせないものです。しかしながら、子どもの頃に身についた食習慣を大人になってから改めることは容易ではありません。だからこそ、子どもの頃から楽しく美味しい食の体験や、日本の伝統的な郷土料理や伝統食材、食事の作法などを様々な場で体験し、学ぶことが必要になります。さらに、生産者や生産から消費、廃棄までの一連の食べ物の循環を配慮した食育の推進は、持続可能な食の環境づくりを進めることもできます。

第1次・第2次戸田市食育推進計画から、戸田市が目指す食育のイメージを「食育の木」という大きな木に見立て推進してきました。食への興味、食への関心に様々な情報や経験などの刺激が加わることで、「食に対する意識」が高まり、木が育ちます。そして、『健康を支える「食」』、『心をつなぐ「食」』、『循環する「食」』の3つの取り組みは、お互いの取り組みと関係し合いながら、より大きく食育を推進します。

毎日の生活に欠かすことのできない「食」に対する意識が高まることは、食育に関心のある市民に加え、関心の低い市民にとっても、戸田市に住むことで自然と「食」の質が向上し、「生きる力を育む」ことにつながります。

第3次戸田市食育推進計画は、第1次・第2次戸田市食育推進計画で推進してきた「食育の木」を育みつつ、このSWC推進プランの方向性とも整合を取りながら、引き続き、市民、行政、地域、企業が食への興味、関心を持ち、お互いに「生きる力を育む」取り組みを実践することによって、戸田市全体に食育活動が浸透し、市民一人ひとりが健康でいきいきと、心豊かに暮らすことを目指します。

〈戸田市が目指す食育のイメージ〉



人々が潜在的に持っている、食への興味、食への関心という種に、様々な情報や経験などの刺激が加わることで、食に対する意識が高まり、芽が出て、幹が育っていきます。そして、『健康を支える「食』』、『心をつなぐ「食』』、『循環する「食』』の3つの食育の取り組みを行うことで、枝が伸び、葉が生い茂り、小さな木が大きな木へと成長していきます。

また、食にまつわる3つの取り組みは、1つの取り組みから次の取り組みへ、また、他の取り組みへと、お互いが関係し合いながら進んでいきます。

木が大きく育つためには、太陽や水分、肥料等を与え、環境を整えることが重要です。これは行政の役割であり、戸田市は、食にまつわる啓発や事業を行い、市民や地域の活動を支援し、企業と協働し、活動できる環境を整えていきます。

2) 国及び埼玉県の基本的な方向

(ア) 国の基本的な方向(第4次食育推進基本計画)

国は、「第4次食育推進基本計画」において、基本的な方針を以下の通り示しています。

食育の推進に関する施策についての基本的な方針

本計画では、国民の健康や食を取り巻く環境の変化、社会のデジタル化など、食育をめぐる状況を踏まえ、以下の方針に重点をおいた取り組みが求められる。

- ① 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進
- ② 持続可能な食を支える食育の推進
- ③ 「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進

※出典「令和3年3月 第4次食育推進基本計画」

(イ) 埼玉県の基本的な方向(食育推進計画)

県は「食育推進計画 第8次計画策定調書」において、以下の通り基本理念と基本方針を示しています。

○基本理念

「生涯を通じた心身の健康を支える食育」と「持続可能な食を支える食育」の推進を図り、食への理解と感謝の念を深めることにより、「食育で豊かな健康づくり」を目指します。

○基本方針

基本理念を実現するため、3つの基本方針を掲げ、食育の推進を図ります。

ア 生涯を通じた健康を支える ～ 食育が健康づくりの第一歩 ～

イ 持続可能な食を支える ～ 食育で育む食と未来 ～

ウ 正しい知識を養う ～ 食育を通じた知識の習得 ～

※出典「食育推進計画 第8次計画策定調書(埼玉県)」

3) 戸田市のこれまでの取り組み

分野	指標	指標に対するこれまでの取り組み
食に対する意識	食育に関心を持っている人の割合	<ul style="list-style-type: none"> 健康福祉の杜まつりや食育通信、健康情報ステーションで市民が食育について関心を持てるよう、啓発を行いました。
健康を支える「食」	毎日は朝食を食べない人の割合	<ul style="list-style-type: none"> 食について学べる機会を提供しました。
	副菜(野菜料理)を毎日食べている人の割合	<ul style="list-style-type: none"> 健康福祉の杜まつりや食育月間には、朝食摂取や栄養バランスを整えることの大切さを周知しました。
	自分に合った食事内容、量を知っている人の割合	
	1日のうち、主食・主菜・副菜のそろった食事を1回以上とっている人の割合	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児健診では、栄養に関する情報提供を行いました。また、必要に応じて栄養指導を行いました。
心をつなぐ「食」	週のうち朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	<ul style="list-style-type: none"> パバママ教室では、妊婦とそのパートナーに対し、栄養に関する情報提供を行いました。
	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている人の割合	<ul style="list-style-type: none"> 健康福祉の杜まつりや和食の日に合わせて、行事食や郷土料理、家庭料理について啓発を行いました。
	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代の割合	<ul style="list-style-type: none"> 食に関する体験ができるように支援しました。 健康福祉の杜まつり等において、地産地消、旬産旬消に関する情報を提供しました。
循環する「食」	地産地消の言葉も意味も知っている人の割合	
	食品を購入するときに食品表示を見て購入する人の割合(3項目以上見る人)	<ul style="list-style-type: none"> 健康福祉の杜まつりや健康情報ステーションで食品ロスに関する啓発を行いました。
	食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合	

4) 前計画の評価

前計画で設定した 12 指標のうち、目標値を達成したのは 2 項目、目標値は達成していないが改善したものは 2 項目、目標値に到達しなかったものは 8 項目でした。

(目標値を達成した項目は◎、目標値は達成していないが改善した項目は○、目標に達しなかったものは×)

分野	指標	対象	単位	参考値 (平成 29 年度)	目標値 (令和 5 年度)	結果 (令和 4 年度)	評価
食に対する意識	食育に関心を持っている人の割合	全体	%	68.8	90.0	66.4	×
健康を支える「食」	毎日は朝食を食べない人の割合	全体	%	22.0	20.0	22.6	×
	副菜（野菜料理）を毎日食べている人の割合	全体	%	60.9	70.0	51.5	×
	自分に合った食事内容、量を知っている人の割合	全体	%	13.2	17.0	14.5	○
	1日のうち、主食・主菜・副菜のそろった食事を1回以上とっている人の割合	全体	%	61.3	70.0	54.6	×
心をつなぐ「食」	週のうち朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	全体	回	-	9.5	6.5	×
	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている人の割合	全体	%	-	40.0	26.3	×
	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代の割合	20歳代	%	-	50.0	45.6	×
30歳代		%	-	50.0	40.8	×	
循環する「食」	地産地消の言葉も意味も知っている人の割合	全体	%	65.0	75.0	70.9	○
	食品を購入するときに食品表示を見て購入する人の割合(3項目以上見る人)	全体	%	64.5	68.0	75.0	◎
	食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合	全体	%	-	67.4	94.2	◎

結果 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和 4 年度）

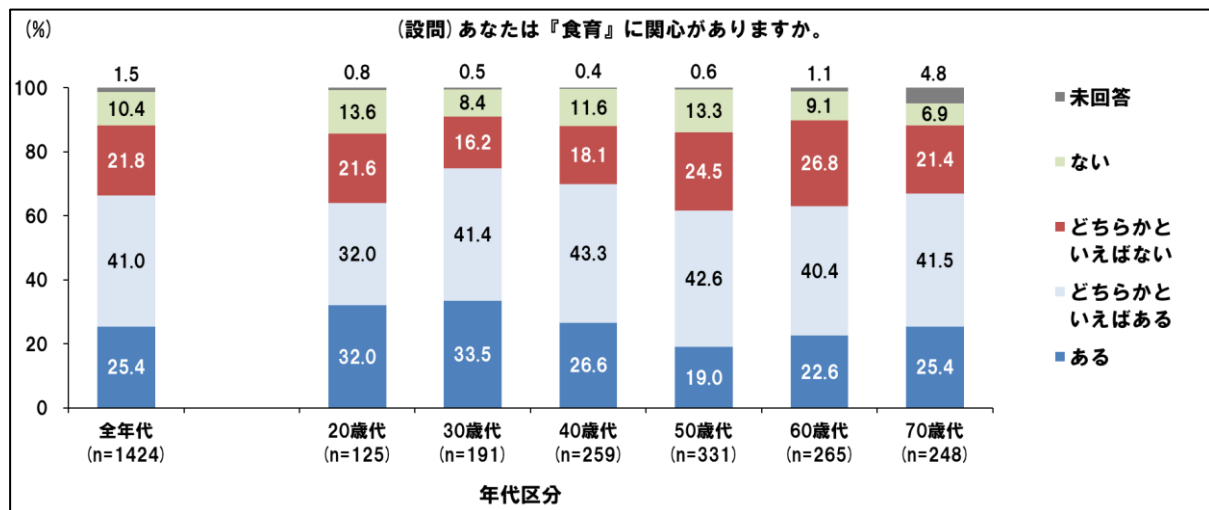
5) 現状分析の概要

(ア) 食に対する意識

<食育への関心>

食育への関心がある人※は、全体で 66.4%、平成 29 年度戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査結果の 68.8%と同等の結果となっています。なお、県民の健康に関するアンケート結果は令和 4 年度 52.3%となっており、県と比較して高い状況です。年代別では、30 歳代でやや高く、50 歳代でやや低くなっています。※「関心がある」「どちらかといえば関心がある」の回答者

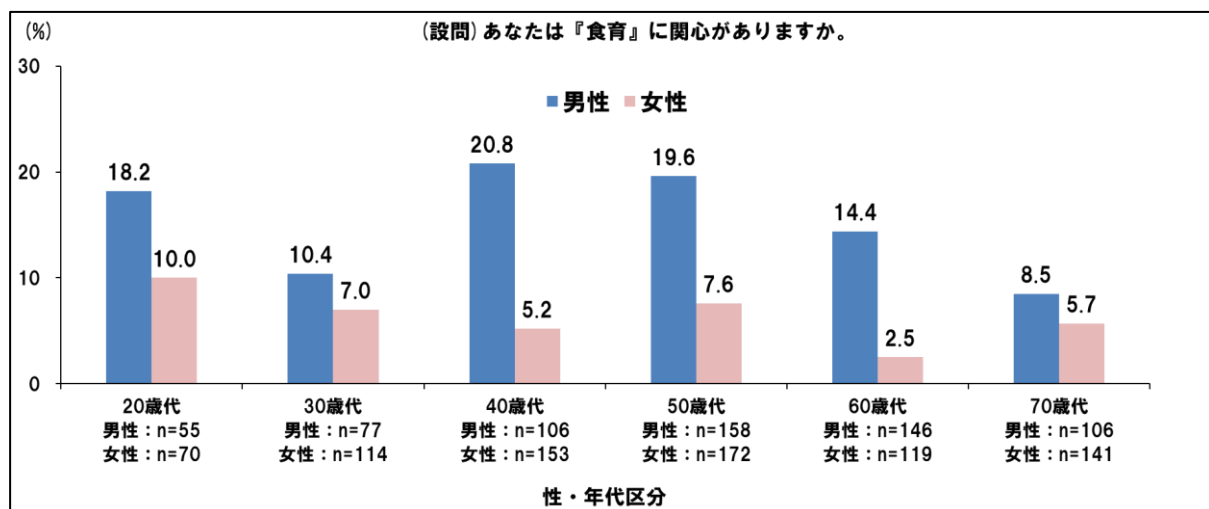
図表● 食育への関心(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

また、食育へ関心のない人※の割合は、男性が女性と比較して高く、男性では 40 歳代、50 歳代、20 歳代で関心のない人の割合がやや高くなっています。※「関心がない」の回答者

図表● 食育への関心のない人※の割合(性・年代別)



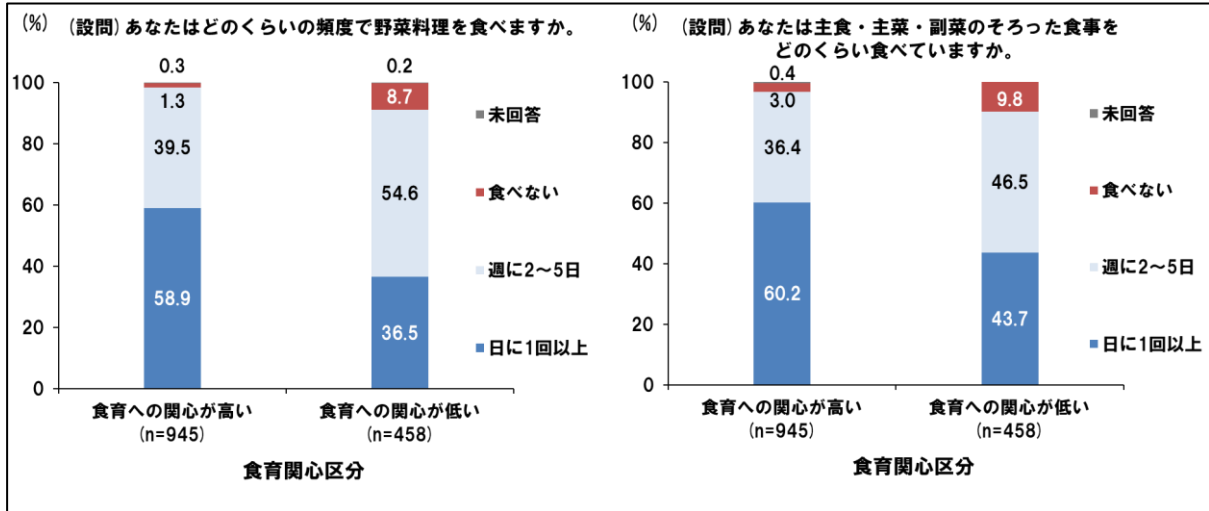
出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

食育への関心が高い人※ほど、良好な行動をとっており、朝食摂取の頻度も多い傾向がみられています。

食育への関心を高めることが、よりよい食行動につながる可能性が高いことが分かります。

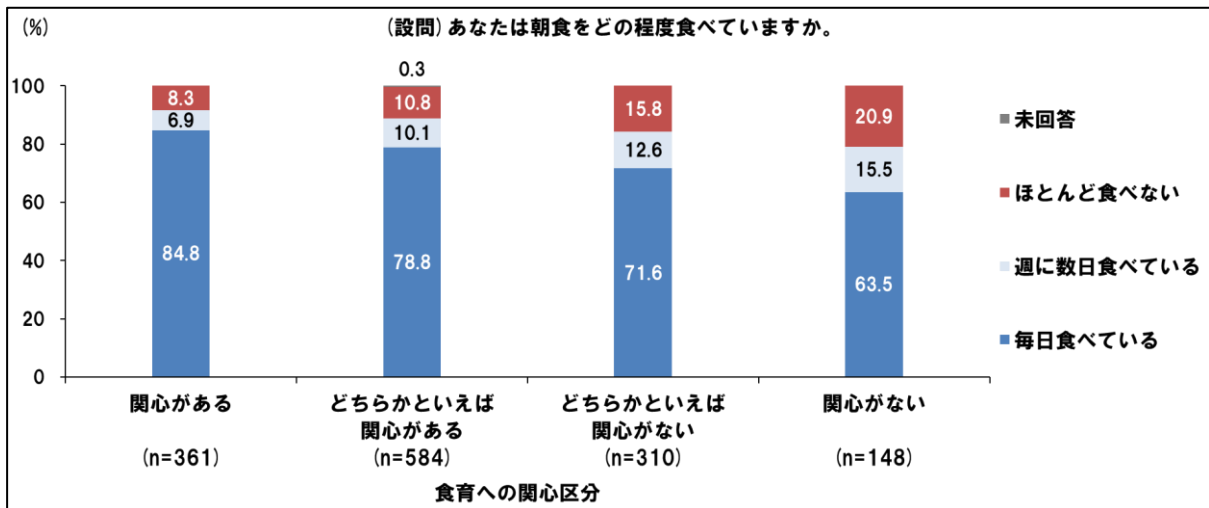
※「関心がある」「どちらかといえば関心がある」の回答者(関心が低いはその他の回答者)

図表● 食育への関心と食習慣



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

図表● 食育への関心と朝食頻度

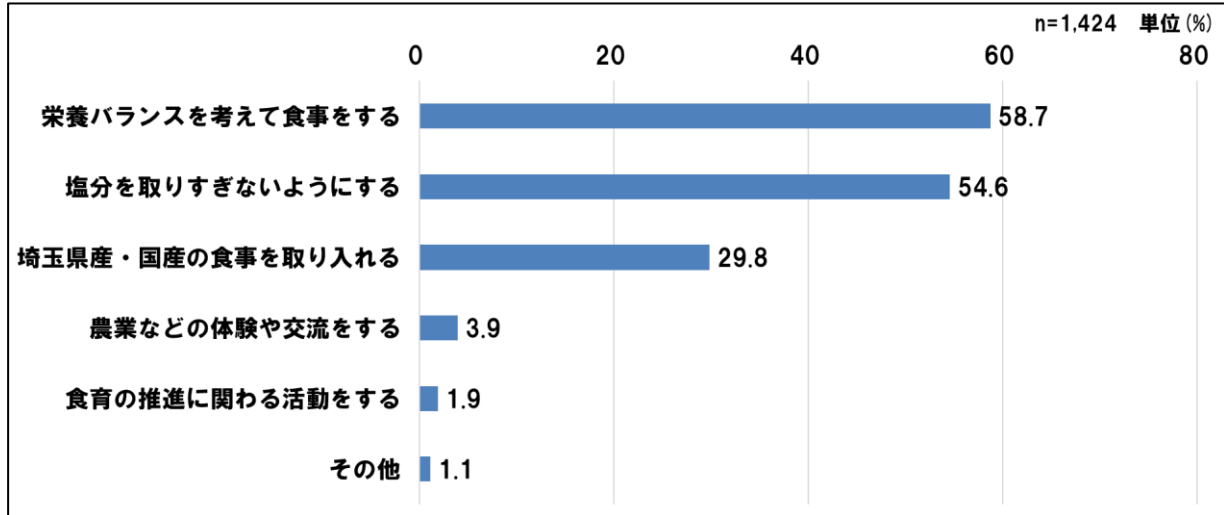


出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

<食育への取り組み>

食育に対する取り組みについて、すでに取り組んでいる人が多い項目は、「栄養バランスを考えて食事する」が58.7%、次いで「塩分を取りすぎないようにする」が54.6%となっています。

図表● 食育に対する取り組み



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

(イ) 健康を支える「食」

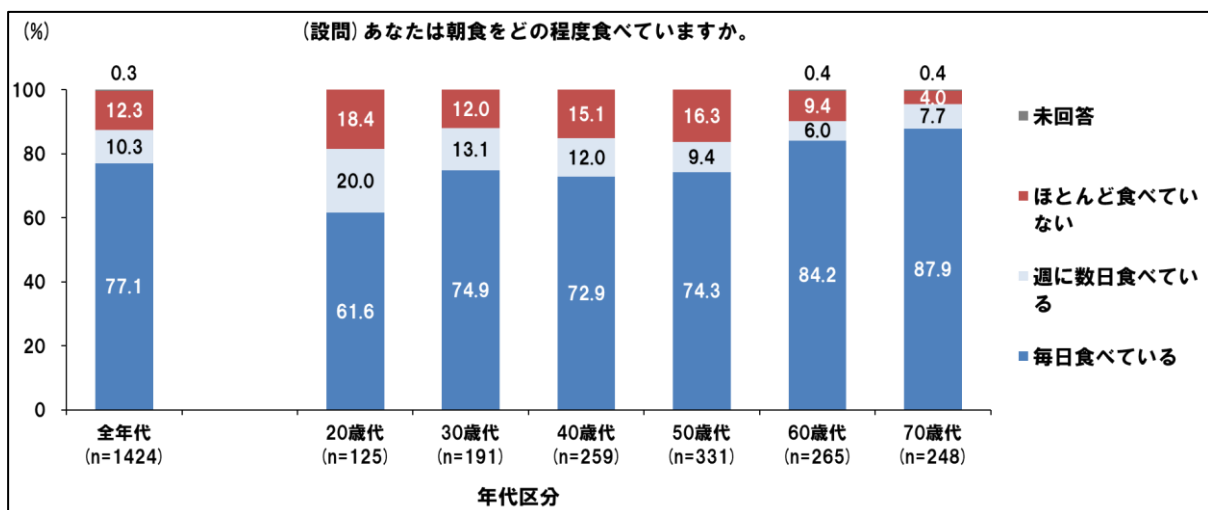
<朝食の欠食>

朝食を毎日食べる人は、全年代で77.1%で、20歳代が61.6%と最も低くなっています。

朝食を毎日は食べない人は、全年代で22.6%、平成29年度戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査では、朝食を毎日は食べない人は22.0%のため、ほとんど変化がありませんでした。

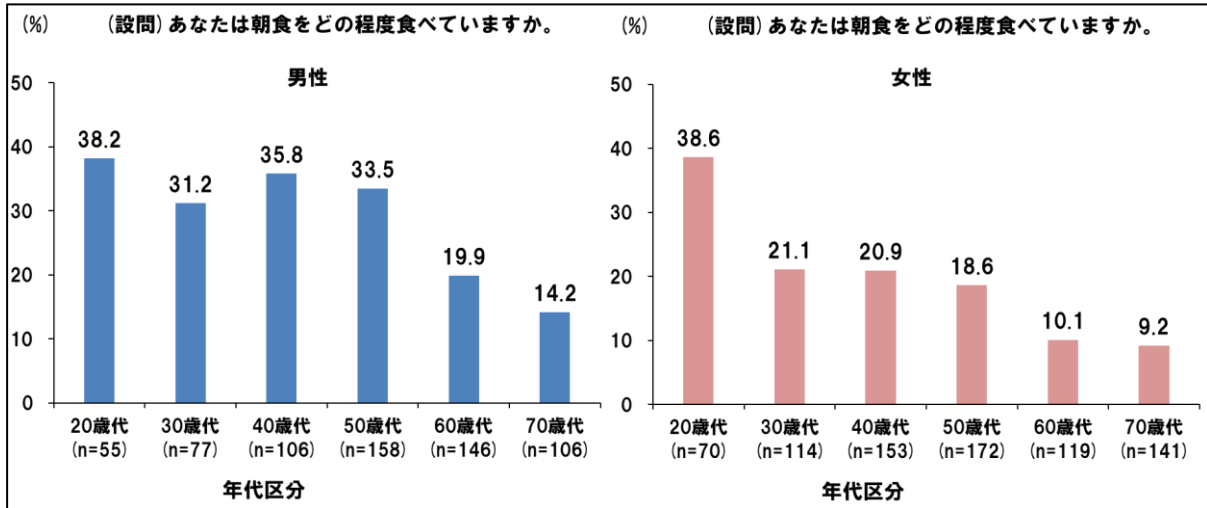
また、朝食を毎日は食べない人の割合は、20歳代で38.4%となっています。20歳代は男女ともに高く、男性は30歳代以降も高い状態が続きますが、女性は30歳代で減少しています。

図表● 朝食頻度の割合（年代別）



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

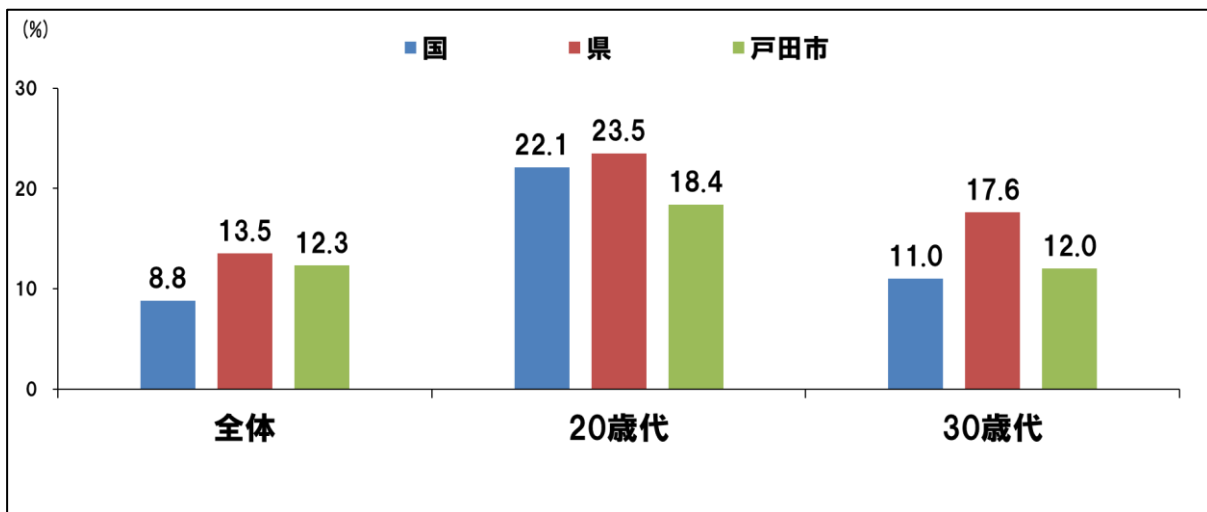
図表● 朝食を毎日食べない人の割合(性年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

国の第4次食育推進基本計画では、若い世代の朝食欠食の割合が高く推移しています。また、本市においては、国や県と比較し、朝食を毎日食べない若い世代(20歳代及び30歳代)の割合が高い状況です。

図表● 若い世代の朝食欠食※(国・県との比較) ※朝食をほとんど食べない人



出典 国：食育に関する意識調査(令和4年度)

県：国民健康・栄養調査 埼玉県分(令和4年)

市：戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

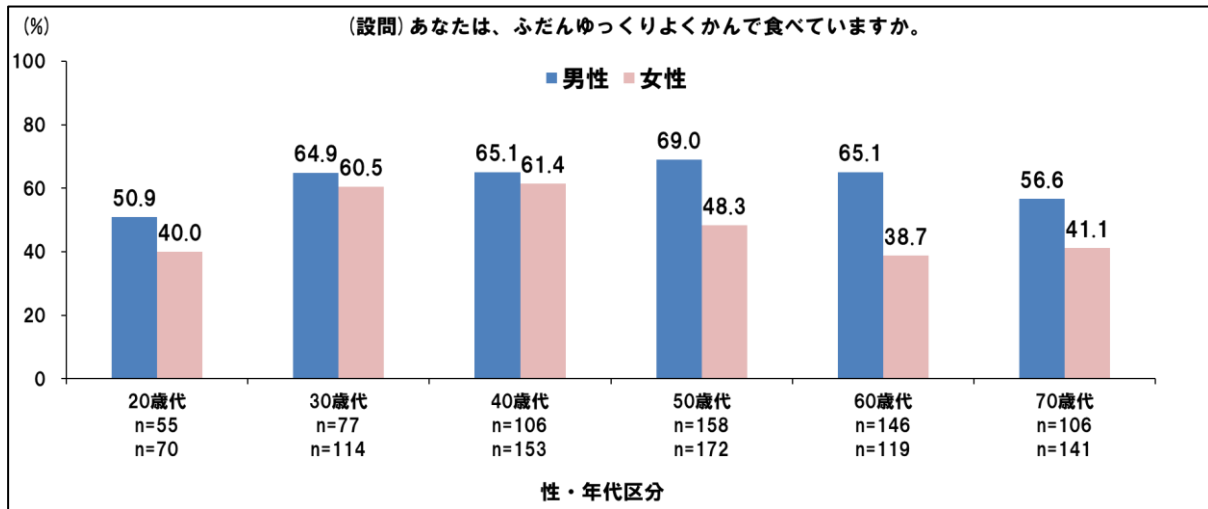
<体格と食習慣>

全年齢の過半数がゆっくりよくかんでいない状況にあります。さらに、肥満の人では、食事の際にゆっくりよくかんでおらず、自分に合った食事内容や量を知らない人の割合が高くなっています。

自身の健康状態に合わせた食生活を考える正しい知識の啓発や学ぶ機会の提供が必要です。

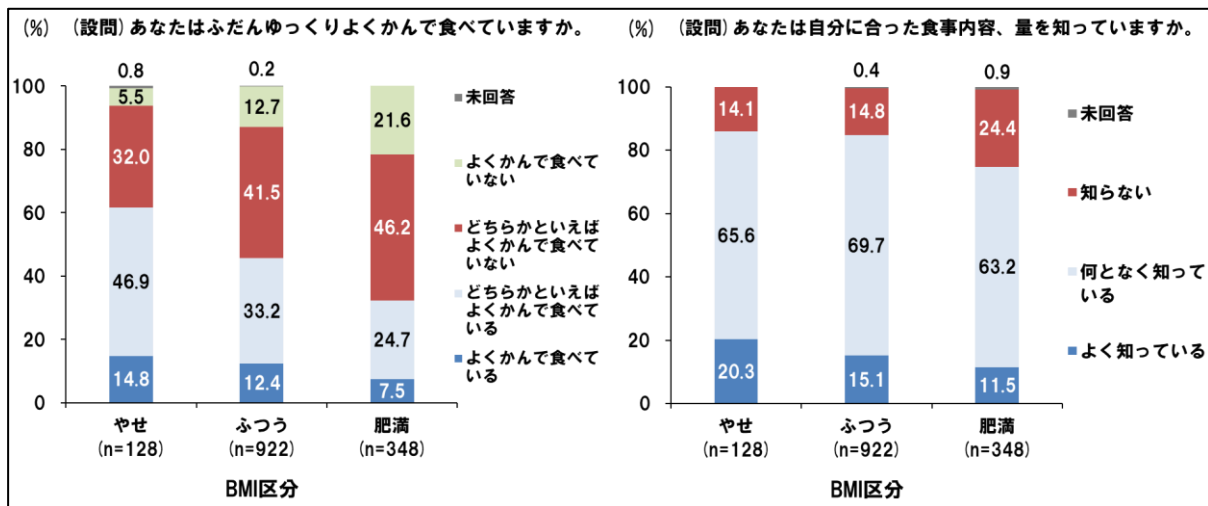
図表● ゆっくりよくかんで食べていない人※の割合

※ゆっくりよくかんで食べていない、又はどちらかといえばよくかんで食べていない人の回答者



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

図表● BMIと食習慣の関係※再掲

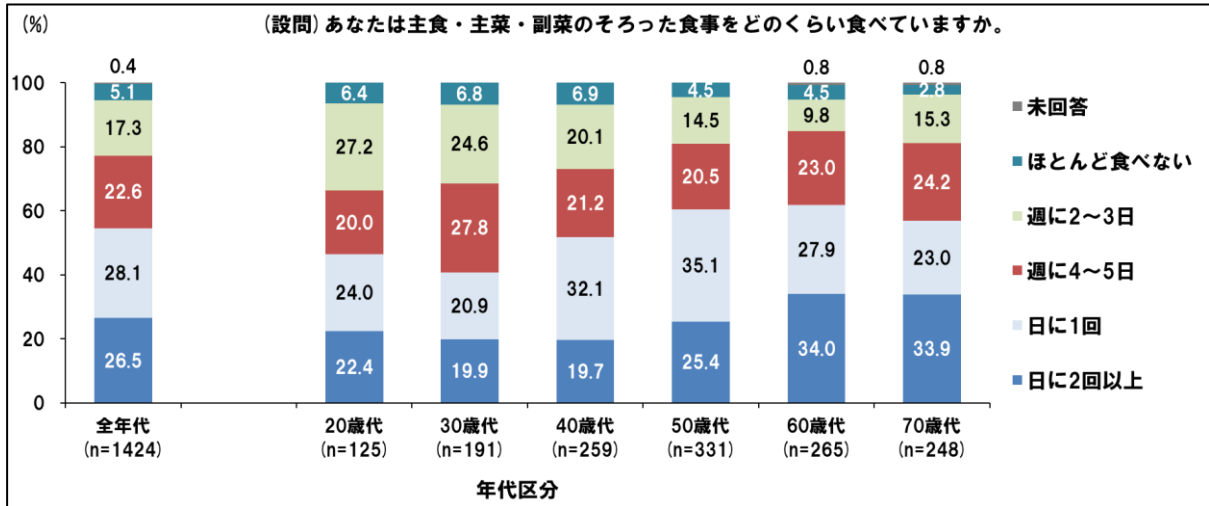


出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

＜食事のバランス＞

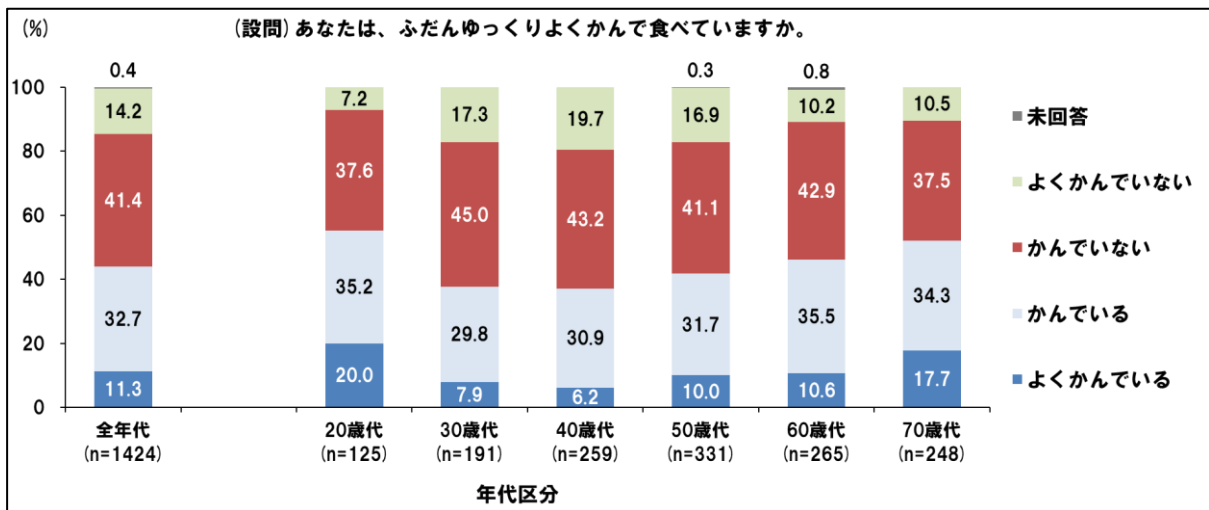
主食・主菜・副菜をそろえると、栄養のバランスがとれます。主食・主菜・副菜をそろえて1日1回以上食べる人の割合は54.6%で、平成29年度戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査結果の61.3%から減少しましたが、年代が上がるにつれて高くなっています。

図表● バランスのよい食事を摂っている人の割合(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

図表● ゆっくりよくかんで食べる人の割合(年代別)

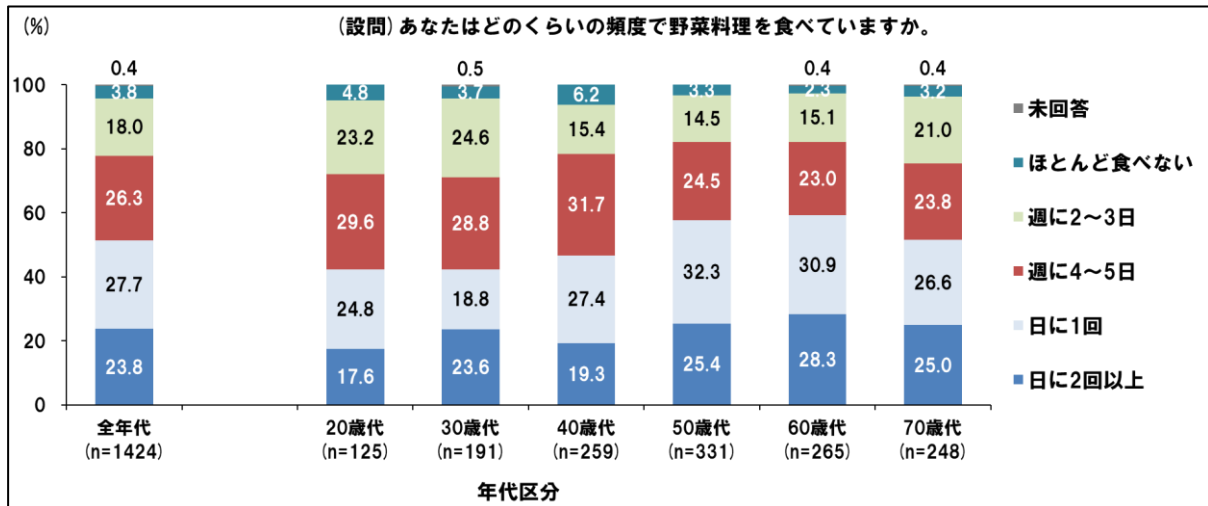


出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

野菜料理を毎日食べる人(日に1回以上)の割合は、全年代で51.5%です。性年代別では、20歳代を除き、男性で野菜を毎日食べる人の割合が低い状況です。

また、バランスのよい食事をとっている人は、野菜を食べている人の割合も高くなっています。

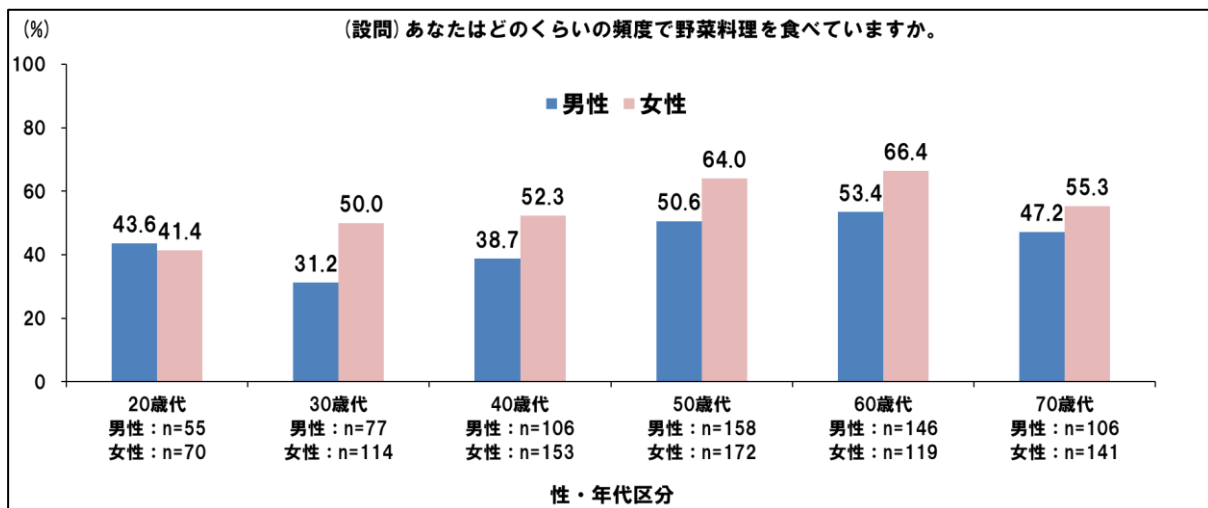
図表● 野菜料理摂取の頻度(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

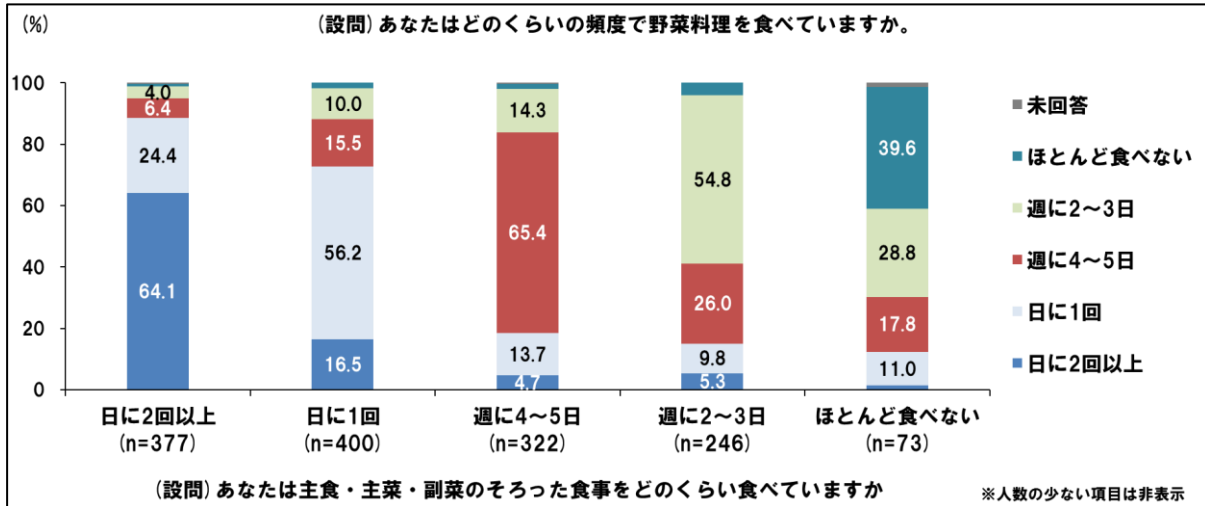
図表● 野菜を1日に1回以上食べている人※の割合(性・年代別)

※「日に2回以上」「日に1回以上」と回答した人の割合



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

図表● バランスの良い食事と野菜をとる頻度



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

(ウ) 心をつなぐ「食」

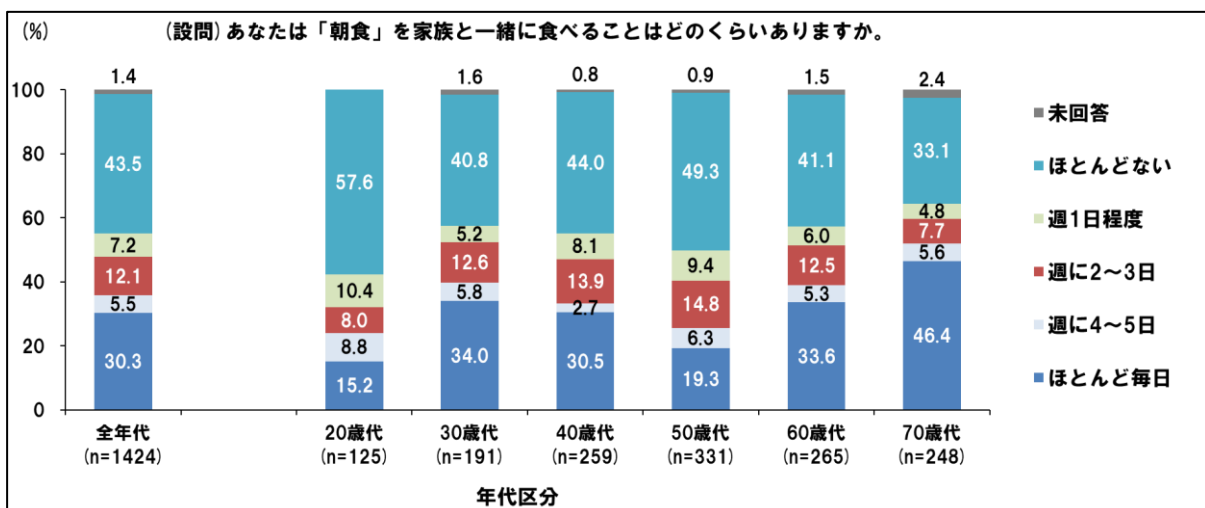
<共食>

家族や親しい人との食事は、食卓での会話を通じてコミュニケーションを深めたり、食への関心を高めたりすることで、望ましい食習慣をつくることにもつながります。

朝食を家族と一緒に食べることをしない人は全年代(単身世帯も含む)で43.5%、夕食は19.1%となっています。

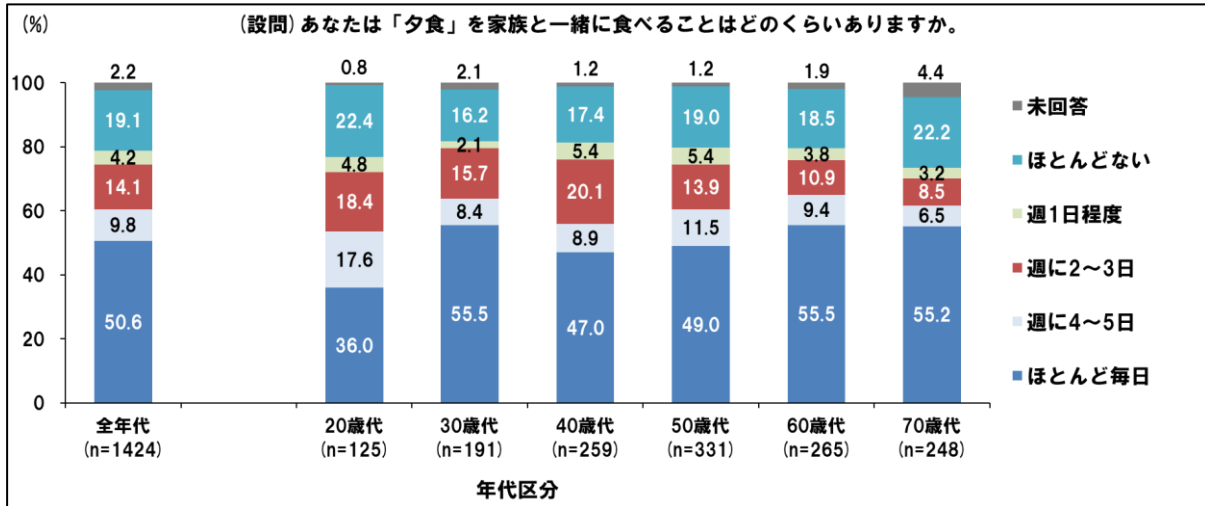
大人になってから食生活や生活習慣への意識や行動を変容することは容易ではありません。子どもの頃から健全な食習慣を身につけ、食を通じて人間性を育てるためにも、家族と共に食事することも大切です。

図表● 共食の回数の割合※朝食(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

図表● 共食の回数の割合※夕食(年代別)

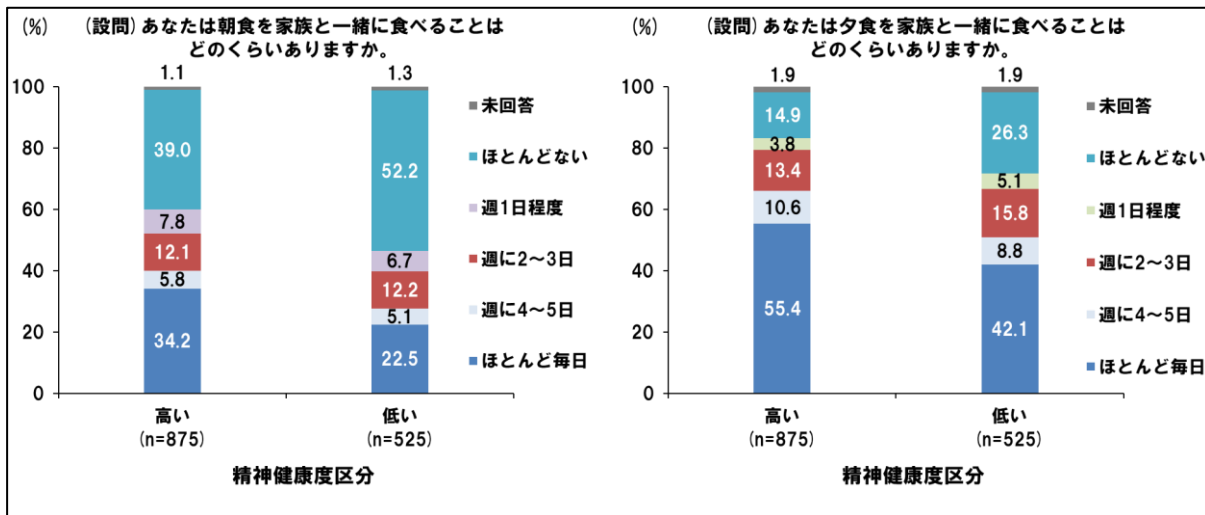


出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

また、朝食や夕食を共食する頻度が多いほど精神健康度が高い傾向にあります。そのため、家庭における共食を通じて、子どもも含めた市民の食育推進の機会を育むことが重要と考えられます。

図表● 精神健康度※と共食の関係

※WHO-5 精神的健康状態表の得点より13点以上を「高い」13点未満を「低い」と定義(市民アンケート調査の「問30 あなたの生活の状況」の設問を元に算出)

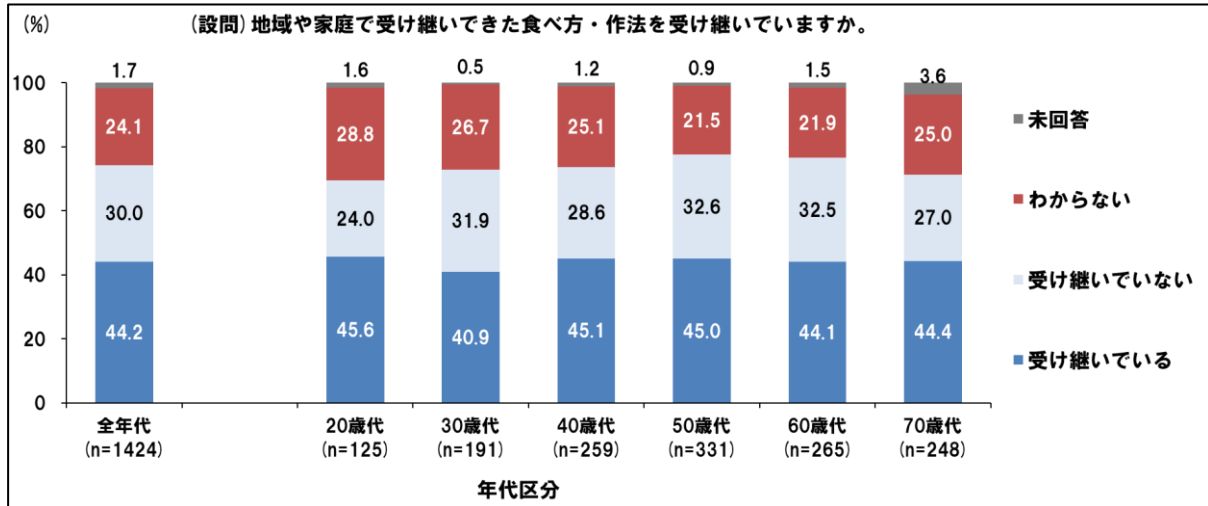


出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

<食文化の伝承>

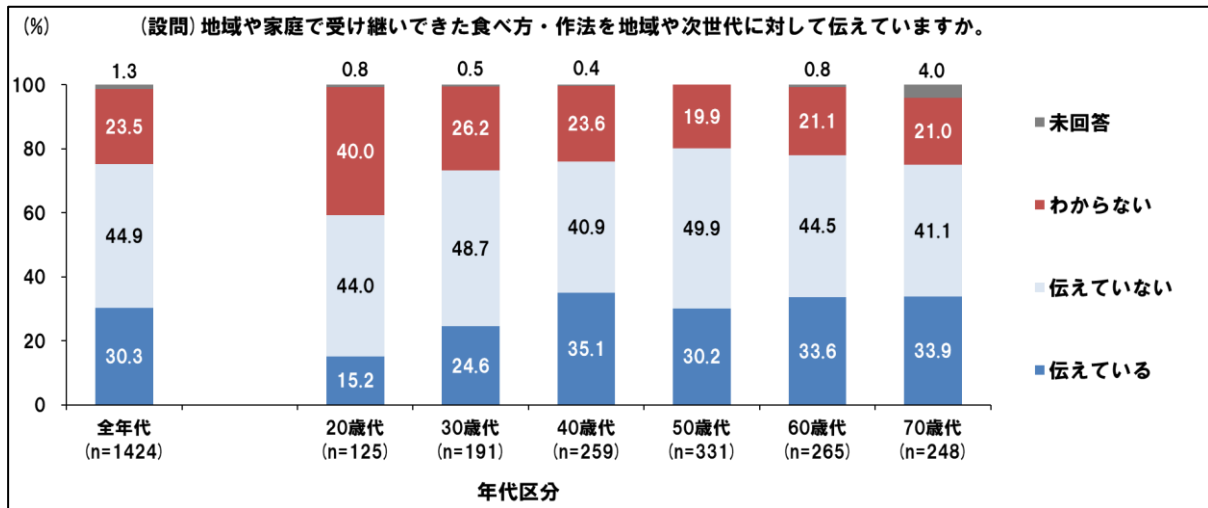
伝統料理や作法を受け継いでいる人の割合は全体で 44.2%であり、各年代では大きな差はありませんでした。地域や次世代に伝えている人の割合は 40 歳代から高くなり、その後横ばいとなります。子育て等を通じて、伝統料理や作法の伝承に取り組んでいると考えられます。

図表● 伝統料理や作法を受け継いでいる人の割合(年代別)



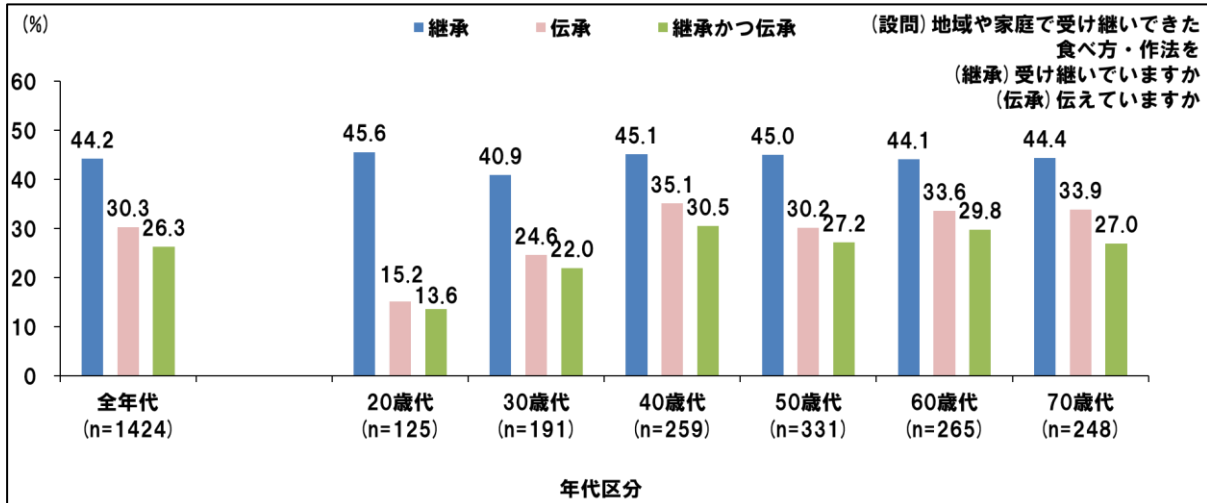
出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

図表● 伝統料理や作法を伝えている人の割合(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

図表● 伝統料理や作法を受け継いでいる、かつ伝えている人の割合(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

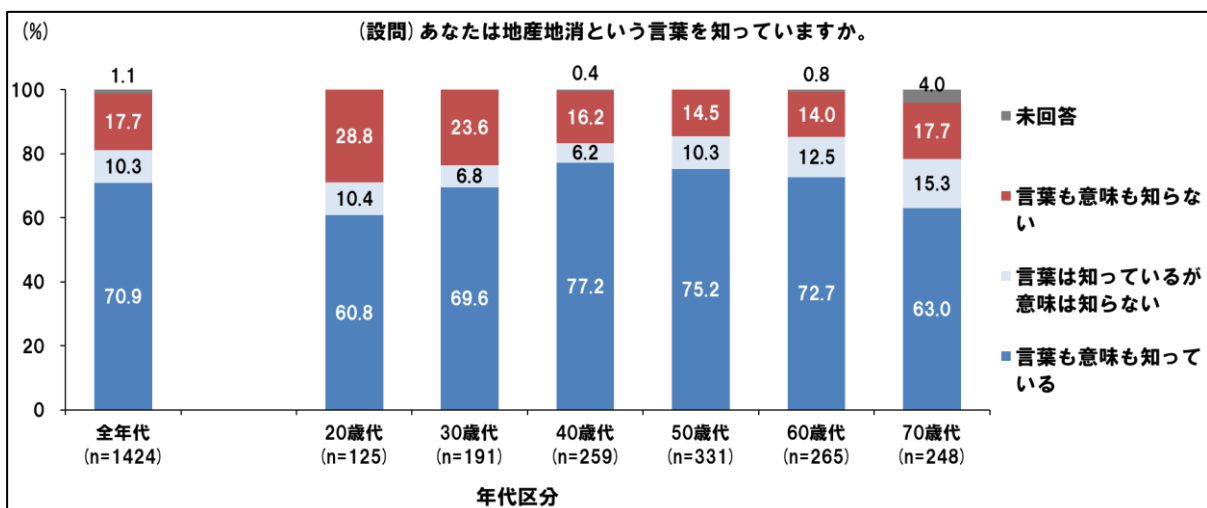
(エ) 循環する「食」

<地産地消>

地産地消※という言葉も意味も知っている人の割合は全体で70.9%と、平成29年度戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査結果の65.0%と比較して高くなっています。市内の小・中学校の学校給食においては、この取り組みとして、埼玉県産食材を用いた献立等の工夫をしています。

※地産地消 国内の地域で生産された農林水産物(食用に供されるものに限る。)を、その生産された地域内において消費する取り組み

図表● 地産地消の意味や言葉を知っている人の割合(年代別)

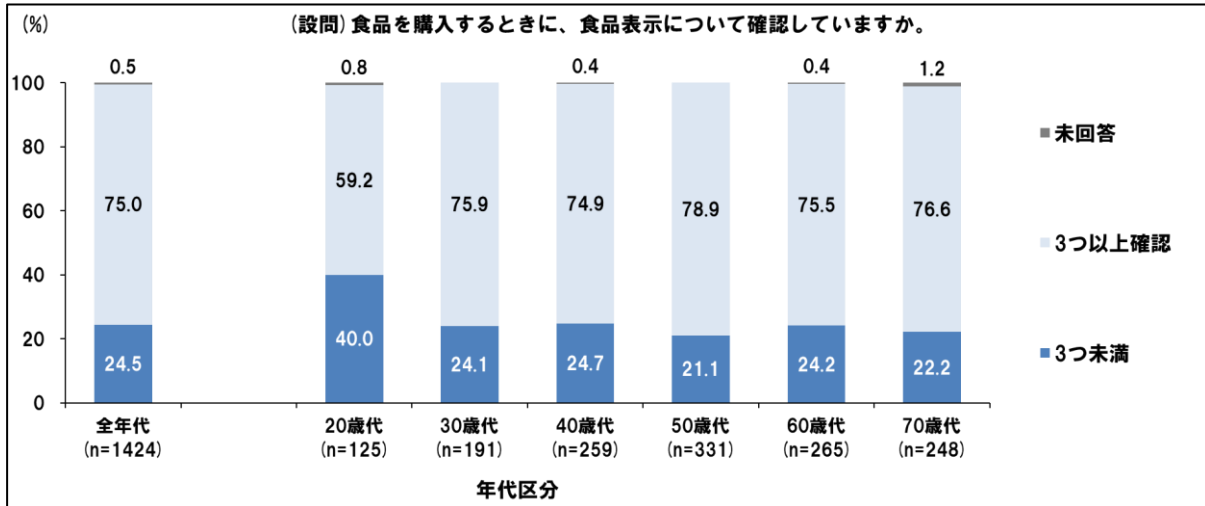


出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

<食の安全>

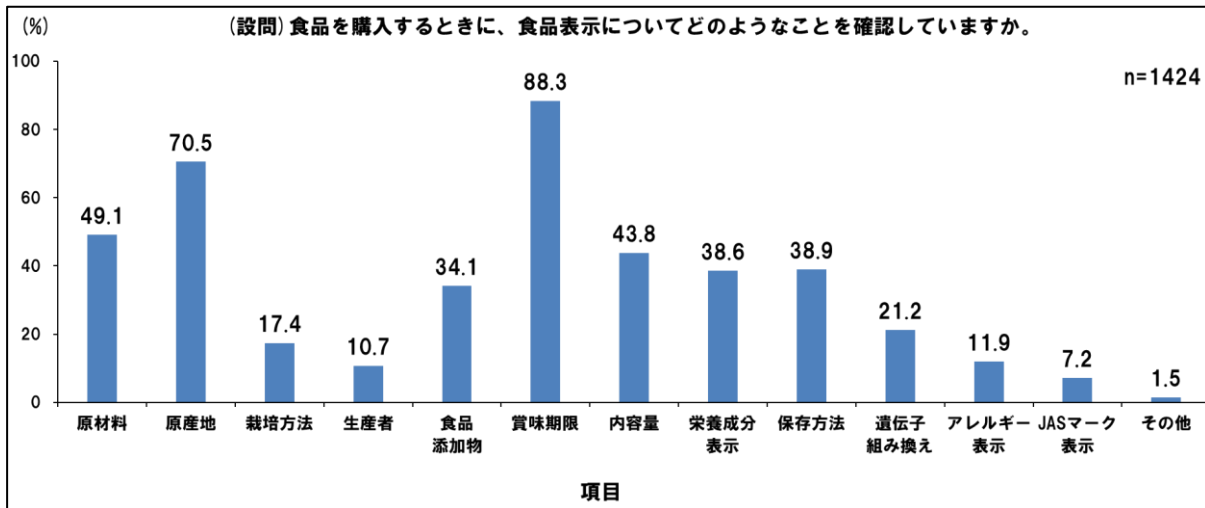
食品を購入する際に食品表示を3つ以上確認する人の割合は全年代で75.0%で、年代別では20歳代で確認する人の割合が低い傾向がみられました。項目別では、賞味期限が最も多く88.3%、次いで原産地が70.5%と高い状況でした。

図表● 食品購入の際の表示確認(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

図表● 食品購入の際の表示確認(項目別)

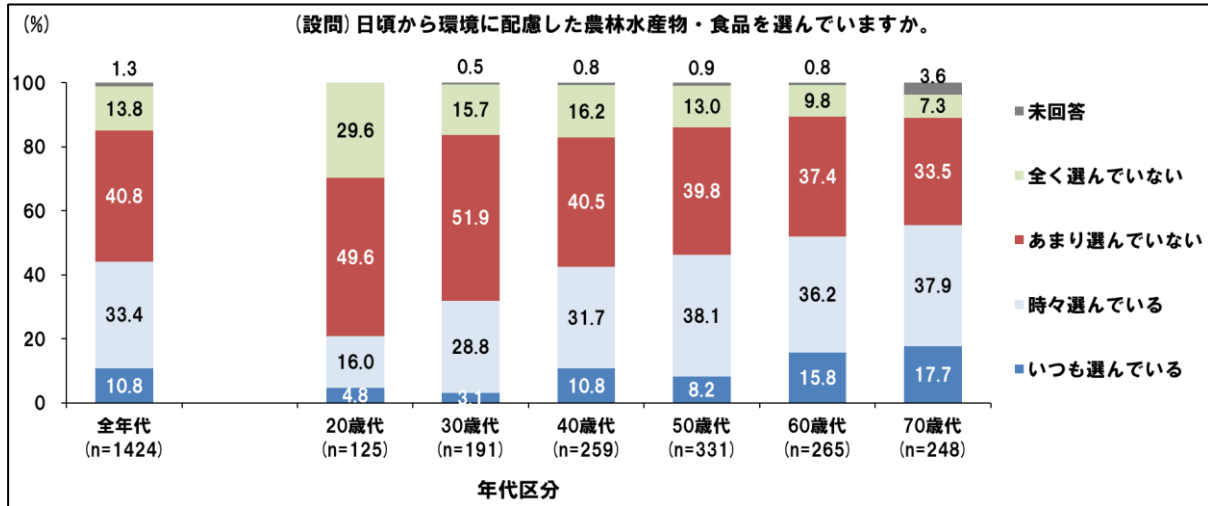


出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

<食品ロス>

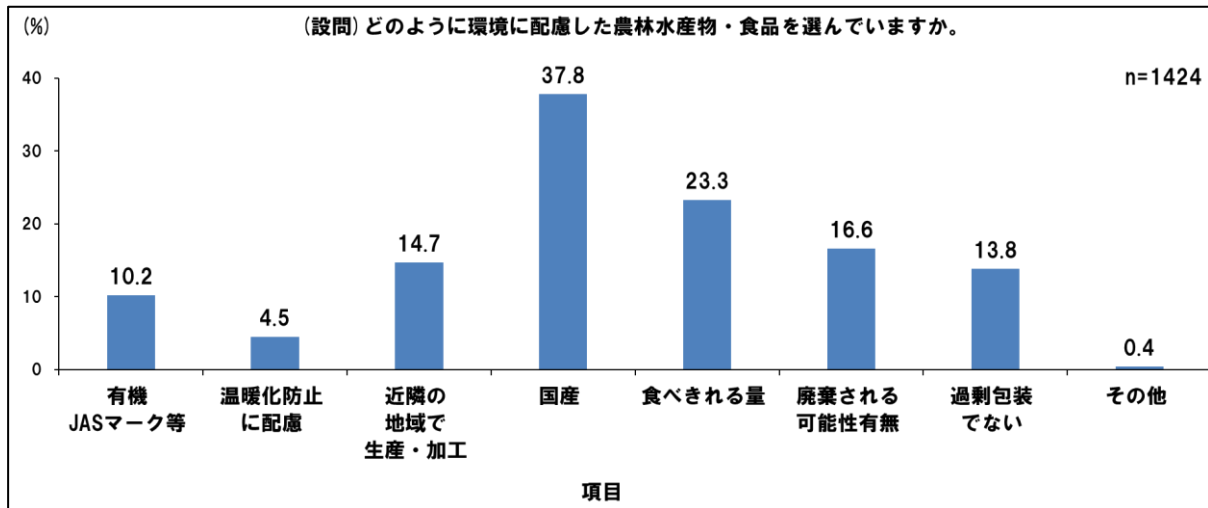
環境に配慮した食品を選んでいる人の割合は、全年代では 44.2%で、年代別では 20 歳代が最も低く、年齢があがるにつれて、選んでいる人の割合は増加していきます。項目別では「国産のもの」を選ぶ割合が 37.8%で最も高くなっています。

図表● 環境に配慮した食品等を選ぶ人の割合(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

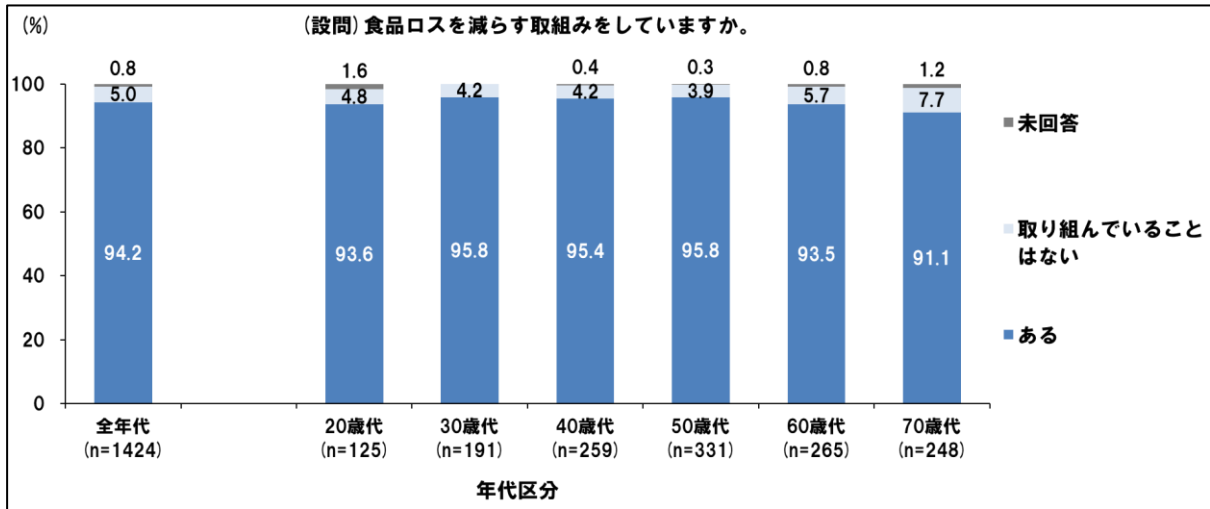
図表● 環境に配慮した食品等を選ぶ人の割合(項目別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

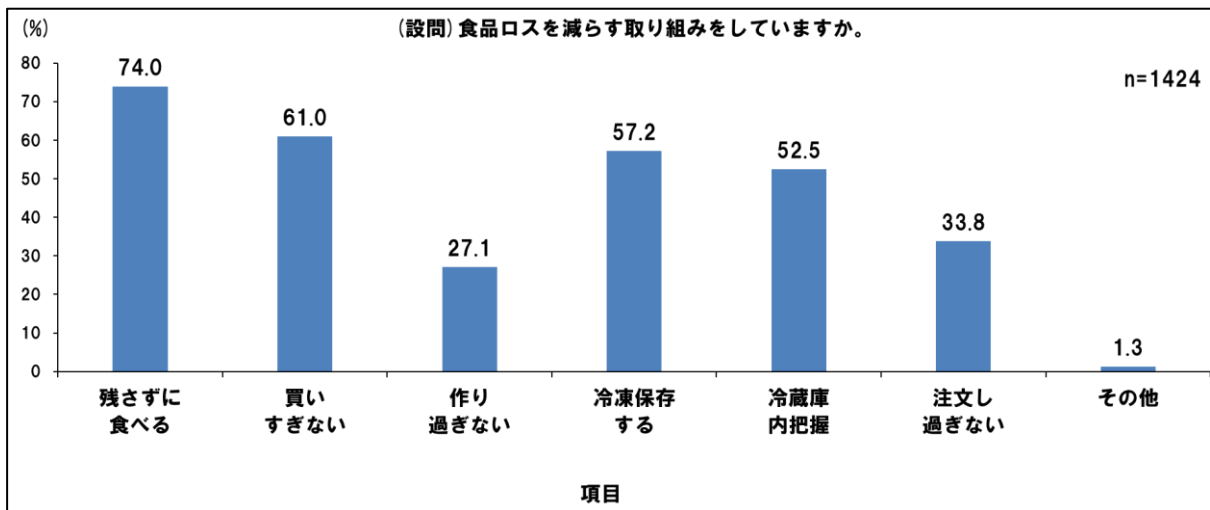
食品ロスの削減に向けた取り組みは、おおよそ9割以上の方が取り組んでいると回答しています。項目別では「残さずに食べる」が74.0%で最も高くなっています。

図表● 食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

図表● 食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合(項目別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

6) 施策の展開【第3次食育推進計画】

① 食に対する意識

課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 食育への関心は、平成29年度結果と同等の結果となっています。また、食育へ関心のない人の割合は男性が女性と比較して高くなっています。さらに、食育への関心が高いほど、良好な食行動をとっています。 ● 望ましい食行動につなげるために、食育への関心を高める必要があります。
戸田市が目指す姿
<ul style="list-style-type: none"> ● 市民の食育への関心が高いまち ● 食育への関心を通じて、望ましい食生活を行う市民が多いまち
取り組み
市民が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 食育へ関心を持ち、それを周囲の人と共有します。 ● 食育への関心を通じて、良好な食生活を家族や周囲の人と一緒に取り組みます。
地域(町会や自治会、市民活動団体、企業等)が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 関係機関と連携し、食育の大切さを伝えていきます。
市が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 食育に関心が持てるように、市民や地域に対して情報を発信します。 ● 市民や地域が食育に関する活動を推進できるよう支援します。 ● 望ましい食生活を学ぶ機会を提供します。
<p>◆主な取り組み◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健幸アンバサダー事業 ・ 各種健(検)診・乳幼児健診での普及・啓発 ・ 小・中学校及び学校給食における食育の取り組み
<p>◆主な実施事業関係所属・関連団体等◆</p> <p>福祉保健センター・協働推進課(戸田市新曹南多世代交流館さくらパル)・文化スポーツ課・福祉総務課(上戸田地域交流センターあいパル)・保険年金課・保育幼稚園課・教育政策室・学校給食課・生涯学習課(公民館)</p>
SWC 推進プランにおいて連動する主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ● 健康×口コミによる健康情報の伝達 ● 健康×イベント ● 健康×つながり

② 健康を支える「食」

課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食を毎日食べる人は、全年代で 77.1%で、20 歳代が 61.6%と最も低くなっています。朝食を毎日食べない人の割合は、20 歳代は男女ともに高く、男性は 30 歳代以降も高い状態が続きます。朝食を抜くことは、肥満や脂質異常症等の生活習慣病につながることから、朝食習慣の啓発が必要と考えられます。 ● 野菜を摂る頻度の高い人ほど、主食・主菜・副菜のそろった食事を摂っている人が多く、バランスのとれた食生活には野菜摂取を増やしていくことが必要です。 ● 肥満の人では、「ゆっくりよくかんでいない」と答えた人の割合や自分に合った食事内容や量を知らない人の割合が高く、肥満等の生活習慣病予防のために、正しい知識の周知が必要と考えられます。
戸田市が目指す姿
<ul style="list-style-type: none"> ● 正しい知識やバランスのとれた食生活を身につける市民が多いまち ● 朝食を毎日食べる市民が多いまち
取り組み
市民が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 主食・主菜・副菜をそろえることを心がけ、バランスのとれた食事を摂ります。 ● 野菜を多く食べます。 ● 朝食の重要性を理解し、朝食を毎日食べます。
地域(町会や自治会、市民活動団体、企業等)が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 関係機関と連携し、食育の大切さを伝えます。 ● 望ましい食生活を学ぶ機会を提供します。
市が取り組むこと
<p>正しい知識や情報を提供し、バランスのとれた望ましい食生活や朝食の重要性について市民や地域に啓発を行います。</p> <p>◆主な取り組み◆</p> <p>健幸アンバサダー事業【福祉保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種健（検）診、通知発送時等における情報提供 ・小中学校及び学校給食における食育の取り組み <p>◆主な実施事業関係所属・関連団体等◆</p> <p>福祉保健センター・経済戦略室・生活支援課・保険年金課・市民医療センター診療室・教育政策室・学校給食課・生涯学習課(公民館)</p>
SWC 推進プランにおいて連動する主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ● 健康×イベント

- 健康×つながり
- 健康×通いの場

◎ 心をつなぐ「食」

課題

- 朝食を家族と一緒に食べることのない人は全年代（単身世帯も含む）で 43.5%、夕食は 19.1%となっています。また、朝食や夕食を共食する頻度が多いほど、精神健康度が高い傾向にあります。そのため、家庭における共食を通じて、子どもも含めた市民の食育推進の機会を育むことが重要と考えられます。
- 伝統料理や作法を受け継いでいる人の割合は、全体で 44.2%、各年代では大きな差はありませんでした。地域や次世代に伝えている人の割合は 40 歳代を目途に高くなり、その後横ばいとなり、子育てや地域の活動を通じて、伝統料理や作法の伝承に取り組んでいると考えられます。

戸田市が目指す姿

- 家族と朝食や夕食を一緒にとり、会話や望ましい食習慣につながる市民が多いまち
- 伝統料理や作法を受け継ぎ、それを地域や次世代に伝える、食文化を大切にしている市民が多いまち

取り組み

市民が取り組むこと

- 家族と一緒に食事をする機会を増やします。
- 子どもたちが食に関して体験する機会を作ります。
- 地域や家庭で受け継がれてきた伝統料理や作法を受け継ぎ、それを地域や次世代に伝えていきます。

地域（町会や自治会、市民活動団体、企業等）が取り組むこと

- 地域の中で、世代を超えて共食ができる機会をつくれます。
- 関係機関と連携し、食育の大切さを伝えます。
- 地域や家庭で受け継がれてきた伝統料理や作法を学ぶ機会をつくれます。
- 食事の作法等の意識啓発を行います。
- 食に関して体験する機会を作ります。

市が取り組むこと

- 世代を超えて共食ができる機会を支援します。
- 食事の作法等の意識啓発を行います。
- 伝統料理を学ぶ機会がつけられるよう支援します。
- 食に関して体験できるよう支援します。

◆主な取り組み◆

- ・健幸アンバサダー事業

- ・ 各種健(検)診、各種健康教室・イベント等での普及・啓発
- ・ 小・中学校及び学校給食における食育の取り組み

◆主な実施事業関係所属・関連団体等◆

福祉保健センター・経済戦略室・保育幼稚園課・教育政策室・学校給食課・生涯学習課(公民館)

SWC 推進プランにおいて連動する主な取り組み

- 健康×イベント
- 健康×まちなかウォークブルの推進
- 健康×多世代の交流

④ 循環する「食」

課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 全体で7割が地産地消の言葉も意味も知っていると回答しています。埼玉県は野菜の生産が盛んであり、地産地消の言葉や意味の周知と共に、埼玉県産食材の周知や活用をしていく必要があります。 ● 環境に配慮した食品を選んでいる人の割合は、全年代では44.2%で、年代別では20歳代が最も低く、年齢が上がるにつれて選んでいる人の割合は増加していきます。特に若年世代に向けて、食と環境に関わる啓発を進めていく必要があります。 ● 食品購入の際に食品表示を3つ以上確認している人は75.0%で、20歳代では確認する人の割合が低い傾向があります。健全な食生活を送るためには、食品表示の確認や安全な食品の選び方、食中毒予防等の正しい情報と適切な判断力が必要です。 ● 食品ロスの削減に向けて、9割以上の人に取り組んでいると回答しており、多くの人が生ごみを出さない工夫を行っています。食品全体の廃棄量を減らすことに目を向けた食品ロスの現状や取り組みの周知が必要です。
戸田市が目指す姿
<ul style="list-style-type: none"> ● 環境に配慮した食品を選び、食と環境への意識が高い市民が多いまち ● 食品ロスの削減に向けた取り組みを行う市民が多いまち
取り組み
市民が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 埼玉県産や国産、旬の食材を意識して食べます。 ● 環境に配慮した食品を選びます。 ● 食の安全に関する知識を持ち、食品表示を意識します。 ● 食べられる食品を廃棄しない工夫をします。 ● 生産から消費、廃棄までの食の循環を意識します。
地域(町会や自治会、市民活動団体、企業等)が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 食べられる食品を廃棄しない工夫をし、食品ロスの削減を意識します。 ● 関係機関と連携し、食育の大切さを伝えます
市が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 地産地消に関する情報を提供します。 ● 食の安全に関する啓発をします。 ● 環境に配慮した食品を選ぶ市民や地域を支援していきます。 ● 食品ロスに関する普及啓発を行います。
<p>◆主な取り組み◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健幸アンバサダー事業 ・各種健(検)診、各種健康教室・イベント等での普及・啓発 ・小・中学校及び学校給食における食育の取り組み

◆主な実施事業関係所属・関連団体等◆

福祉保健センター・くらし安心課・環境課・教育政策室・学校給食課

SWC 推進プランにおいて連動する主な取り組み

- 健康×口コミによる健康情報の伝達
- 健康×イベント
- 健康×つながり
- 健康×生涯学習

7) 目標値と評価

国や県の基本的な方向、これまでの取り組み、前計画の評価と現状分析をふまえて、以下の通り目標値を設定しています。

分野	指標	指標内訳	単位	対象	現状値	目標値
食に対する意識	食育に関心を持っている人の増加		%	全体	66.4	90.0
	健康を支える「食」	朝食を毎日食べない人の減少		%	全体	22.6
1日のうち、主食・主菜・副菜のそろった食事を1回以上とっている人の割合		%	全体	54.6	70.0	
副菜(野菜料理)を毎日食べている人の割合		%	全体	51.5	70.0	
ゆっくりよく噛んで食べる人の増加		%	全体	44.0	55.0	
心をつなぐ「食」	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の増加	週のうち朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	回/週	全体	6.5	9.5
	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている人の割合の増加		%	全体	26.3	40.0
	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代の割合		%	20歳代及び30歳代	43.7	50.0
循環する「食」	環境に配慮した食品等を選ぶ人の増加	「いつも選んでいる」「時々選んでいる」と回答した人の割合	%	全体	44.2	50.0
	食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合	「取り組んでいない」以外の項目を回答した人の割合	%	全体	94.2	95.0

※現状値 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

3 歯科口腔保健の推進【歯科口腔保健推進計画】

戸田市では、平成 26 年に「戸田市歯科口腔保健の推進に関する条例」を策定し、市民の口腔の健康を守る取り組みを進めています。

口腔の健康や機能の維持は、糖尿病や心疾患、脳血管疾患や、認知症との関連性が指摘され、健康寿命の延伸に大きくつながります。また、口腔の健康が、健康で質の高い生活を営む上で重要な役割を果たしていることを踏まえ、本市では条例で、歯科口腔保健推進の基本理念を下記のとおり定めています。

（基本理念）

- 市民が生涯にわたり、日常生活において歯科疾患の予防に向けた取り組みを行うとともに、歯科疾患を早期に発見し、早期に治療を受けることを促進すること。
- 妊娠期及び乳幼児期から高齢期までのそれぞれの時期における口腔とその機能の状態及び歯科疾患の特性に応じて、歯科口腔保健を推進すること。
- 保健、医療、社会福祉、労働衛生、教育その他の関連分野における施策の連携を図り、総合的に歯科口腔保健を推進すること。

この基本理念に基づき、歯科口腔保健に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、市民の生涯にわたる健康の保持及び増進に取り組んでいきます。

口腔は健康で質の高い生活を営む上で重要な役割を果たしていることから、口腔の健康は SWC 推進プランの達成に向けて必要不可欠なものとなります。

そのため、これまでの取り組みを継承しながら、併せて SWC 推進プランに位置付けられたまちづくり分野との連携可能な施策を検討しながら、歯科口腔保健の推進を進めていきます。

また、歯科口腔保健推進計画においても健康増進計画と同様に、国や県の基本的な方向、これまでの取り組み、前計画の評価と現状分析に基づき、計画の策定を行います。

1) 国及び県の基本的な方向

(ア) 国の基本的な方向(歯科口腔の健康づくりプラン)

国は、「歯・口腔の健康づくりプラン説明資料」において、基本的な方針を以下の通り示しています。

歯科口腔保健の推進のための、5つの基本的な方向の詳細は、以下のとおりである。

第1節 歯・口腔に関する健康格差の縮小

第2節 歯科疾患の予防

第3節 口腔機能の獲得・維持・向上

第4節 定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健

第5節 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備

出典「令和5年 歯・口腔の健康づくりプラン説明資料(厚生労働省)」

(イ) 県の基本的な方向(歯科口腔保健推進計画)

県は「歯科口腔保健推進計画 第8次計画策定調書」において、以下の通り基本理念を示しています。

基本理念

次の3項目を基本理念として掲げ、これを実現するための施策を展開し、最終目標として「歯・口腔に関する健康格差の縮小」を目指します。

- ・生涯にわたる歯科疾患の予防や口腔機能の獲得・維持・向上に向けた取り組みの推進
- ・ライフステージに応じた適切な取り組みとライフコースアプローチに基づく歯科口腔保健施策の展開
- ・関連分野における施策との連携、関係者の協力による社会全体で支え合う環境の整備

出典「歯科口腔保健推進計画 第8次計画策定調書(埼玉県)」

2) 戸田市のこれまでの取り組み

分野	指標	指標に対するこれまでの取り組み
歯と口の健康	むし歯のない子どもの割合	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期から親子で歯科保健の取り組みを実践できるよう支援しました。乳幼児健診で、専門職による相談を実施してきました。 ・むし歯予防を目的として、1歳8か月児健診と2歳6か月児歯科健診で、フッ化物塗布、歯みがき指導及び健康相談を行いました。
	自分の歯を20本以上持っている人の割合	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科保健(依頼講座)において、小・中学校で歯みがき指導を行いました。 ・歯周病予防対策の推進として、成人歯科健診で、歯周病や歯の喪失予防を啓発し、コロナ禍においても感染症対策を行いながら例年通り実施しました。
	咀嚼良好者(何でもかんで食べることができる人)の割合	<ul style="list-style-type: none"> ・歯と口の健康づくりについて、関係機関と連携して啓発しました。 ・骨こつ教室等の健康教育事業で歯周病と全身疾患について啓発を行いました。 ・いきさわやか相談で、口臭というテーマでポイントを絞り、歯周病予防の動機付けにつなげる歯科相談を行いました。
	過去1年間に歯科健診を受診した人の割合	<ul style="list-style-type: none"> ・TODA 元気体操等でオーラルフレイル予防について啓発を行いました。

3) 前計画の評価

前計画で設定した4指標のうち、目標値を達成したのは3項目、目標に達しなかったものは1項目でした。

(目標値を達成した項目は◎、目標値は達成していないが改善した項目は○、目標に達しなかったものは×)

分野	指標	対象	単位	参考値 (平成 29 年度)	目標値 (令和 5 年度)	結果 (令和 4 年度)	評価
歯と口の健康	むし歯のない子どもの割合※	3 歳児	%	87.4	90.0	91.3	◎
	自分の歯を 20 本以上持っている人の割合	50 歳代	%	89.2	92.0	93.1	◎
	咀嚼良好者(何でもかんで食べることができる人)の割合	60 歳代	%	68.8	72.0	73.2	◎
	過去 1 年間に歯科健診を受診した人の割合	全体	%	40.9	45.0	40.5	×

出典 ※戸田市福祉保健センター年報(令和4年度)

その他結果:戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

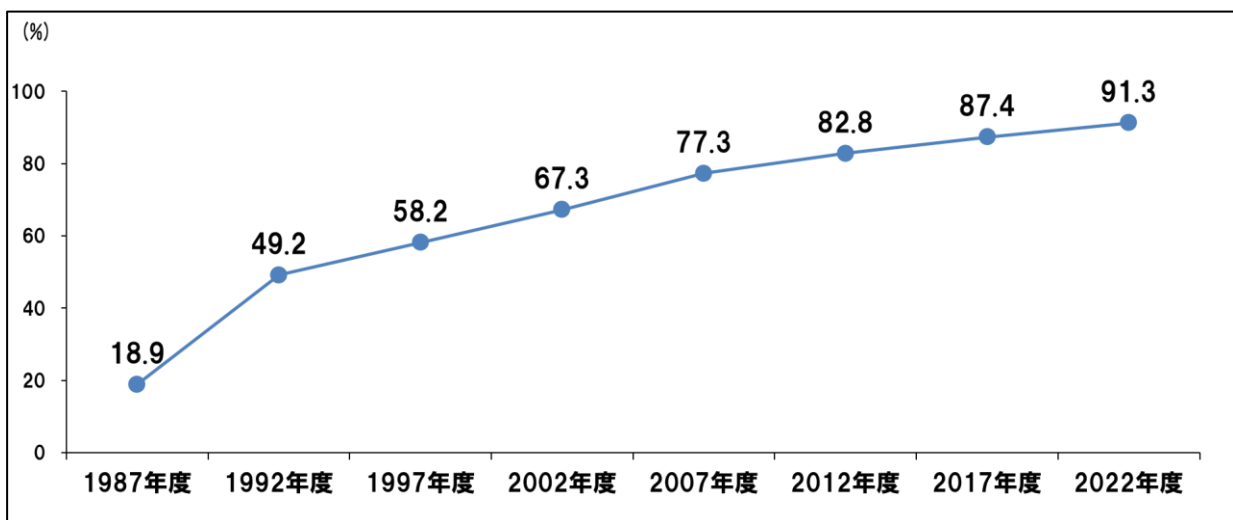
4) 現状分析の概要

(ア) むし歯のない子ども

3歳児のむし歯のない子どもの割合は1987年から2022年の35年間で72.4ポイント増加しており、91.3%の子どもはむし歯がない状況です。一方、むし歯がある1割程度の子どもは、むし歯の本数が多い傾向がみられ、半数以上の歯がむし歯の子どもも数名ですがいる状況です。

むし歯のない子どもの割合の増加 対象 3歳児
(令和4年度年報より) 91.3%

図表● むし歯のない子ども(3歳児)の割合の経年変化



出典 戸田市立健康管理センター年報 14, 19, 24号(昭和63年度、平成4、9年度)
戸田市立医療保健センター年報 29, 34号(平成14, 19年度)
戸田市福祉保健センター年報 2, 7, 12号(平成24, 29年度、令和4年度)

図表● むし歯の本数別人数

	むし歯のない子ども	むし歯のある子ども										
		1本	2本	3本	4本	5本	6本	7本	8本	10本	11本	13本
人数(人)	1114	29	40	8	11	6	4	1	3	1	2	1

出典 戸田市福祉保健センター年報(令和4年度)

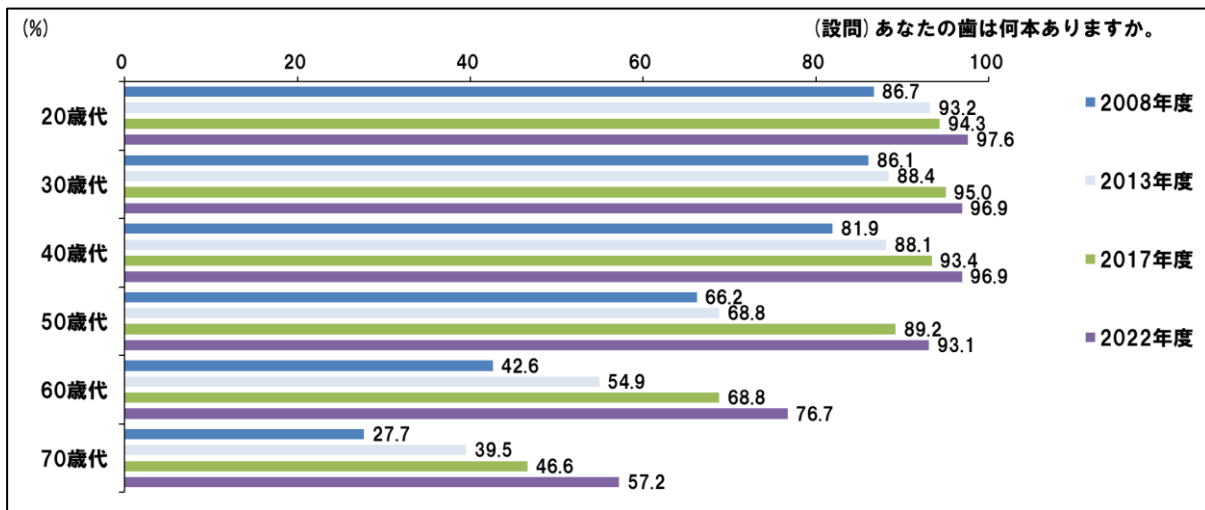
(イ) 自分の歯を 20 本以上持つ人の割合

自分の歯を 20 本以上持つ人の割合は 2008 年度から 2022 年度で、各年代で増加しており、特に 60 歳代は 42.6% (2008) から 76.7% (2022)、70 歳代は 27.7% (2008) から 57.2% (2022) と、高齢者において割合の増加が著しく、歯科口腔保健の普及状況を確認することができます。現在、自分の歯が 19 本以下の人の割合は 60 歳代で 15.8%、70 歳代で 33.5%となっています。

一方で、歯肉の炎症がみられる割合は、30 歳代で 37.2%と最も高くなっています。

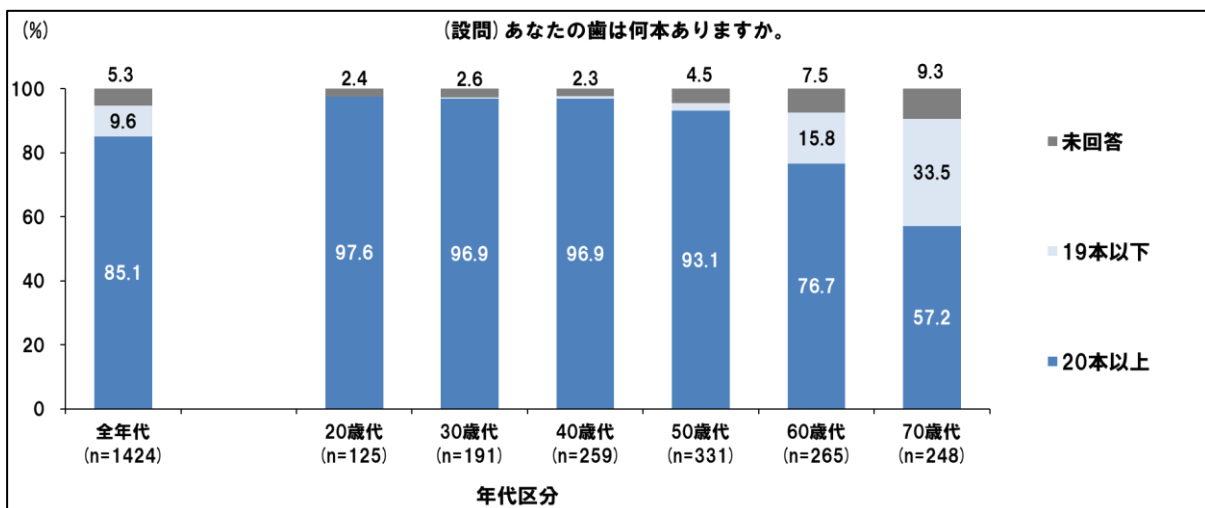
歯周ポケットが 4 ミリ以上と判定された人の割合は歯肉の炎症症状と同様に 30 歳代が、40 歳代よりも高くなっています。

図表● 20 本以上の歯を持つ人の割合の変化



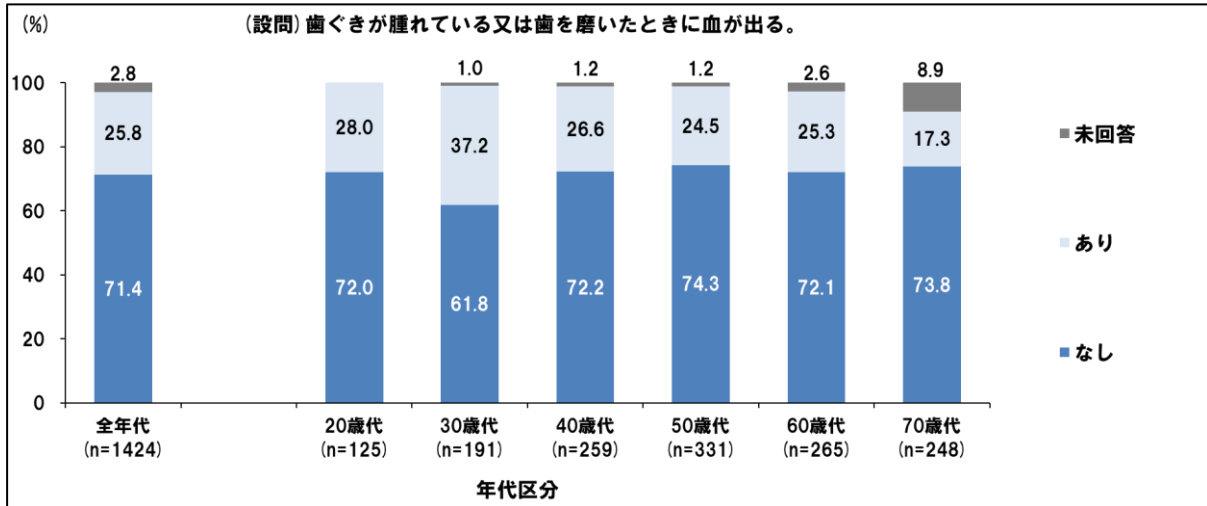
出典 各対象年度の戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査

図表● 自分の歯が 20 本以上の人の割合 (年代別)



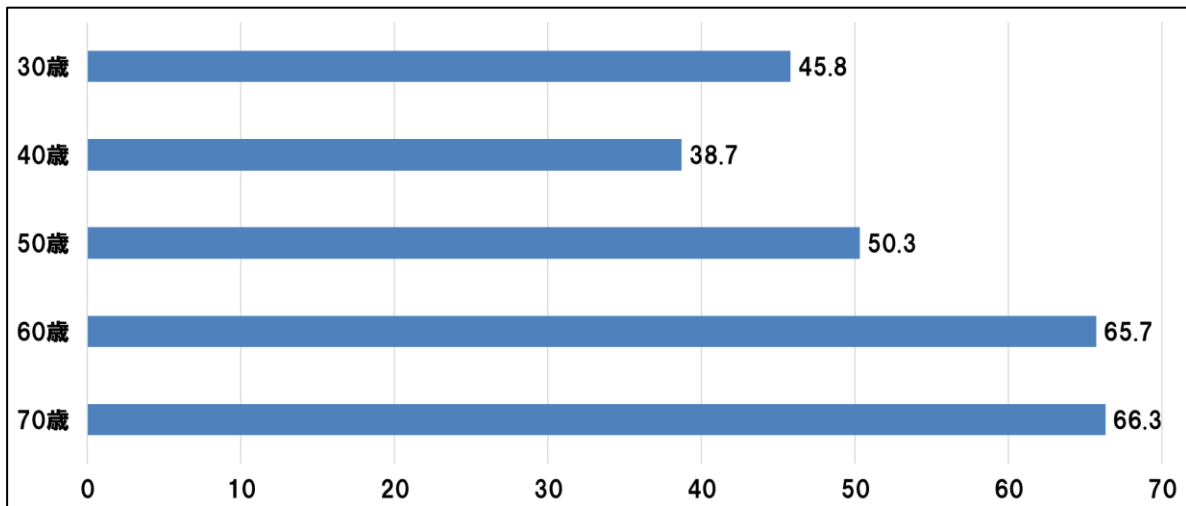
出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査 (令和 4 年度)

図表● 歯肉の炎症所見がある人の割合(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

図表● 歯周病の人の割合(年代別)



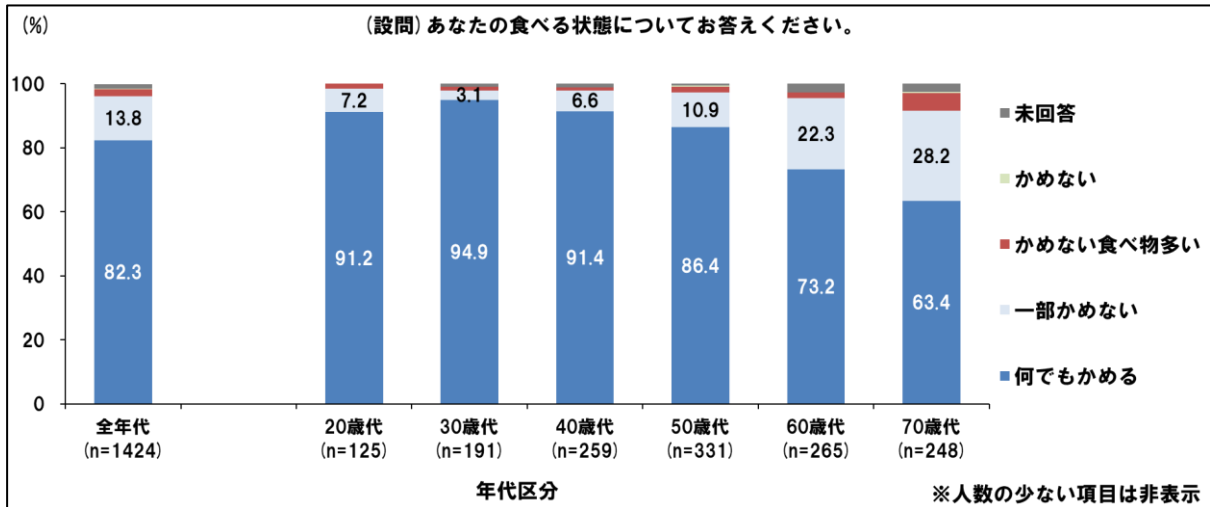
出典 戸田市福祉保健センター年報(令和4年度)

※歯周病の人とは歯周ポケットが4ミリ以上と判定された人

(ウ) 何でもかんで食べることができる人の割合（咀嚼良好者）

何でもかんで食べることができる人の割合は50歳代から減少し始めています。

図表● 何でもかんで食べることができる人の割合（年代別）

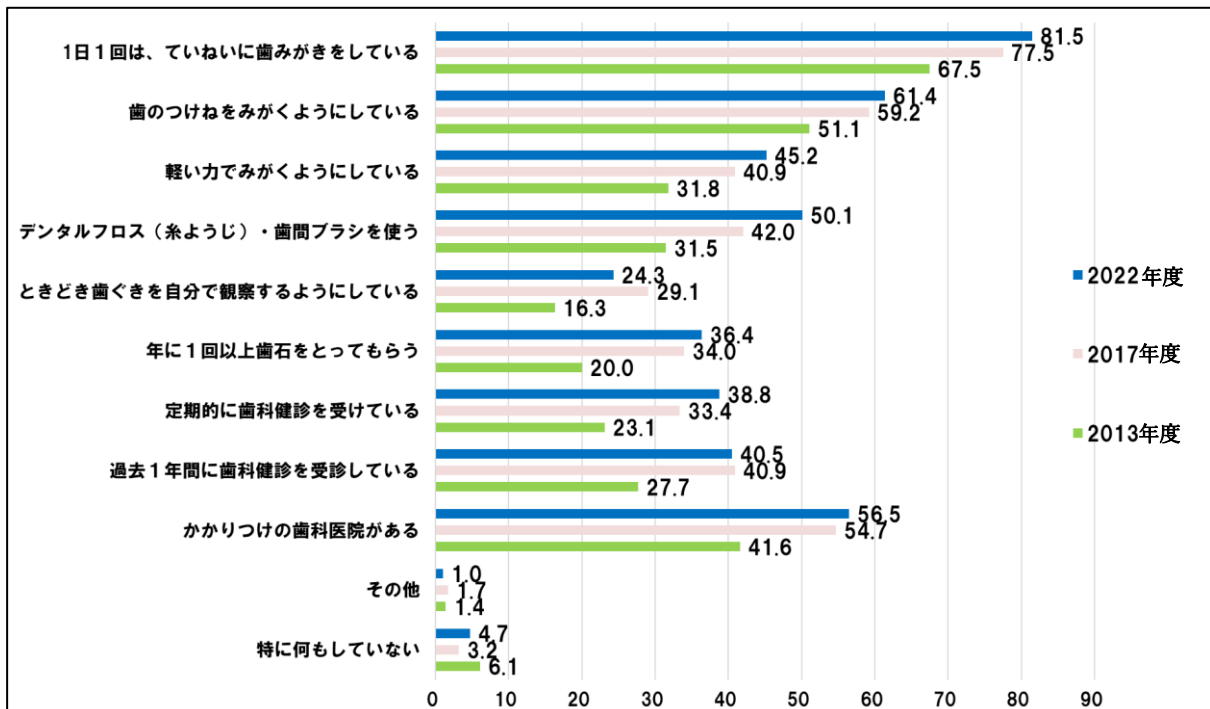


出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

(エ) 歯や歯ぐきの健康のためにしていること

歯や歯ぐきの健康のためにしていることは、ほぼすべての項目で、平成29（2017）年度より増加し、予防行動をとる人が増加していました。

図表● 歯や歯ぐきの健康のためにしていること

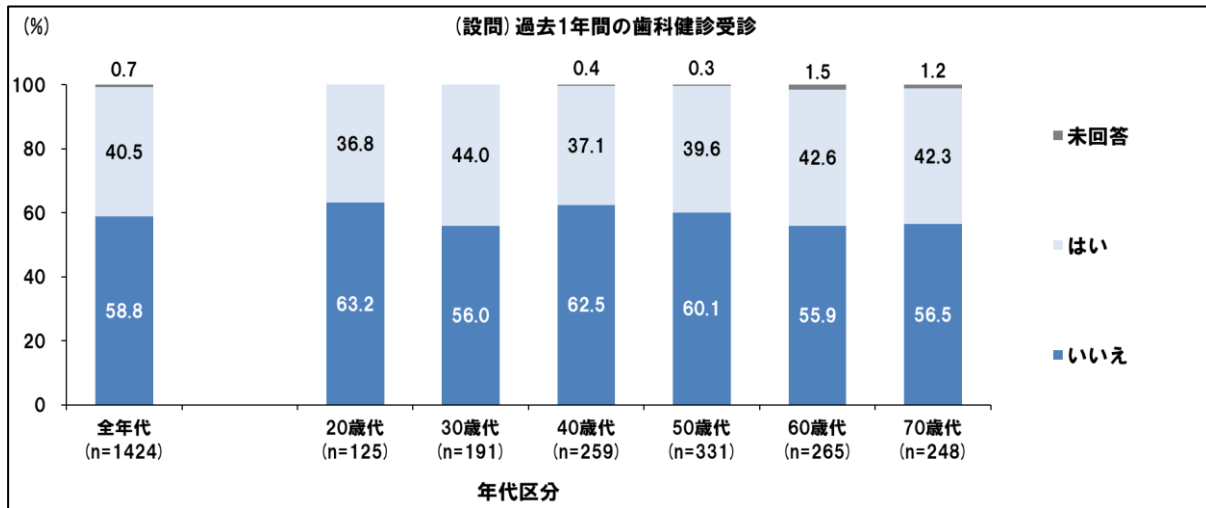


出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

(オ) 歯科健診の受診者の割合

過去1年間で歯科健診を受診している人の割合は40.5%で58.8%は受診していませんでした。表にはありませんが、埼玉県2022年現状値54.4%と比較すると、戸田市は歯科健診の受診が低い状況です。

図表● 過去1年間に歯科健診を受診している人の割合(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

5) 施策の展開【歯科口腔保健推進計画】

課題
<ul style="list-style-type: none"> ● むし歯のない子どもの割合は 1987 年から 2022 年の 35 年間で 72.4 ポイント増加しており、91.3%の子どもはむし歯がない状況です。一方、むし歯がある 1 割程度の子どもは、むし歯の本数が多い傾向がみられています。そのため、子どもに向けた歯科口腔保健対策を継続するとともに、歯の健康格差を防ぐため、むし歯がある子ども及びその保護者へ情報を届けるための仕組みを検討していく必要があります。 ● 自分の歯が 19 本以下の人の割合は 60 歳代で 15.8%、70 歳代で 33.5%となっており、今後高齢者における歯の本数の維持が目標の一つとして考えられます。 ● 一方で、歯肉に炎症所見がみられる割合は、30 歳代で 37.2%と最も高く、また、歯周病についても 30 歳代が高くなっていることから、この年代以前の歯・口腔環境の改善が、高齢期の歯の本数の維持につながると考えられます。 ● 何でもかんで食べることができる人の割合は 50 歳代から減少し始めており、高齢期における低栄養のリスクに関連しているため、歯の本数と口腔機能の維持が重要です。 ● 歯や歯ぐきの健康のための予防行動をとる人の割合は増加していますが、過去 1 年間で歯科健診を受診したのは 40.5%で、58.8%は受診していません。歯科健診を受け自分の口腔内を知り、かかりつけ医とともに歯科疾患の予防に取り組むことが大切なため、歯の健康に関心の低い人に情報を届けるための仕組みが必要です。
戸田市が目指す姿
<ul style="list-style-type: none"> ● むし歯のない子どもを増やし、健やかに成長することができるまち ● 歯周病やむし歯を予防し、歯の喪失が減少するまち ● 何でもかんで食べられ、生活の質が向上するまち ● 生活習慣予防の観点から健全な歯と口腔機能が維持向上するまち
取り組み
市民が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● かかりつけ歯科医を持ち、定期的な歯科健診を心がけます。 ● 歯みがきや歯間清掃の習慣を身につけます。
地域(町会や自治会、市民活動団体、企業等)が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 歯と口の健康について学ぶ機会を提供します。 ● 定期的な歯科健診の受診を勧奨します。
市が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● むし歯予防対策を推進し、歯科保健の取り組みを実践できるよう支援します。 ● 歯周病予防について情報発信と啓発を行います。 ● 通いの場でオーラルフレイル予防について啓発を行い口腔機能の維持増進をすすめます。

- 歯と口の健康づくりについて、関係機関と連携して啓発します。

◆主な取り組み◆

- ・ 歯科健診
- ・ 各種健(検)診、各種健康教室・イベント等での普及・啓発【福祉保健センター】

◆主な実施事業関係所属・関連団体等◆

福祉保健センター・健康長寿課・保険年金課・保育幼稚園課・学務課

SWC 推進プランにおいて連動する主な取り組み

- 健康×口コミによる健康情報の伝達
- 健康×イベント
- 健康×つながり
- 健康×通いの場

6) 目標値と評価

国や県の基本的な方向、これまでの取り組み、前計画の評価と現状分析をふまえて、以下の通り目標値を設定しています。

分野	指標	指標内訳	単位	対象	現状値	目標値
歯と口の健康	乳幼児・学齢期のむし歯のない人の増加	3歳児でむし歯がない児の割合	%	3歳児	91.3 ※1	95.0
		12歳児でむし歯がない児の割合	%	12歳児	76.5 ※2	85.0
	自分の歯を20本以上持っている人の増加	40歳以上における自分の歯が20本以上の人の割合	%	40歳以上	82.0	86.0
	咀嚼良好者（何でもかんで食べることができる人）の増加	「何でもかんで食べることができる」と回答した人の割合	%	60歳代	73.2	80.0
	歯科健診の受診者の増加	過去1年間に歯科健診を受診した人の割合	%	全員	40.5	45.0

※1 戸田市福祉保健センター年報（令和4年度）

※2 令和4年度 学校歯科健診

その他 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

4 自殺対策の推進【自殺対策計画】

自殺対策計画においても健康増進計画と同様に、国や県の基本的な方向、これまでの取り組み、前計画の評価と現状分析に基づき、計画の策定を行います。

自殺対策計画では、自殺のリスクを持つ人への支援を進めるとともに、その前段階である自殺のリスク要因を防ぐ取り組みを進めていきます。これは、自殺対策計画のみならず、まちづくりや健康、食育、歯科口腔、がん対策等、関連又は一体的に推進する計画の中で、こころの健康状態の改善につながる取り組みを広く普及させることを意図しています。

1) 国及び県の基本的な方向

(ア) 国の基本的な方向(地域自殺対策計画策定・見直しの手引き)

国は、「『地域自殺対策計画』策定・見直しの手引き」において、基本方針を以下の通り示しています。

令和4年10月に閣議決定された自殺総合対策大綱では、自殺総合対策の基本方針として、以下の点が掲げられています。

- 1) 生きることの包括的な支援として推進
- 2) 関連施策との有機的な連携による総合的な対策の展開
- 3) 対応の段階に応じたレベルごとの対策の効果的な連動
- 4) 実践と啓発を両輪として推進
- 5) 関係者の役割の明確化と関係者による連携・協働の推進
- 6) 自殺者等の名誉及び生活の平穏への配慮

国、地方公共団体、民間団体等の自殺対策に関わる者は、自殺者及び自殺未遂者並びにそれらの者の親族等の名誉及び生活の平穏に十分配慮し、不当に侵害することのないよう、このことを認識して自殺対策に取り組む必要があります。

出典「令和5年6月 『地域自殺対策計画』策定・見直しの手引き(厚生労働省)」

(イ) 県の基本的な方向

県は、「『地域自殺対策計画』策定・見直しの手引き」において、基本方針を以下の通り示しています。

本県における自殺の現状及び共通認識、取り組主体ごとの役割を踏まえ、次の考え方にに基づき自殺対策に取り組めます。

- a 生きることの包括的な支援として推進します
- b 関連施策との有機的な連携を強化して総合的に取り組めます
- c 対応の段階に応じてレベルごとの対策を効果的に連動させます

出典「埼玉県自殺対策計画(第3次)素案(埼玉県)」

2) 戸田市のこれまでの取り組み

分野	指標	指標に対するこれまでの取り組み
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">休養とこころの健康</p>	<p>戸田市の自殺死亡率 (人口 10 万人あたり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携を図り、こころの健康づくりや自殺の問題について知識の普及を行いました。こころの健康講演会を開催し、市民のこころの健康づくりを進めてきましたが、新型コロナウイルス感染拡大時は中止となったため、普及啓発のチラシを作成し、町会・自治会へ回覧しました。
	<p>こころの相談窓口を 1 つ以上知っている人の 割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携を図り、相談窓口の周知と相談支援の充実を図りました。こころの健康相談を開設し、こころの健康の不安を抱える本人や、その家族からの相談に対応しました。
	<p>睡眠による休養が「十 分とれている」「おおむ ね取れている」と感じ ている人の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺対策事業として、9 月の自殺対策月間と、3 月の自殺対策月間に、公共施設にポスターの掲示、相談窓口周知カードの設置を実施しました。合わせて関連図書の展示を行っています。
	<p>こころの健康状態が 「健康だと思う」「おお むね健康だと思う」と 感じている人の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートキーパーの役割について周知を行いました。市民の自殺予防を目的として、教職員・市職員向けにゲートキーパー研修を行いました。 ・休養と睡眠の大切さについて周知を行いました。

3) 前計画の評価

前計画で設定した4指標のうち、目標値を達成したのは1項目、目標値は達成していないが改善したものは0項目、目標に達しなかったものは3項目でした。

(目標値を達成した項目は◎、目標値は達成していないが改善した項目は○、目標に達しなかったものは×)

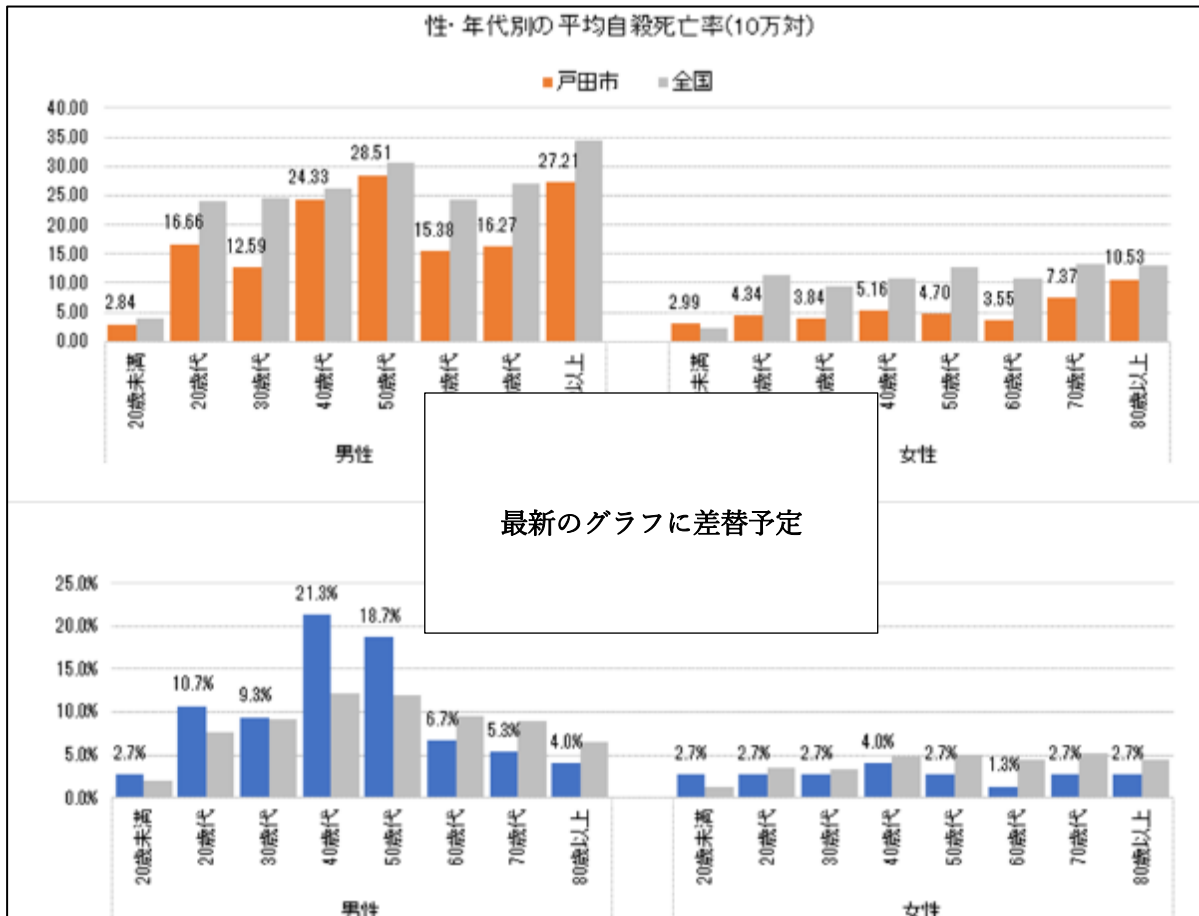
分野	指標	対象	参考値 (平成29年度)	目標値 (令和5年度)	結果 (令和4年度)	評価
休養とこころの健康	戸田市の自殺死亡率(人口10万人あたり)	全体	11.1	9.0	11.3	×
	こころの相談窓口を1つ以上知っている人の割合	全体	31.1	45.0	40.6	○
	睡眠による休養が「十分とれている」「おおむね取れている」と感じている人の割合	全体	67.5	80.0	66.7	×
	こころの健康状態が「健康だと思う」「おおむね健康だと思う」と感じている人の割合	全体	78.2	80.0	77.1	×

結果：令和4年度「戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査」

4) 現状分析の概要

(ア) 戸田市の自殺死亡率

戸田市の性・年代別の平均自殺死亡率は、全国と比較してどの性・年代においても低い状況です。一方で市の性・年代別の自殺者割合では、男性の40歳代及び50歳代の割合が、全国と比較して多い状況となっています。その要因として職場の配置転換や人間関係、失業、過労等が要因として上げられており、職域でのこころの健康状態のケアとともに、職域を離れた際の、地域でのこころの健康状態のケアを進めていく必要があります。

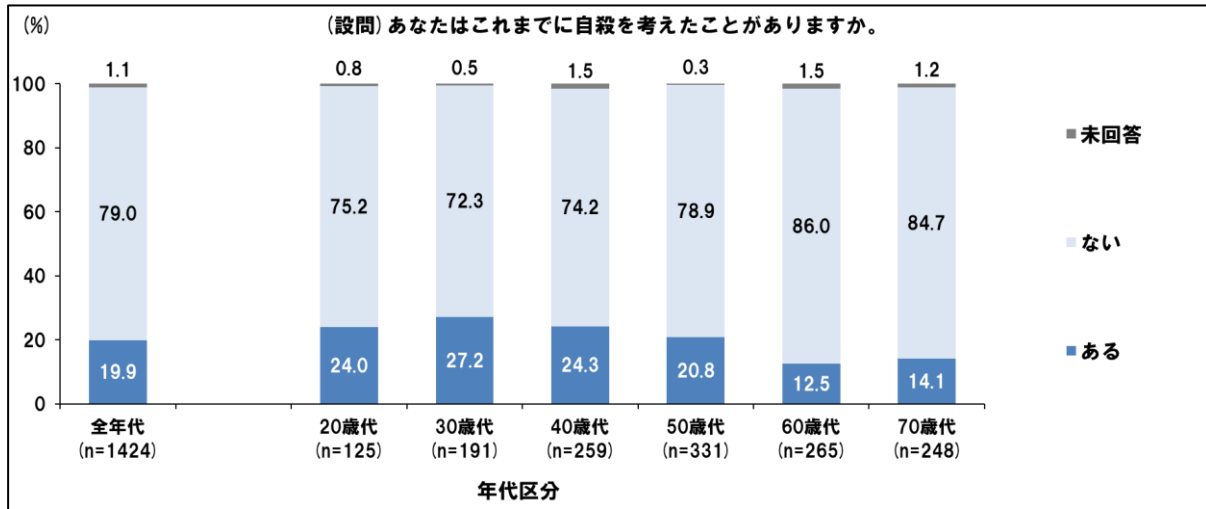


出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」及び厚生労働省「人口動態調査」保管統計表 都道府県編

性・年代別（2017～2021年）<地域における自殺の基礎資料（自殺日・住居地）>

自殺を考えたことがある人の割合は、全年代で 19.9%、年代別では 60 歳代、70 歳代が比較的低く、それ以外の年代が高くなっています。

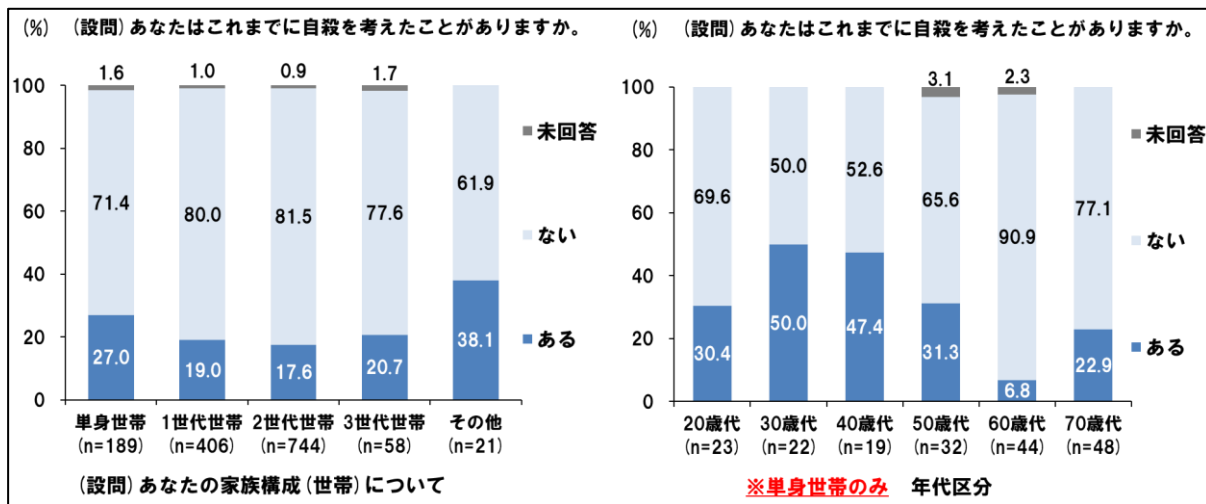
図表● 自殺を考えたことのある人の割合(年代別)



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

世帯構成別では単身世帯が比較的高く、単身世帯の 30~40 歳代は、人数は少ないものの、約半数が自殺を考えたことがあると回答しています。そのため、単身世帯に対する支援を検討していく必要があると考えられます。

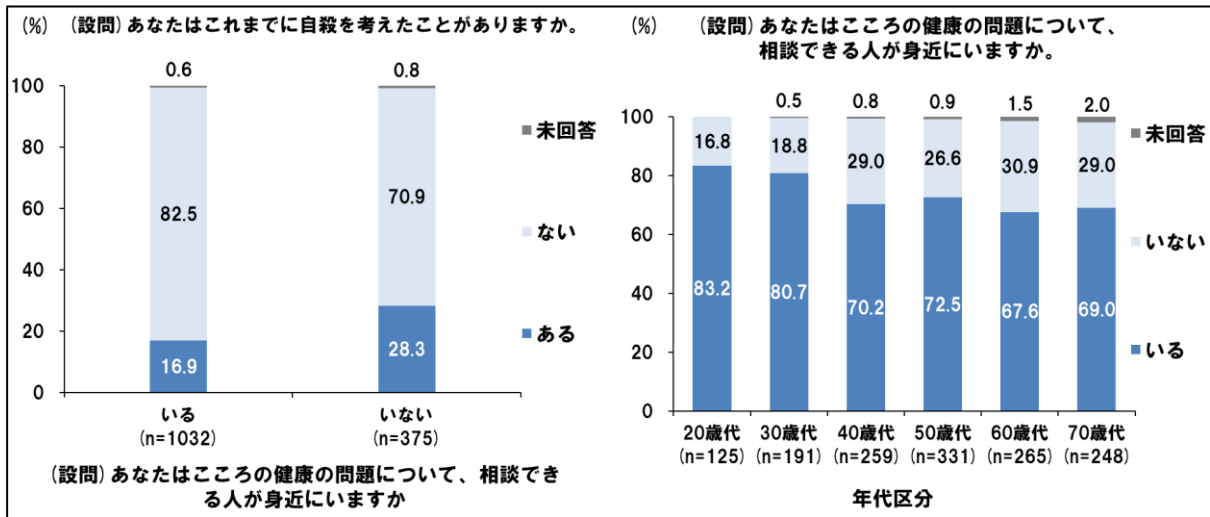
図表● 世帯構成別の自殺に関する意識



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査(令和4年度)

相談できる人が身近にいる人は、そうでない人と比較して、自殺を考えたことがある割合が少なくなっています。年代別では、40歳代以降で相談できる人が、40歳未満と比較して少ない状況です。そのため地域の中で、こころの問題について、相談できる人の活動を支援していくことが重要です。

図表● 相談できる人と自殺に対する意識

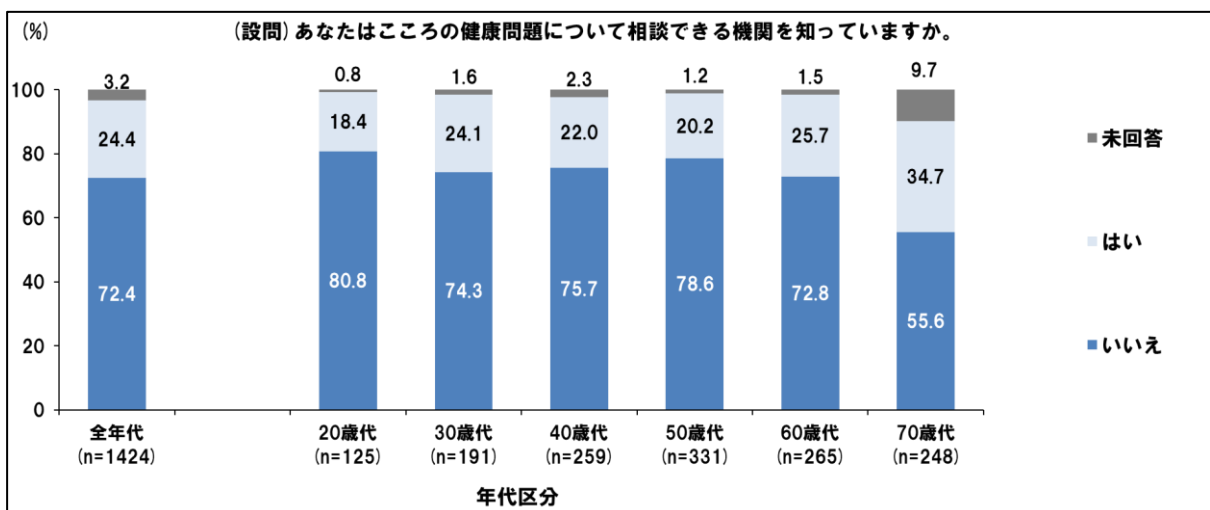


出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

(イ) こころの相談窓口（年代別）

相談機関の一つである福祉保健センターの認知度は24.4%で、72.4%の人には認知されていない状況となっています。これは地理的な環境も影響すると考えられ、相談機関に加えて、より身近な地域で相談できる環境整備が重要です。

図表● 福祉保健センターの認知度

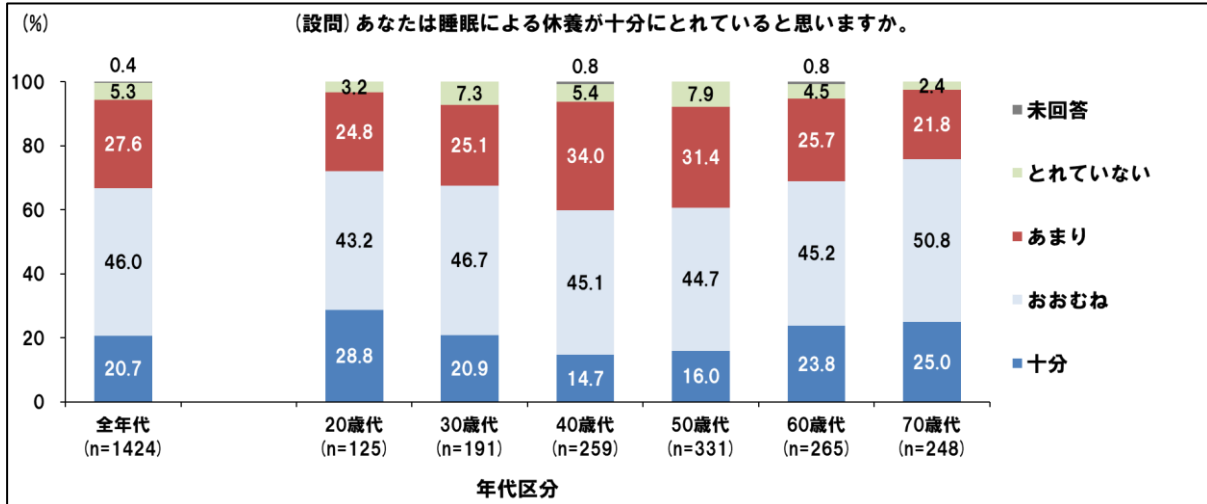


出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

(ウ) 睡眠

睡眠で休養がとれている人の割合は、特に 40～50 歳代の働き世代が、他の年代と比較して睡眠がとれていない傾向がみられています。

図表● 睡眠で休養がとれている人の割合

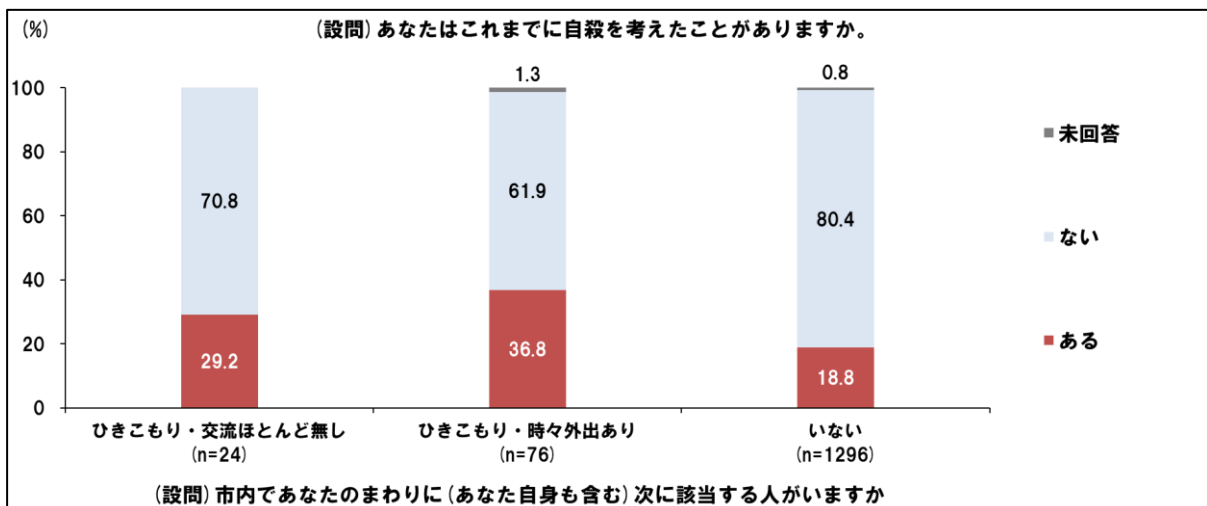


出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和 4 年度）

(エ) こころの健康状態

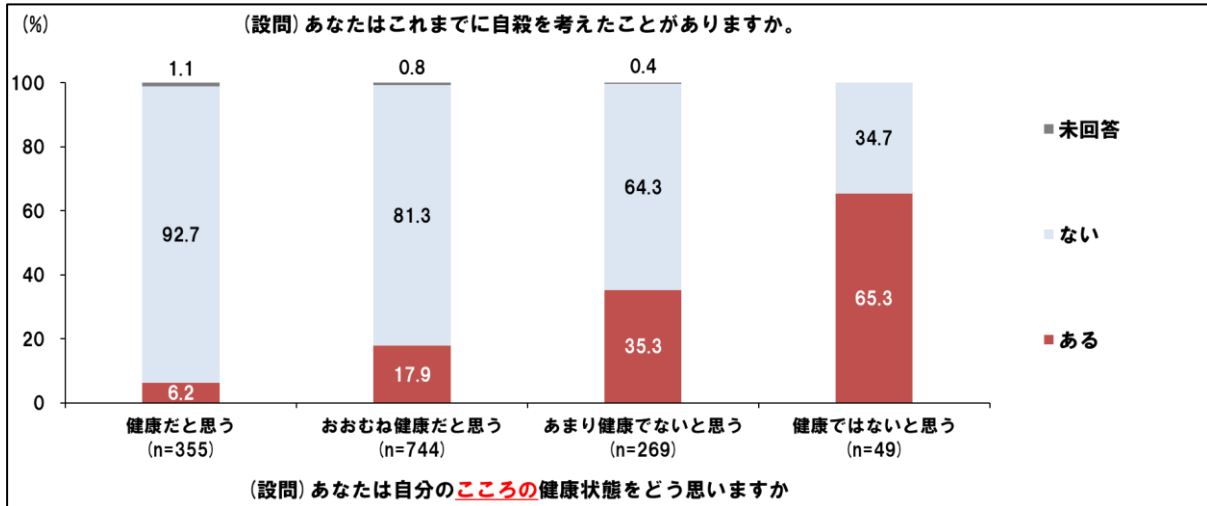
引きこもりに何らかの関わりのある人は、関わりのない人と比較して自殺を考えたことがある割合が多くなっています。こころの健康状態が最も悪い人は、65.3%が自殺を考えたことがあると回答しています。引きこもりの人や周辺に引きこもりのいる人、こころの健康状態の悪い人を把握して、対策を進めていく必要があります。

図表● 引きこもりと自殺に対する意識の関係



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和 4 年度）

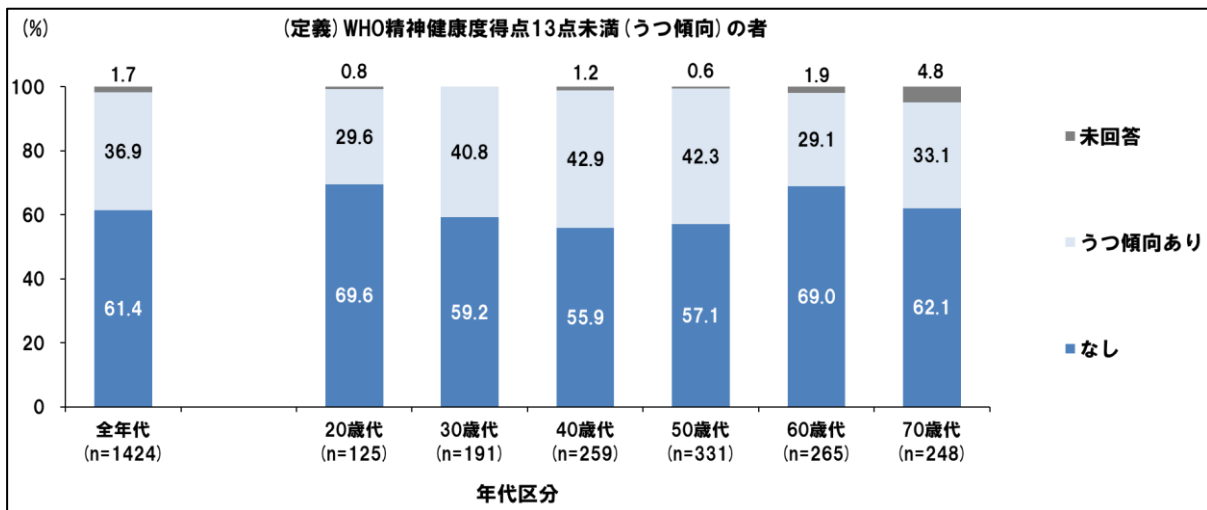
図表● こころの健康状態と自殺に対する意識



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

うつ傾向は年代別では、30～50歳代が、それ以外の年代と比較してやや多い状況です。働き世代や子育て世代に向けた支援が重要と考えられます。

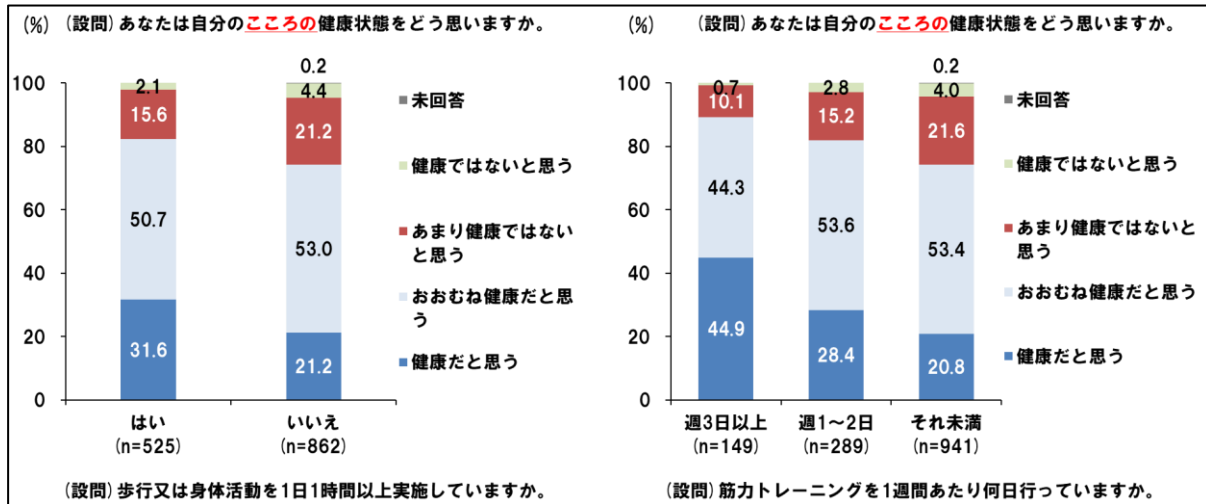
図表● うつ傾向のある者の割合（年代別）



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

歩くことを心がけている人や筋力トレーニングを行う人、運動習慣のある人は、精神健康度が高い傾向があり、運動・スポーツ習慣者の増加が、こころの健康状態の改善につながる一つの取り組みと考えられます。このように、自殺対策をその分野の中で進めることに加え、他の分野を通じて改善可能な対策を検討していくことが必要です。SWC 推進プランではまちづくりを通じて多世代の交流を育むことを目指しており、それらの交流を通じてこころの健康状態の改善を進めること等も検討を進めていきます。

図表● 歩行習慣や筋力トレーニングとこころの健康状態



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

5) 施策の展開【自殺対策計画】

課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 戸田市の性・年代別の平均自殺死亡率は、全国と比較してどの性・年代においても低い状況です。一方で市の性・年代別の自殺者割合では、男性の40～50歳代の割合が、全国と比較して多い状況となっています。その要因として職場の配置転換や人間関係、失業、過労等が要因として上げられており、職域でのこころの健康状態のケアとともに、職域を離れた際の、地域でのこころの健康状態のケアを進めていく必要があります。 ● 相談できる人が身近にいる人はそうでない人と比較して、自殺を考えたことがある割合が少なくなっています。年代別では、40歳代以降で相談できる人が、40歳未満と比較して少ない状況です。そのため地域の中で、こころの問題について、相談できる人の活動を支援していくことが重要です。 ● 相談機関の一つである、福祉保健センターの認知度は24.4%で、72.4%の人には認知されていない状況となっています。これは地理的な環境も影響すると考えられ、相談機関に加えて、より身近な地域で相談できる環境整備が重要です。 ● 歩くことを心がけている人や筋力トレーニングを行う人、運動習慣のある人は、精神健康度が高い傾向があり、運動・スポーツ習慣者の増加が、こころの健康状態の改善につながる一つの取り組みと考えられます。このように、自殺対策をその分野の中で進めることに加え、他の分野を通じて改善可能な対策を検討していくことが必要です。SWC推進プランではまちづくりを通じて多世代の交流を育むことを目指しており、それらの交流を通じてこころの健康状態の改善を進めること等も検討を進めていきます。
戸田市が目指す姿
<ul style="list-style-type: none"> ● 職域や地域でこころの健康状態がケアできるまち ● こころの健康状態について相談できる人が周りにたくさんいるまち ● 身近な地域で相談できる環境整備が整っているまち ● 運動・スポーツやまちなかでの移動や自転車利用を通じてこころの健康状態が良くなるまち
取り組み
市民が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● こころの健康状態に不安を抱えている人の相談に乗ります。 ● こころの健康状態に不安を感じたら身近にいる人や、相談機関に連絡を取ります。 ● 身体を動かすことで、睡眠の質を向上し、まちなかの移動を通じて人との交流を育みこころの健康状態を守ります。
地域(町会や自治会、市民活動団体、企業等)が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 職域と地域で市民のこころの健康状態を支えます。 ● 地域の中でこころの健康状態に不安を感じている人がいたら相談に乗ります。 ● こころの健康状態の改善につながる、地域の環境を整備します。

戸田市が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 心の健康状態に不安を感じている人を把握して対策をとります。 ● 心の健康状態に不安を感じている人を支える市民や地域を支援します。 ● まちづくりを通じて人と人の交流を育み、運動やスポーツを通じて心の健康状態を改善できるような機会を提供していきます。 <p>◆主な取り組み◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自殺対策事業 ・小中学校における心の健康学習 ・各種健康教室・イベント等での普及・啓発 <p>◆主な実施事業関係所属・関連団体等◆</p> <p>福祉保健センター・経済戦略室・福祉総務課(福祉センター・上戸田地域交流センターあいパ ル)・生活支援課・障害福祉課・教育政策室・生涯学習課(図書館・公民館)</p>
SWC 推進プランにおいて連動する主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ● 健康×まちなかウォークブルの推進 ● 健康×バイシクルシティの推進 ● 健康×ロコミによる健康情報の伝達 ● 健康×つながり ● 健康×多世代の交流

6) 目標値と評価

国や県の基本的な方向、これまでの取り組み、前計画の評価と現状分析をふまえて、以下の通り目標値を設定しています。

分野	指標	対象	現状値	目標値
休養とこころの健康	戸田市の自殺死亡率（人口 10 万人あたり）	全体	11.3	9.0
	こころの相談窓口を 1 つ以上知っている人の割合	全体	40.6	45.0
	睡眠による休養が「十分とれている」「おおむね取れている」と感じている人の割合	全体	66.7	80.0
	こころの健康状態が「健康だと思う」「おおむね健康だと思う」と感じている人の割合	全体	77.1	80.0

現状値 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和 4 年度）

5 がん対策の推進【がん対策推進計画】

戸田市では、がん対策の推進に向け以下の通り条例を定めています。

がんが市民の疾病による死亡の最大の原因となっている等がんが市民の生命及び健康にとって重大な問題となっている現状に鑑み、がん対策に関し、市、市民、保険医療関係者及び事業者の責務等を明らかにするとともに、がん対策に関する施策の基本となる事項を定めることにより、がん対策を総合的に推進し、もってがんの予防及び早期発見の推進並びにがん患者及びその家族への支援を図ることを目的とする。

また SWC 推進プランでは健康づくりに関心の低い市民に対して、情報を届けることを目指していることから、がん対策においても、がんの予防及び早期発見に関心の低い市民に対しても、自然とがんに関する知識が高まり、予防に向けた行動につながるよう、SWC 推進プランの中にごがん対策推進を位置付け一体的に進めていくことが考えられます。

がん対策推進計画においても健康増進計画等と同様に、国や県の基本的な方向、これまでの取り組みや現状分析に基づき、計画の策定を行います。

1) 国及び県の基本的な方向

(ア) 国の基本的な方向(がん対策推進基本計画)

国は、「がん対策推進基本計画」において、全体目標と分野別目標を以下の通り示しています。

本基本計画では、第3期基本計画の目標である「がんの克服」を引き続きの目標とした上で、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」を全体目標とする。また、全体目標の下に、「がん予防」、「がん医療」及び「がんとの共生」の分野別目標を定め、これらの3本の柱に沿った総合的ながん対策を推進する。

- 1.科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実～
- 2.患者本位で持続可能ながん医療の提供～
- 3.がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築～

出典「令和5年3月 がん対策推進基本計画(厚生労働省)」

(イ) 県の基本的な方向

県は、「がん対策推進基本計画」において、全体目標と分野別目標を以下の通り示しています。

がん患者を含めた全ての県民ががんに関する正しい知識を持ち、避けられるがんを防ぐことや、誰もがいつでもどこに居ても、様々ながんの病態に応じた、安心かつ納得できるがん医療や支援を受け、尊厳を持って、暮らせることを目指します。

- (1) 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- (2) 患者本位で持続可能ながん医療の提供
- (3) がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

出典「第4期埼玉県がん対策推進計画(埼玉県)」

2) 戸田市のこれまでの取り組み

分野	指標	指標に対するこれまでの取り組み
がん予防・検診	胃がん検診受診率	<ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の受診勧奨通知を発送しています。今後も継続して受診率の向上に努めていきます。 ・がん啓発イベントを行い、がんに関する知識の普及啓発を行いました。 ・受動喫煙防止イベントを行い、世界禁煙デーに合わせて受動喫煙防止啓発用マスクを配布し、禁煙週間に受動喫煙防止のパネル展示を行いました。 ・屋内禁煙実施店舗の現地調査、戸田市認定禁煙実施店の認定、いいとだマップへの掲載を行いました。 ・禁煙外来を行いました。新型コロナウイルスの影響で縮小を余儀なくされました。
	肺がん検診受診率	
	大腸がん検診受診率	
	乳がん検診受診率	
	子宮がん検診受診率	

3) 現状分析の概要

戸田市のがん検診受診率は以下の通りで、子宮頸がんは埼玉県内で最も高くなっており、乳がん、肺がん、胃がんも県平均よりも高い受診率となっています。大腸がんのみは県平均よりも低い状況です。

併せてアンケートにおけるがん検診の受診状況を掲載していますが、こちらは参考値といたします。

図表● 埼玉県と戸田市のがん検診受診率

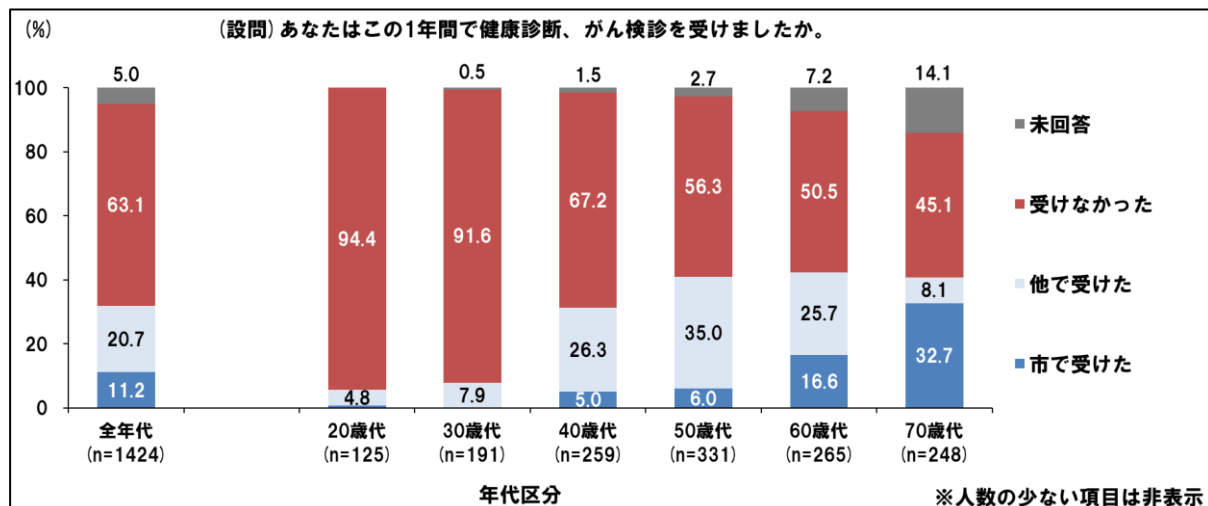
区分	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
埼玉県 (%)	6.3	5.6	6.7	13.5	13.2
戸田市 (%)	5.0	7.3	6.1	24.0	16.2
戸田市県内順位 (63 市町村中)	27	16	40	1	15

出典 令和 3 年度 市町村別がん検診受診率順位 (埼玉県)

肺がん検診及び大腸がん検診の受診について、検診を受診していない人は、「健康について、たくさん情報を得たい」について「そう思う」「少しそう思う」と回答する人の割合が少なくなっており、健診を受けていない人や検診に関心の低い人は、健康に関する情報を積極的に得ようとしない傾向がみられています。この点は肺がん検診、大腸がん検診に限らず、同様の傾向があると考えられます。そのため、関心の低い人に情報を届ける仕組みが必要です。

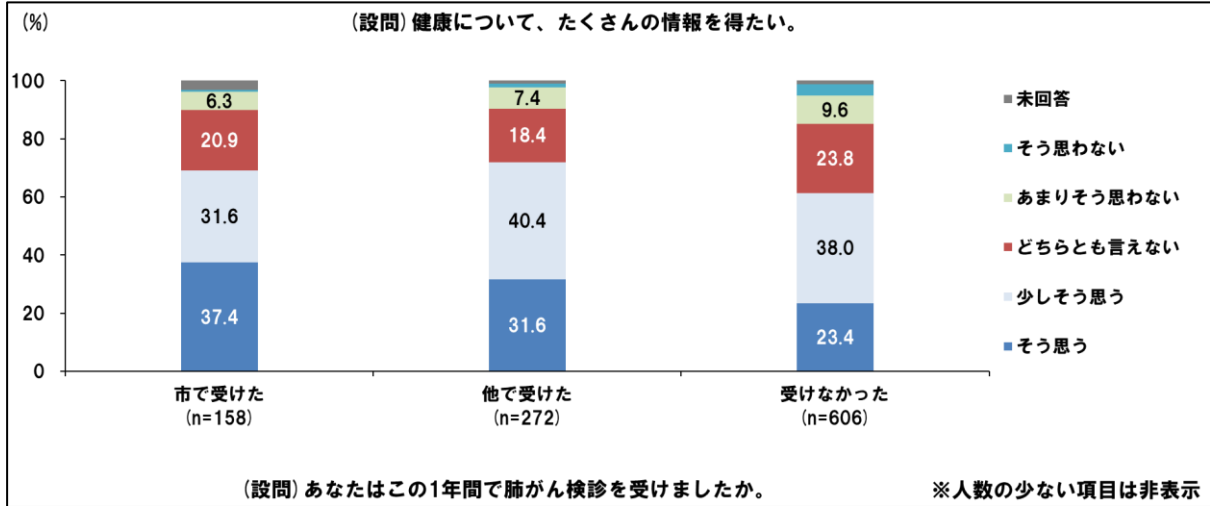
(ア) がん検診

図表● 肺がん検診受診率



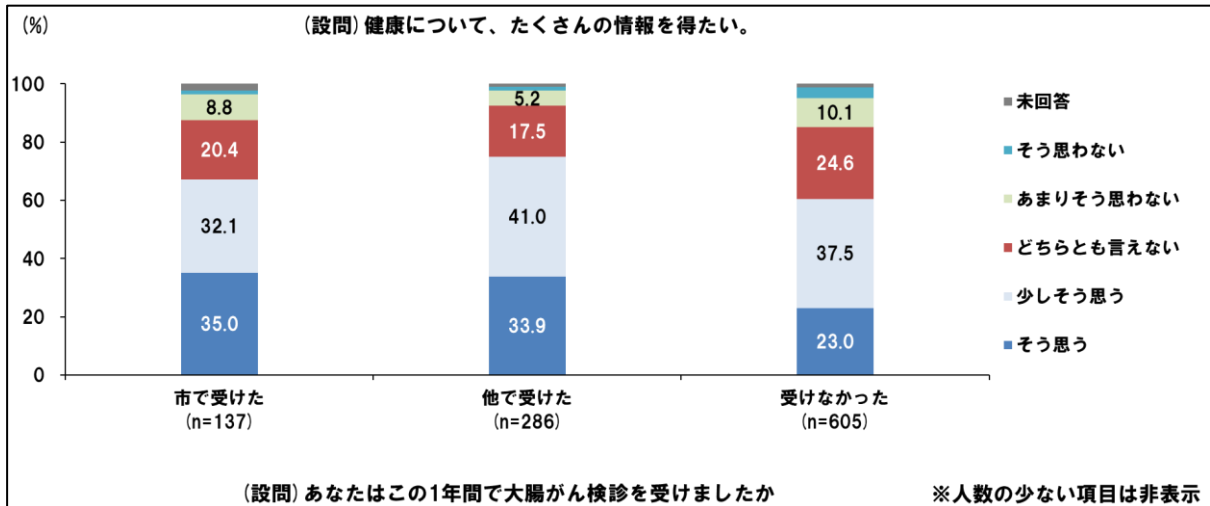
出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査 (令和 4 年度)

図表● 肺がん検診の受診と健康情報の取得※40歳以上のみ



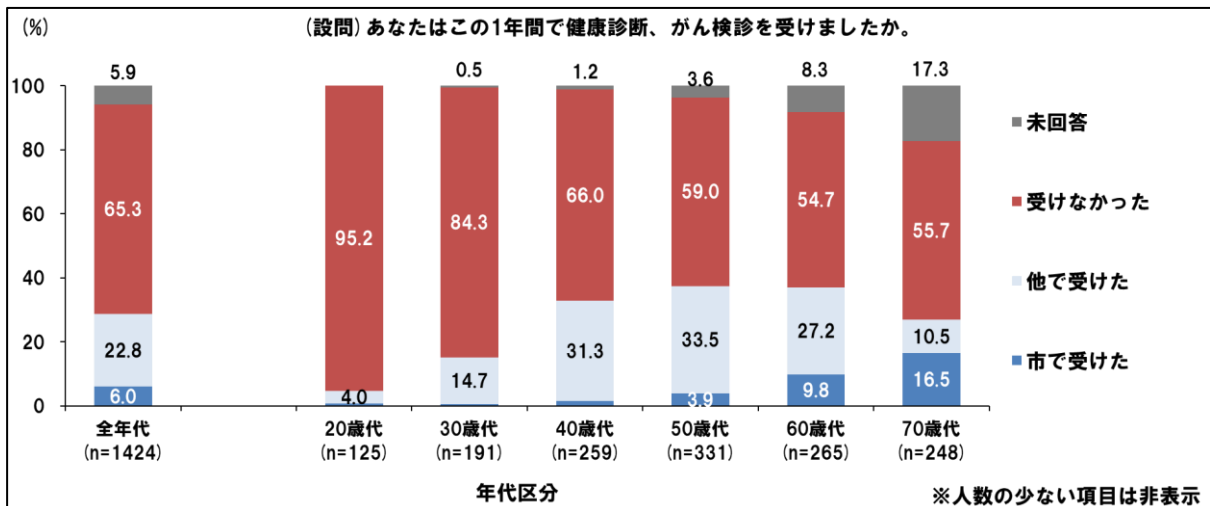
出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

図表● 大腸がん検診の受診と健康情報の取得※40歳以上のみ



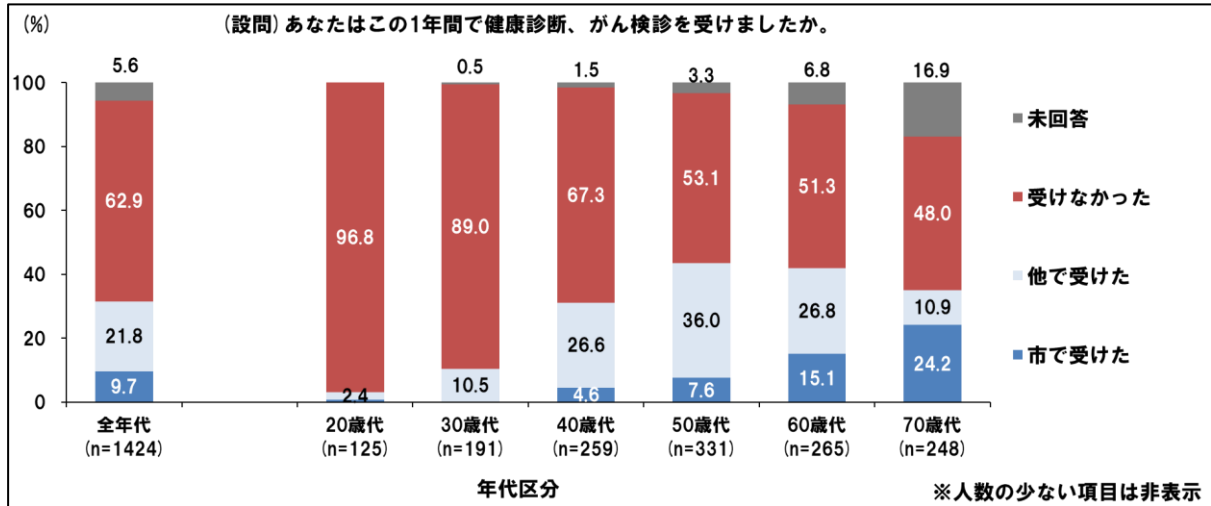
出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

図表● 胃がん検診受診率



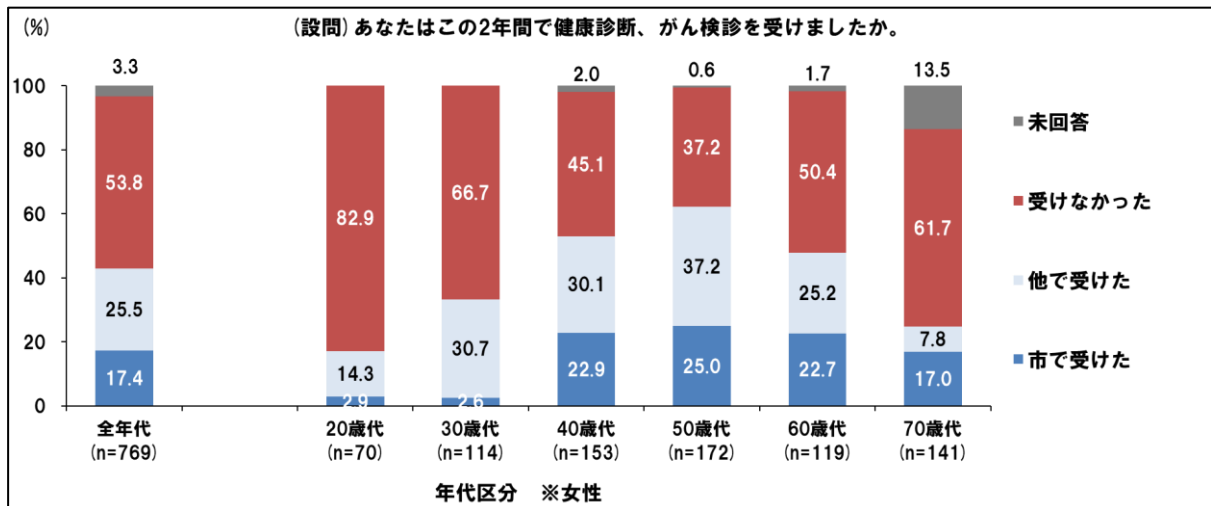
出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

図表● 大腸がん検診受診率



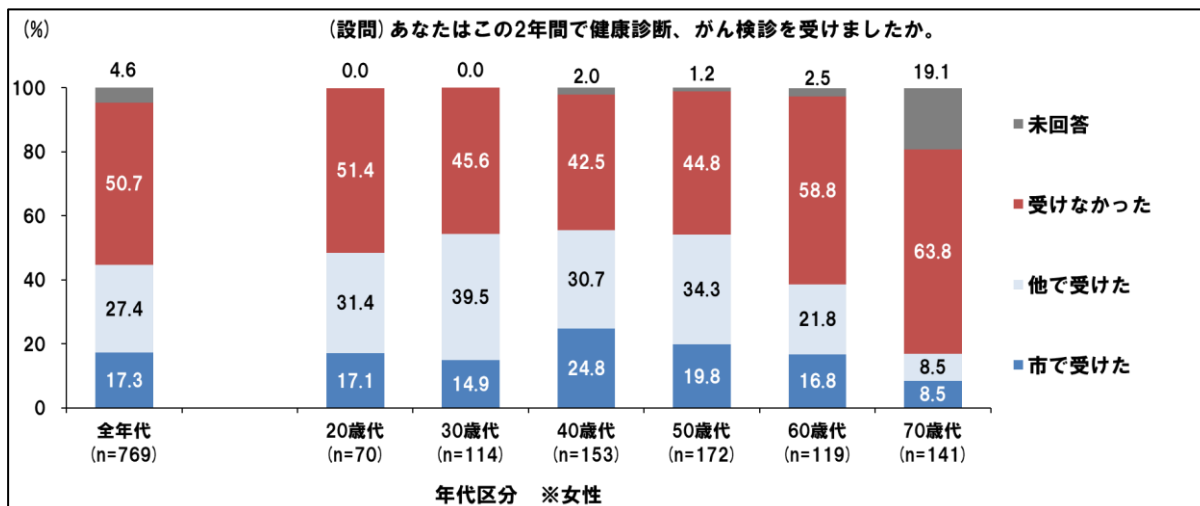
出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

図表● 乳がん検診受診率



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

図表● 子宮がん検診受診率



出典 戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）

4) 施策の展開【がん対策推進計画】

課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 戸田市は、子宮頸がんの検診率が埼玉県内で最も高くなっており、乳がん、肺がん、胃がんも県平均よりも高い受診率となっています。大腸がん検診率のみが県平均よりも低い状況です。 ● 肺がん検診及び大腸がん検診の受診について、検診を受診していない人は、「健康について、たくさんの情報を得たい」について「そう思う」「少しそう思う」と回答する人の割合が少なくなっており、健診を受けていない人や検診に関心の低い人は、健康に関する情報を積極的に得ようとしないう傾向がみられています。この点は肺がん検診、大腸がん検診に限らず、同様の傾向があると考えられます。そのため、関心の低い人に情報を届ける仕組みが必要です。
戸田市が目指す姿
<ul style="list-style-type: none"> ● がんの予防と早期発見と治療により、がんで亡くなる人の少ないまち ● 市民が、がんに関心を持ち、検診を受診する環境が整備されたまち ● がんとともに尊厳をもって安心して暮らせるまち
取り組み
市民が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 各種がんリスクの原因となる知識を理解し、がん予防に取り組みます。 ● 各種がん検診を受診し、がんの早期発見に取り組みます。 ● がん検診に関心の低い人へ、がんに関する知識を伝えます。
地域(町会や自治会、市民活動団体、企業等)が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域が関わるがんリスクの原因(受動喫煙等)の防止に取り組みます。 ● がん検診を受診する市民を支援します。 ● がん予防に関する情報を市や関係機関から受け取り、それを市民に伝えます。
戸田市が取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ● がん予防に関する知識を地域や市民に発信し、普及啓発を行います。 ● がん検診の受診勧奨を行い、がん検診の受診率を向上します。 ● がん予防の情報を伝える地域や市民を支援します。 ● がん患者の治療及び社会参加の両立を支援します。
<p>◆主な取り組み◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種がん検診 ・各種健(検)診、各種健康教室・イベント等での普及・啓発 ・医療用補正具購入費補助金、若年がん患者ターミナルケア在宅療養生活支援補助金の交付

◆主な実施事業関係所属・関連団体等◆

福祉保健センター、支援サービス提供事業者

SWC 推進プランにおいて連動する主な取り組み

- 健康×ロコミによる健康情報の伝達
- 健康×イベント
- 健康×つながり

5) 目標値と評価

国や県の基本的な方向、これまでの取り組み、前計画の評価と現状分析をふまえて、以下の通り目標値を設定しています。

分野	指標	単位	対象	現状値	目標値
がん予防・検診	胃がん検診受診率	%	40歳以上	37.7	50
	肺がん検診受診率	%	40歳以上	41.5	50
	大腸がん検診受診率	%	40歳以上	41.2	50
	乳がん検診受診率	%	40歳以上	50.0	60
	子宮がん検診受診率	%	20歳以上	46.9	60

※当初値の出典は戸田市健康づくりに関する市民アンケート調査（令和4年度）による